

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第245集

SHIMOSHIBAMIYA
下芝宮遺跡VI

長野県佐久市長土呂下芝宮遺跡 第VI次調査

2017.3

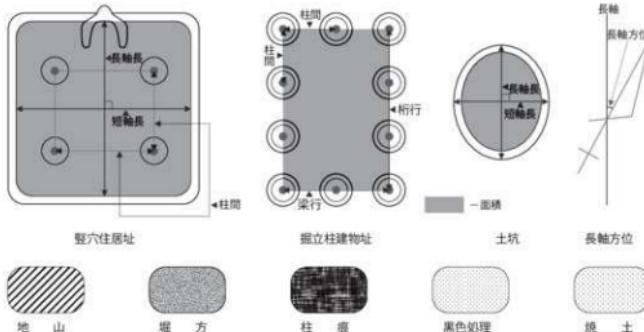
佐久市教育委員会

例　　言

- 1 本書は長野県佐久市に所在する下芝宮遺跡の第VI次発掘調査報告書である。
- 2 調査は上橋秀治・井出喜代子・井出仁志・柳澤秀樹が行う集合住宅建設工事に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
- 3 遺跡名及び所在地　　芝宮遺跡群　下芝宮遺跡VI（N S S M）佐久市長土呂下芝宮7 8 1-5他
- 4 調査期間及び面積　　発掘調査：平成28年3月1日～5月30日
整理：平成28年5月31日～平成28年12月20日
調査面積 1,906m²
- 5 本書に掲載した地図は佐久市発行の都市計画図（1:2,500）、佐久市教育委員会作成の遺跡詳細分布図（1:5,000）である。
- 6 本書に掲載した遺構図は、簡易取り方測量で作成したものを、Adobe Illustratorでデジタルトレースを行った。
- 7 遺物実測図は手取りでを行い、Adobe Illustratorでデジタルトレースを行った。
- 8 遺構・遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、Adobe Photoshopで補正等を行った。
- 9 本書の編集はAdobe InDesignで行った。
- 10 本書の作成・編集は小林が行った。
- 11 本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　　例

- 1 遺構の略記号は竪穴住居址—H、掘立柱建物址—F、土坑—D、溝址—M、ビット—Pである。
- 2 掘図の縮尺は遺構 1/80、遺物 1/4 を基本とする。これ以外ものは掘図中のスケールを参照されたい。
- 3 遺構の海拔標高は、遺構毎に統一し、水系標高をスケール上に「標高」として記してある。また、土層の色調には1999年版「新版 標準土色帖」に基づいた。
- 4 遺物挿図番号・遺物写真番号・遺物観察表番号は一致する。
- 5 調査区グリッドは公共座標の区割りにしたがい、間隔は4 m × 4 mで設定した。
- 6 遺構の計測値は下図に示した部分の測定値である。面積は床面積、壁残高は最大値である。
- 7 掘図中における網掛は以下の表現である。例言・凡例



目 次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査体制	1
第3節 遺跡周辺の環境	2
1. 遺跡の地理的環境	2
2. 遺跡の歴史的環境	3
3. 基本層序	4
第4節 検出遺構・遺物の概要	4
第Ⅱ章 遺構と遺物	4
第1節 住居址	4
H 1号住居址	4
H 2号住居址	5
H 3号住居址	9
H 4号住居址	9
H 5号住居址	9
H 6号住居址	15
H 7号住居址	15
H 8号住居址	15
H 9号住居址	16
H 10号住居址	19
H 11号住居址	19
H 12号住居址	20
H 13号住居址	22
H 14号住居址	25
H 15号住居址	25
H 16号住居址	26
H 17号住居址	31
H 18号住居址	31
第2節 土坑	32
D 1号土坑	32
D 2号土坑	33
D 3号土坑	33
D 4号土坑	34
D 5号土坑	34
D 6号土坑	34
D 7号土坑	34
D 8号土坑	34
D 9号土坑	34

D 10 号土坑	34
D 11 号土坑	34
D 12 号土坑	34
D 13 号土坑	38
D 14 号土坑	38
D 15 号土坑	38
D 16 号土坑	38
D 17 号土坑	38
第3節 溝址	38
M 1号溝址	38
第4節 掘立柱建物址	40
F 1号掘立柱建物址	40
F 2号掘立柱建物址	40
F 3号掘立柱建物址	40
F 4号掘立柱建物址	40
F 5号掘立柱建物址	40
F 6号掘立柱建物址	40
第5節 ピット	42
第6節 遺構外出土遺物	42

写真図版

- PL 1 H 1～H 3号住居址
- PL 2 H 3～9号住居址
- PL 3 H 10～13号住居址
- PL 4 H 13～15号住居址
- PL 5 H 16～18号住居址、M 1号溝址
- PL 6 M 1号溝址、D 5～10・14号土坑
- PL 7 D11～13・15号土坑、F 1～5号掘立柱建物址、全景
- PL 8 H 1号住居址出土遺物(1)
- PL 9 H 1号住居址出土遺物(2)、H 2号住居址出土遺物、H 3号住居址出土遺物(1)
- PL10 H 3号住居址出土遺物(2)、H 4・5号住居址出土遺物
- PL11 H 6・7・8・11号住居址出土遺物、H 9号住居址出土遺物(1)
- PL12 H 9号住居址出土遺物(2)、H 10・12号住居址出土遺物
- PL13 H 13～15号住居址出土遺物
- PL14 H16・17号住居址出土遺物
- PL15 H 18号住居址出土遺物、M 1号溝址出土遺物、土坑出土遺物、ピット出土遺物
遺構外出土遺物

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 調査の経緯

下芝宮遺跡は過去に5回の発掘調査が行われ、古墳時代から平安時代の集落遺跡であることが明らかとなっている。今回発掘調査を実施した地籍は、平成21年に今回の調査範囲の大部分を占める部分に開発計画が立てられ、佐久市教育委員会が試掘調査を実施し、大規模な集落跡であることが確認されている場所である。平成27年7月29日、柳澤秀樹・土橋秀治・井出仁志・井出喜代子はこの試掘調査範囲を包括する地籍に集合住宅を建設するため、文化財保護法第93条第1項及び文化財保護法施行令第5条第2項の規定に基づく届出を長野県教育委員会に行った。これを受け佐久市教育委員会は平成27年8月26・27日に試掘調査が実施されていない山林部分を対象に試掘調査を実施し、竪穴住居址等の遺構群を検出した。保護協議を重ねた結果、遺跡の破壊が避けられないことが明らかとなった切土部分及び道路部分1,906m²について記録保存のための発掘調査を実施することになった。平成27年12月8日に埋蔵文化財発掘調査契約を締結し3月1日～10日の期間に山林部分の150m²について発掘調査を行った。農地転用等の許可をまち平成27年4月8日に再度埋蔵文化財発掘調査契約を締結し、5月30日まで発掘調査を実施した。また、同年5月31日～年12月20日の期間整理作業を行い、本書を刊行した。

第2節 調査体制

平成27年度

調査主体者	佐久市教育委員会	教 育 長	棚澤晴樹
事 務 局	社会教育部	部長	山浦俊彦
	文化振興課	課長	小林 聖
		企画幹	三石 建
	文化財調査係	係長	大塚広樹
		係	小林真寿 富沢一明 上原 学
			神津一明 生島修平
調査担当者	富沢一明 小林真寿		

平成28年度

調査主体者	佐久市教育委員会	教 育 長	棚澤晴樹			
事 務 局	社会教育部	部長	荻原幸一			
	文化振興課	課長	三石 建			
		企画幹	小林登志朗			
	文化財調査係	係長	大塚広樹			
		係	小林真寿 富沢一明 上原 学			
			神津一明 生島修平			
		臨時職員	森泉かよ子			
調査担当者	小林真寿					
調 査 員	赤羽根 篤 加藤ひろ美 木内 修一 橋詰 勝子	赤羽根允江 小林喜久子 清水 律子 橋詰 信子	浅沼 勝男 小林 妙子 副島 充子 花岡美津子	甘利 隆雄 小林 敏雄 田中ひさ子 林 やみ	飯森 成英 磯貝 律子 中沢 登 堀籠 滋子	岩松 茂年 岩崎 重子 羽毛田利明 堀籠 保子

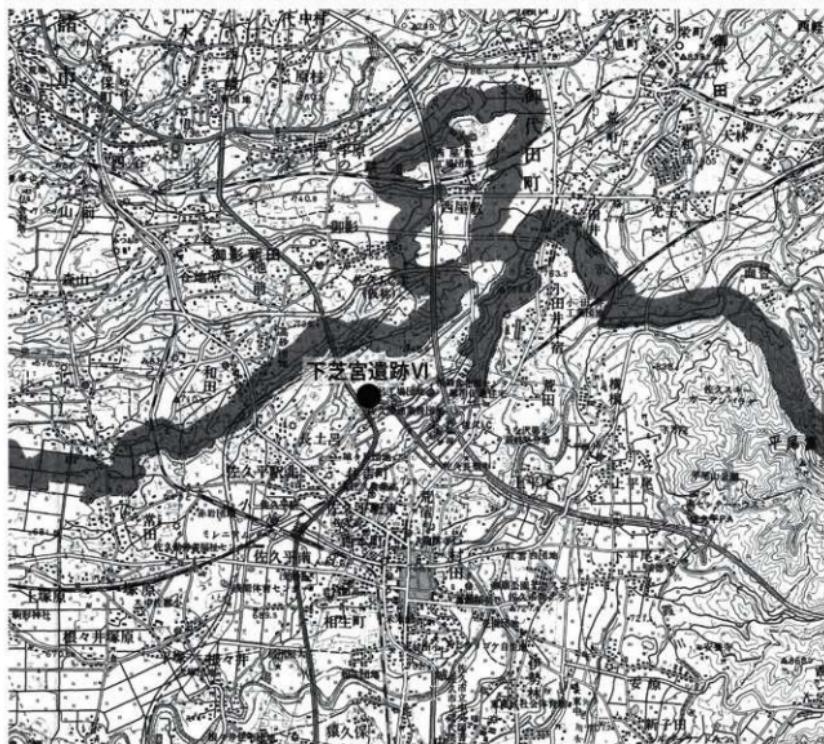
宮川真紀子 柳澤 孝子 柳澤千賀子 山口ひとみ 山田 叔正 横尾 敏雄
油井 満芳 依田 好行

第3節 遺跡周辺の環境

1 遺跡の地理的環境

佐久平の北部は、浅間山の火山噴出部により厚く覆われ、雄大な山麓を形成している。この山麓は火山噴出物の堆積層という性格上、水の各種作用を受けやすく、大小様々な峡谷や「田切り地形」と呼ばれる帶状台地と帶状低地の交互地形が見られる。

今回調査を実施した下芝宮遺跡も北西と南東を田切り谷に挟まれた、標高734m前後の台地上に展開している。台地上には湧水、河川等は認められないため、生活水は田切り谷を流れる小川に依存していたものと推測される。また、この谷に侵食された遺構も確認されることから、集落形成時にはこの谷は現在よりも

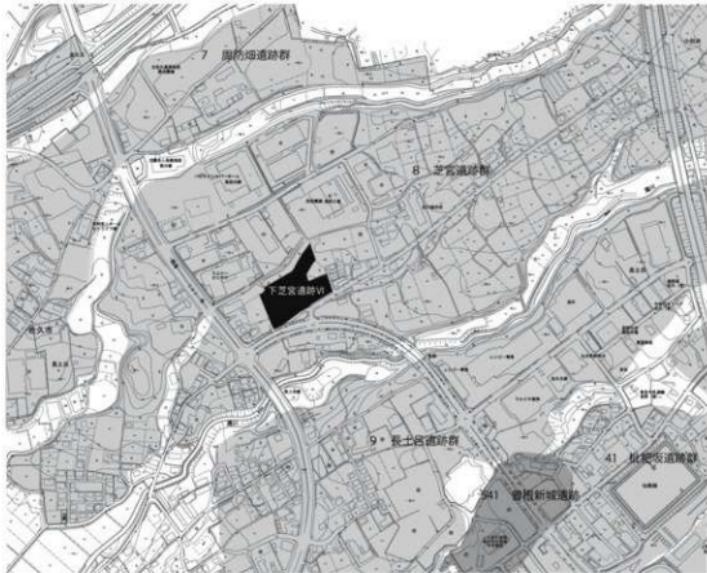


第1図 下芝宮遺跡VIの位置 (1:50,000)

小規模であったものと考えられ、水路による集落への生活水の供給も可能であったかもしれない。

2 遺跡の歴史的環境

下芝宮遺跡を包括する芝宮遺跡群は、佐久市北部に展開する。田切り谷を挟んで南東には長土呂遺跡群が、北西には周防畠遺跡群が存在する。浅間火山の噴出物が11,000年ほど前に形成した堆積層がこの付近を広く厚く覆っているため、旧石器時代の遺跡は確認されていない。縄文時代に入ると周防畠遺跡群若宮遺跡IVなどで早期の押型文土器が散見されるようになる。前期・中期の遺跡は発見されていないが、後期に入ると西近津遺跡群に集落が出現するようになる。今回の調査では中期後半の土器片が数点出土しているが、遺構は確認されていない。弥生時代の遺跡は、周防畠遺跡群や西近津遺跡群の南部の標高710m以下の地域に展開しており、当遺跡群では発見されていない。この地域で人々の活動が俄かに活発になるのは古墳時代後期7世紀に入ってからであり、所謂「計画集落」が大規模に展開するようになる。その代表的な存在は長土呂遺跡群の聖原遺跡であり、900軒の堅穴住居址、800棟の掘立柱建物址が調査された。また、山梨県の古代の地名が記された甲斐型土器の「佛鉢」や石製の私印等の希少遺物の出土などから、「佐久郡衙」の有力地として捉える意見も多い。当遺跡群も聖原遺跡と遜色ない規模の計画集落であり、長野県埋蔵文化財センターの長野自動車道の調査や、佐久市が行った調査により多くの遺構・遺物が発見されている。このような状況は周防畠遺跡群でも同様であり、周防畠遺跡群内の渋右工門地籍出土の布目瓦の存在もあり、この地域をめぐる「佐久郡衙」や「古東山道」関係の論説は絶えない。何にせよ、近年の発掘では周防畠遺跡群から多くの「大井」刻書・墨書き土器が出土したり、南下北原遺跡から「刑部仁丸」の墨書き土器が出土し、こ

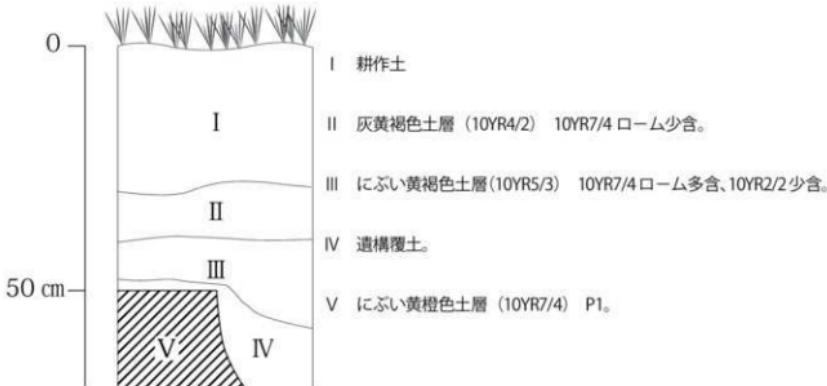


第2図 周辺遺跡分布図

の地域の重要性は更に深まっている。

3 基本層序

基本層序は第3図のとおりである。浅間火山の火碎流の堆積層であるV層(P1)が所謂「地山」であり、その上面で遺構検出は行った。部分的ではあるが、V層の上層として黒褐色土層(10YR2/2)の堆積が存在する。この層は低地部分に堆積したもので、砂粒を含む部分もある。遺構はその上面で確認出来る。



第3図 基本層序模式図

第4節 検出遺構・遺物の概要

検出された遺構・遺物の概要是以下のとおりである。

- 遺構—竪穴住居址 18軒、掘立柱建物址 6棟、土坑 17基、溝址 1条、ピット 468基
- 遺物—縄文土器、土師器、須恵器、石器・石製品、鉄器

第II章 遺構と遺物

第1節 住居址

●H 1号住居址（第4・5図）

ひ31グリッドで検出された。北方向に調査区外にのびるため、全容は不明である。N-20°-Eに長軸方位をとり、長軸長(3.22 m)、短軸長(2.81 m)、壁残高 0.58 m、面積(9.92m²)の規模である。平面形態は長方形で、長方形に均等配置されるP1～P4の4基のピットが主柱穴であり、柱はφ 20cm前後である。

南壁下中央に位置する P6 は出入口関連の施設であろう。P1 北に位置する P5 の性格は不明である。北東、北西隅を含む北壁下以外には周溝が巡らされている。カマドは焚口部分を石組みし、地山削り出しの袖と共に粘土で被覆するものであるが、焚口部分の石が抜き取られ破壊されていた。掘方の観察から、主柱は掘方埋設後、張床構築前に掘られていることが判明した。覆土は自然堆積である。

遺物は、カマド西脇と東壁下中央付近からまとめて出土している。縄文土器、土師器、石器・石製品が認められる。縄文土器は 6 片の破片資料であるが、同一個体の可能性が高い。時期的には前期が推測される。土師器には环、鉢、甕、壺、甑の器種が認められる。环（1）は内外面にヘラミガキ調整が施されるもので黒色処理は認められない。半球状の形態である。甕は大（6・7）・中（4・5）・小（3）の法量に区分できる。3 や 5 のように胴部に最大径を有するものと、その他の口縁部に最大径を有する者が存在する。器面調整は外面ヘラケズリ、内面ヘラナデを基本とする。壺（8～10）は外反する口縁部から肩が強く張り出し、球形の体部を形成するもので、ヘラナデ→ヘラミガキ調整が施される。甑には大（12）、小（11）の法量がある。大は底部全体が開口するもので、口縁部に最大径を有し、底部や上部に 2 箇所の円孔が穿たれている。刷毛目→ヘラミガキ調整が施される。小は底部に 8 ヶの小孔が穿たれるもので、外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ調整が施される。石器は黒曜石製の打製石鏃、川原石を用いた編物石が出土している。石鏃は縄文土器に伴うものである。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期 7 世紀第 I 四半期の所産と考えられる。

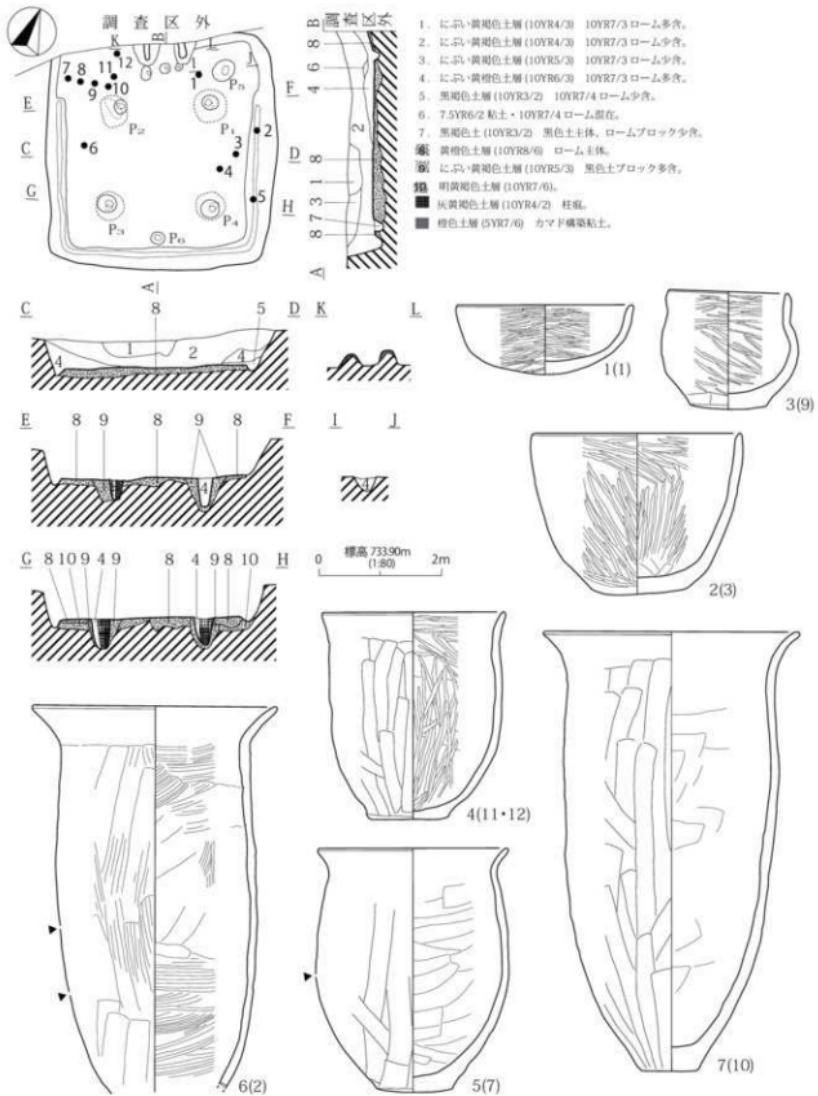
H 1 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量			成形・調整		備考	出土層位	
			口径(直径)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内面	外面		
1	土師器	环	14.6	—	5.7	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	No1
2	土師器	鉢	17.3	7.6	13.2	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	No3
3	土師器	甕	9.6	6.3	9.7	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No9
4	土師器	壺	15.1	6.9	17.0	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ	完全実測	No11・12・カマド
5	土師器	甕	15.6	6.2	20.0	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No7・II 区
6	土師器	甕	20.1	—	<32.0>	—	ハケ目	ハケ目・ヘラナデ	完全実測	No2・II・III・IV 区
7	土師器	甕	21.0	4.6	—	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No10・II 区・カマド
8	土師器	壺	16.1	9.1	22.7	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラナデ→ヘラミガキ	完全実測	No5
9	土師器	壺	17.9	8.2	29.1	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラナデ→ヘラミガキ	回転実測	No7
10	土師器	壺	19.9	8.2	30.0	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラナデ→ヘラミガキ	完全実測	No6・IV 区
11	土師器	甑	13.8	4.8	8.0	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ	完全実測	No8
12	土師器	甑	20.2	10.9	21.2	—	ハケ目→ヘラミガキ	ヘラミガキ・穿孔 2ヶ所	完全実測	No3・4
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	口縁部、後削か？	破片実測・拓本	III 区	
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文	破片実測・拓本	ケン	
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文、縄文	破片実測・拓本	II 区	
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文、縄文	破片実測・拓本	IV 区	
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文	破片実測・拓本	IV 区	
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	沈線文	破片実測・拓本	II 区	
19	石器	石鏃	1.8	1.3	0.25	0.32	黒曜石	完全実測	IV 層	
20	石器	編物石	10.8	6.4	3.4	323.39	側面に挟り・端部に使用痕	完全実測	II 区	
21	石器	編物石	12.3	7.3	2.8	378.89	2ヶ所に使用痕	完全実測	III 区	

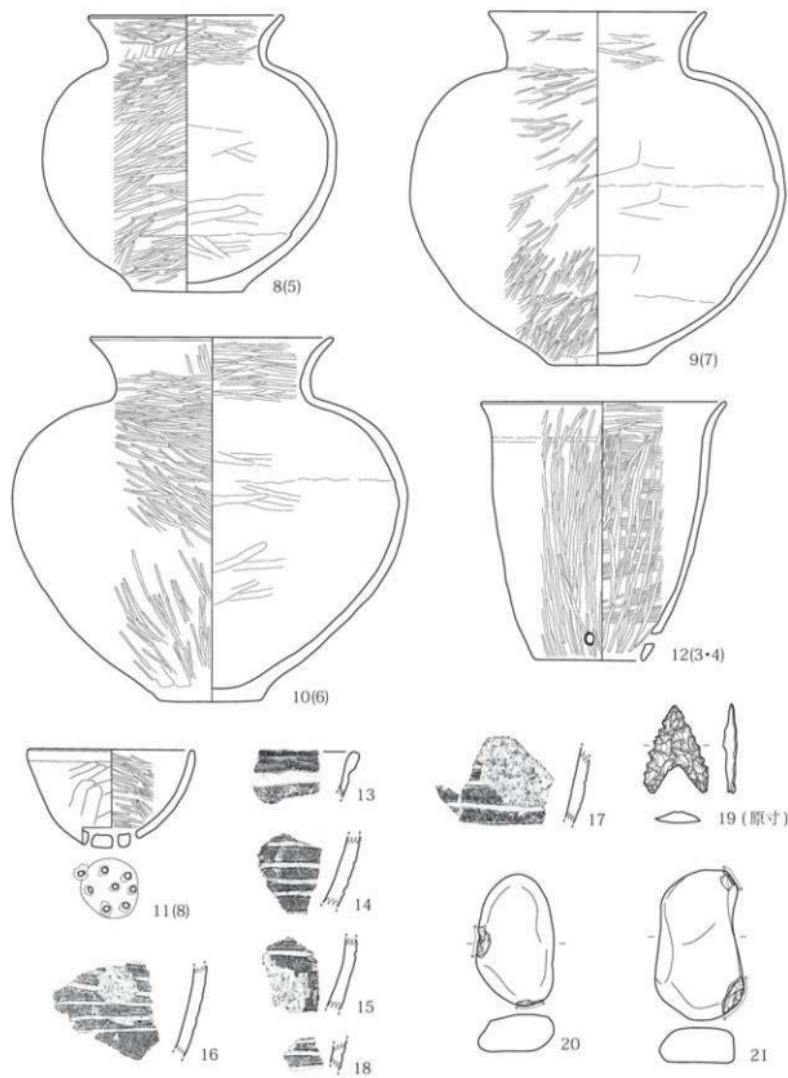
● H 2 号住居址（第 6 図）

し 15 グリットで検出された。南方向に調査区外にのびるため、全容は不明である。D17 号土坑に切られる。壁残高 0.61 m 以外の規模は不明である。平面形態は長方形と思われる。2 基検出されたピットの内、P2 は主柱穴と思われる。柱痕が検出出来なかつたため柱の規模も不明である。カマドはカマドは焚口部分を石組みし、地山削り出しの袖と共に粘土で被覆するものであるが、焚口部分及び支脚の石が抜き取られ破壊されていた。周溝はカマド部分を除く壁下に巡らされていた。覆土は自然堆積である。

遺物は縄文土器、土師器、石器が出土している。縄文土器は中期後半加曾利 E 系の破片で、深鉢の体部である。土師器には环と甕の器種が認められる。环（1）は内外面ヘラミガキ調整後、内面には黒色処理が施



第4図 H1号居住址(1)



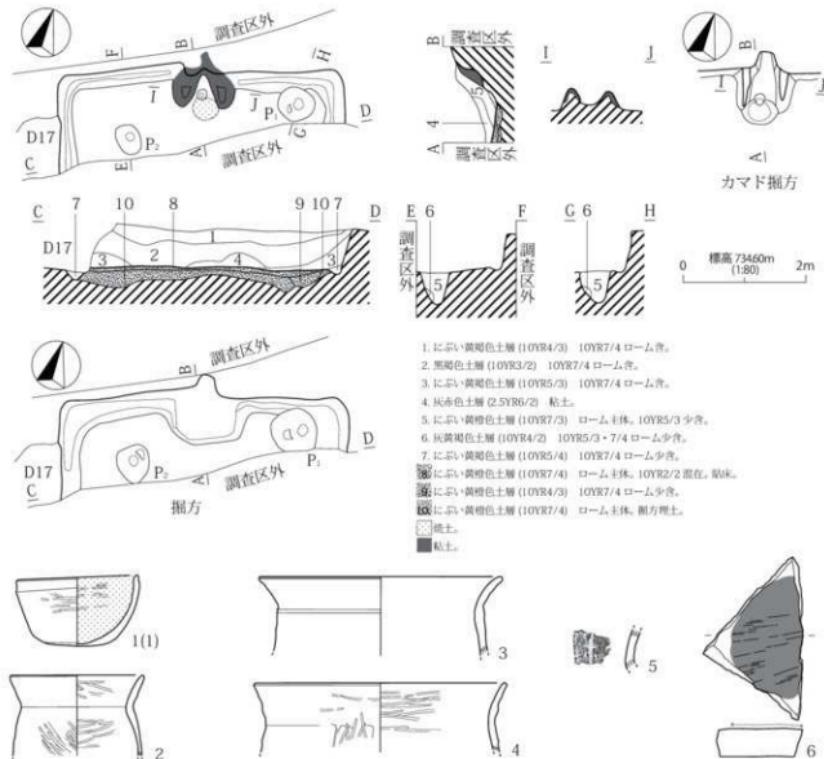
第5図 H 1号住居址 (2)

されている。甕は小型(2)のものと大型(3・4)の法量のもの認められる。何れも口縁部に最大径を有している。石器は砥石(6)が1点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期後7世紀第I四半期の所産と考えられる。

H 2号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量			成形・調整		備考	出土層位	
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	(重量)	内面			
1	土師器	壺	10.0	5.2	5.6	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	No1
2	土師器	甕	(11.0)	—	<6.6	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	I区・II区
3	土師器	甕	(20.0)	—	<6.5	—	摩耗	摩耗	回転実測	I区
4	土師器	甕	(20.4)	—	<5.7	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ→ヘラケズリー	回転実測	P2
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本	I区
6	石器	砥石	13.3	8.2	2.3	300.88g	磨り面	—	完全実測	II区



第6図 H 2号住居址

●H 3号住居址（第7図）

し11グリットで検出された。M1号溝址に切られる。北側と南側が調査区外にのびるため全容は不明である。また、住居址の北壁は、田切り谷により侵食されている。そのため、壁残高0.32m以外の規模は不明である。2基検出されたピットは何れも主柱穴である。調査範囲内にはカマドは存在しなかった。壁下には周溝が巡っている。覆土は自然堆積である。

遺物は繩文土器、土師器、須恵器、石器が出土している。繩文土器は中期後半の深鉢型土器の口縁部破片である。土師器には环（1）、甕（3・4）、壺（5～7）、甑（8）の器種が認められる。环は内外面ヘラケズリ調整後、内面に黒色処理が施されている。半球状の形態である。甕は口縁部に最大径を有し、外面にはヘラケズリ、内面にはナデ調整が施される。壺は外反する口縁部と、球形の体部を有する。H1号住居址出土ものは肩が強く張り出しているが、本例は肩が張り出さない。ヘラナデ→ヘラミガキ調整が施される。甑は把手が付く大型のもので、底部が開口する。内外面共にヘラミガキ調整が施される。須恵器环はロクロから回転ヘラ切りにより切り離されており、内外面に火擣が認められる。混入遺物と考えられる。石器は、川原石を用いた編物石が2点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期6世紀末～7世紀初頭の所産と考えられる。

H 3号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法 量		成形・調整		備考	出土層位		
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)				
1	土師器	环	14.0	—	4.8	—	ヘラミガキ→黒色処理	摩耗	完全実測	No4・M1
2	須恵器	环	(13.4)	(8.8)	3.5	—	ロクロナデ・火擣	ロクロナデ→底部ヘラケズリ・火擣	回転実測	ケン
3	土師器	甕	18.6	—	<27.7>	—	摩耗	摩耗	完全実測	ケン・M1
4	土師器	甕	—	—	<13.0>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	II区
5	土師器	壺	16.1	—	<7.7>	—	口縁ヘラミガキ・体部ナデ	ヘラミガキ	完全実測	No2
6	土師器	壺	21.3	7.2	30.6	—	ヘラミガキ・摩耗	ヘラミガキ・摩耗	完全実測	No3・M1
7	土師器	壺	—	—	<9.8>	—	ヘラミガキ	摩耗	完全実測	No5・I区
8	土師器	瓶	23.6	9.2	29.2	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	No1・I区
9	繩文土器	深鉢	—	—	—	—	沈殿	破片実測・拓本	II区	
10	石製品	輪物石	10.2	7.6	3.5	385.59	片側に挟り	完全実測	ケン	
11	石製品	輪物石	13.1	6.9	3.3	390.06	片側に挟り	完全実測	ケン	

●H 4号住居址（第8図）

う6グリットで検出された。東方向に調査区外にのびるため全容は不明である。調査範囲内では他遺構との重複関係は認められない。壁残高0.56m以外の規模は不明である。調査範囲にはピット及びカマドは存在しなかった。壁下には周溝が巡っている。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器と鉄器が出土している。土師器は鉢であり、内外面にヘラミガキ調整後、内面に黒色処理を施している。鉄器は長茎鐵の鍔身部の破片である。

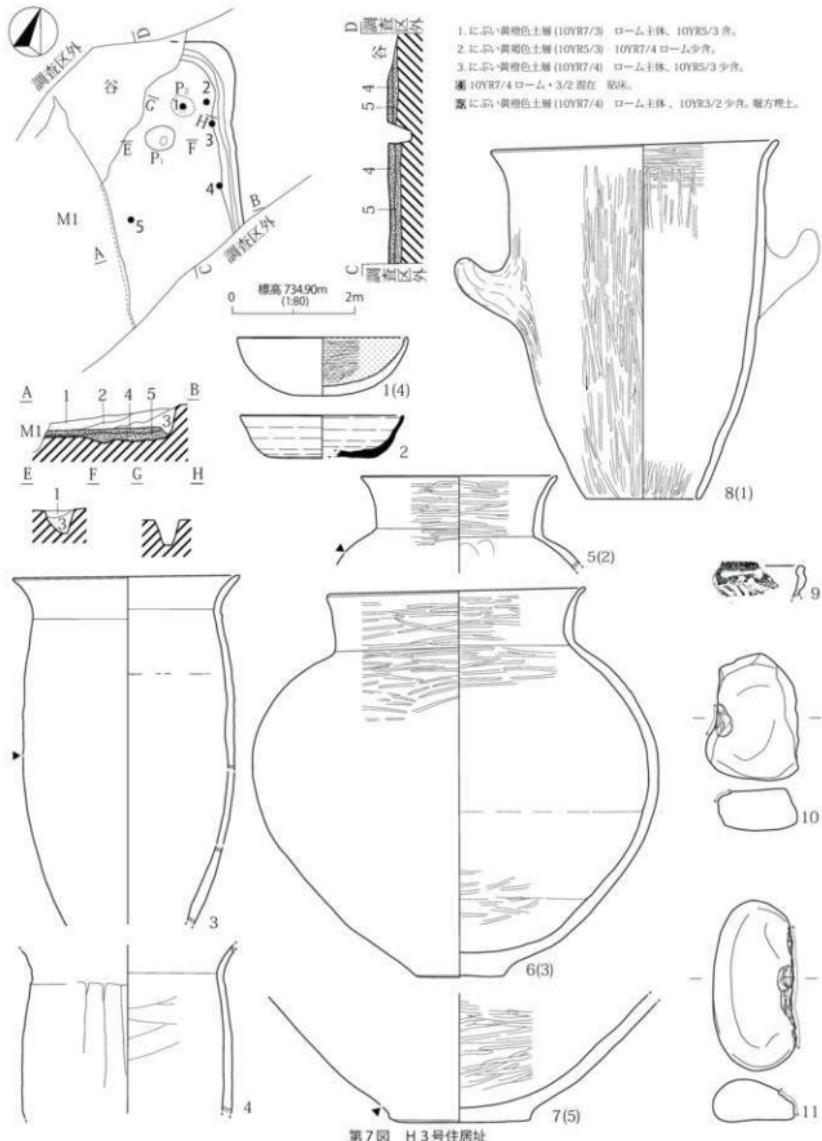
以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期7世紀第Ⅰ四半期の所産と考えられる。

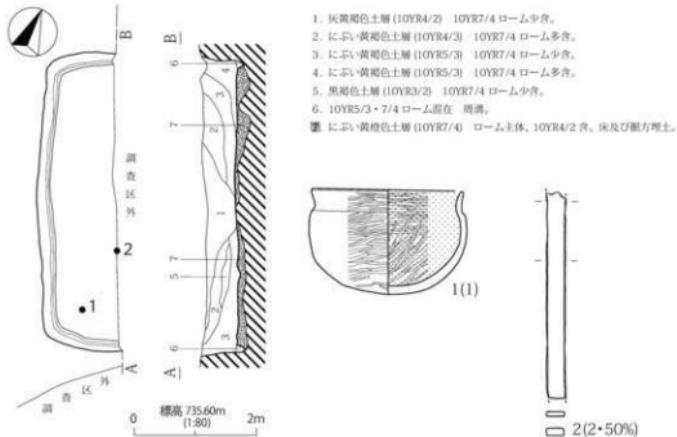
H 4号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法 量		成形・調整		備考	出土層位		
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)				
1	土師器	鉢	12.5	—	8.6	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	No1
2	鉄器	長径鐵	<8.5>	<10.8>	<0.4>	<11.57>	鍔身部・茎部欠損	完全実測	No2	

●H 5号住居址（第9・10図）

う8グリットで検出された。南東方向に調査区外にのびるため全容は不明である。調査範囲内においては





第8図 H4号住居址

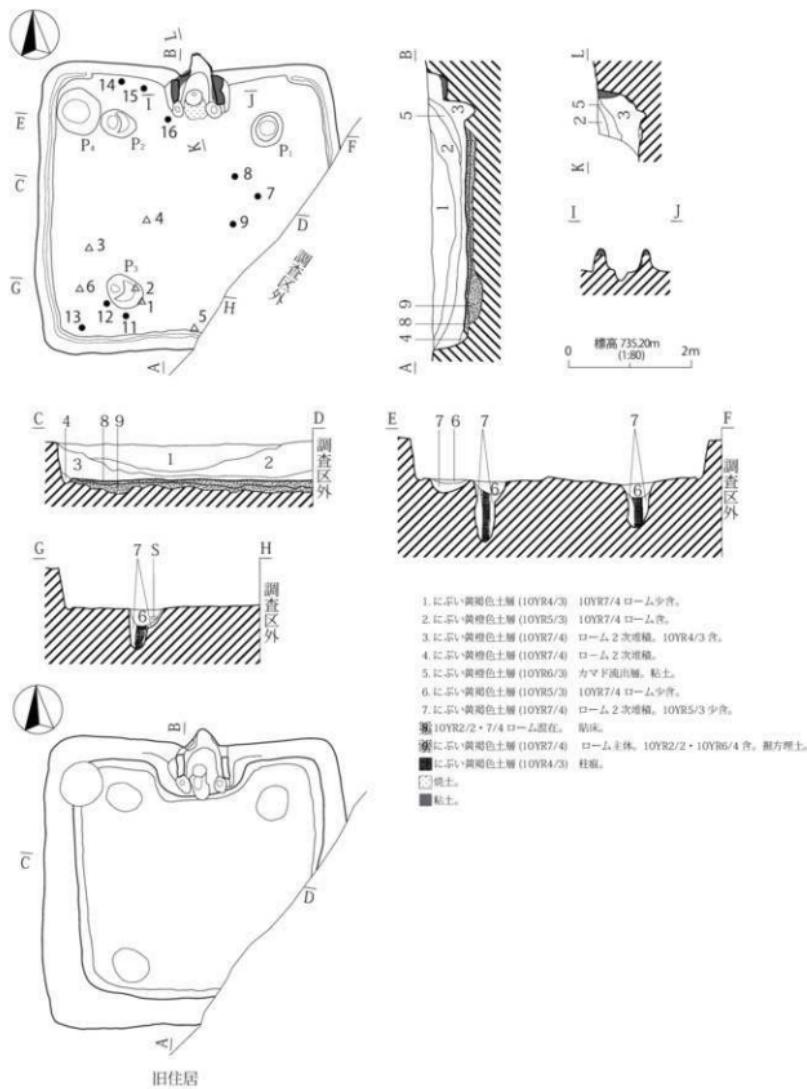
他遺構との重複関係は有さない。正方形の平面形態を呈し、N-4°-Wに長軸方位をとる。長軸長（4.21m）、

短軸長（3.87m）壁残高0.55m、面積（17.86m²）の規模である。長方形に均等配置されるであろうP1～P3の3基のピットが主柱穴であり、柱はφ14cm前後である。北西隅に位置するP4は貯蔵穴である。カマドは北壁中央に検出された。焚口部分を石組みし、地山削り出しの袖と共に粘土で被覆するものであるが、焚口部分及び支脚石が抜き取られ破壊されていた。カマド付近を除く壁下には周溝が巡っている。掘方の調査により本址は、カマドを起点として拡張された住居址であることが判明した。

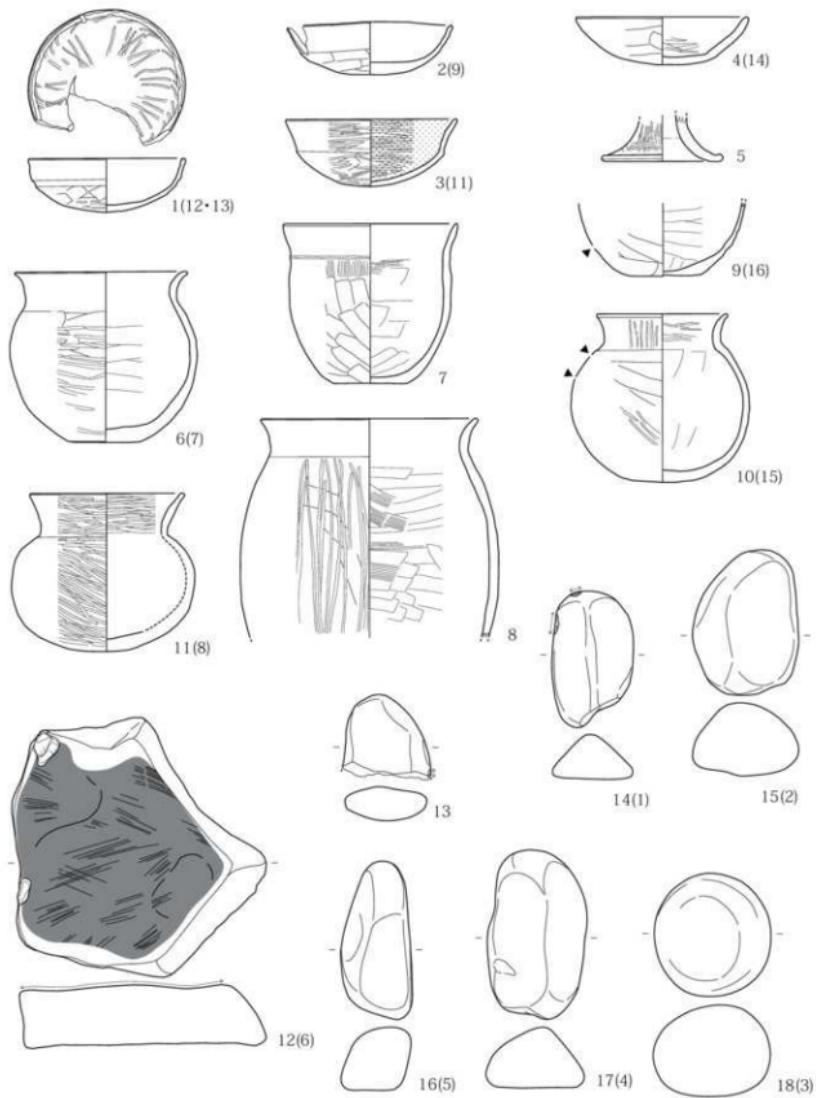
遺物は土師器と石器が出土している。土師器には壺（1～4）、高壺（5）、甕（6～9）、壺（10・11）の器種が認められる。壺は1が所謂「有段口縁壺」であり、内面にはヘラミガキではなく、粗い放射暗文

H5号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量	内面	外面		
1	土師器	壺	12.9	11.4	4.4	—	暗文	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No12・13
2	土師器	壺	13.5	11.4	4.3	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ	完全実測	No9
3	土師器	壺	14.1	12.1	5.5	—	ヘラミガキ→黒色処理?	ヘラミガキ→黒色処理?	完全実測	No11・Ⅲ区
4	土師器	壺	14.2	8.1	3.9	—	ヘラミガキ	ヘラケズリ	完全実測	No14
5	土師器	高壺	—	9.5	<3.8>	—	ナデ	ヘラミガキ	完全実測	I区
6	土師器	甕	14.2	6.1	14.0	—	ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No7・I区
7	土師器	甕	(14.4)	(6.0)	13.1	—	ハゲ目→ヘラナデ	ハゲ目→ヘラケズリ	回転実測	I区・カマド
8	土師器	甕	(17.8)	—	<17.9>	—	ハナナデ?	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	I区・P1
9	土師器	甕?	—	6.1	<6.0>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No16・カマド
10	土師器	壺	10.8	—	13.8	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No15
11	土師器	壺	12.7	—	12.9	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	No8
12	石器	台石	21.3	20.8	5.6	3405	正面に使用面	—	完全実測	No6
13	石器	編物石	<7.0>	<7.2>	<3.2> <161.61>	下部欠損・側面に抉り	—	—	完全実測	IV区
14	石器	編物石	11.1	6.6	3.8	355.28	端面に使用痕	—	完全実測	No1
15	石器	編物石	11.9	8.7	6.0	544.16	—	—	完全実測	No2
16	石器	編物石	12.9	5.9	5.2	590.68	—	—	完全実測	No5
17	石器	編物石	13.9	8.2	5.2	845.76	—	—	完全実測	No4
18	石器	磨石	10.1	9.6	7.6	983.70	全体に磨り	—	完全実測	No3



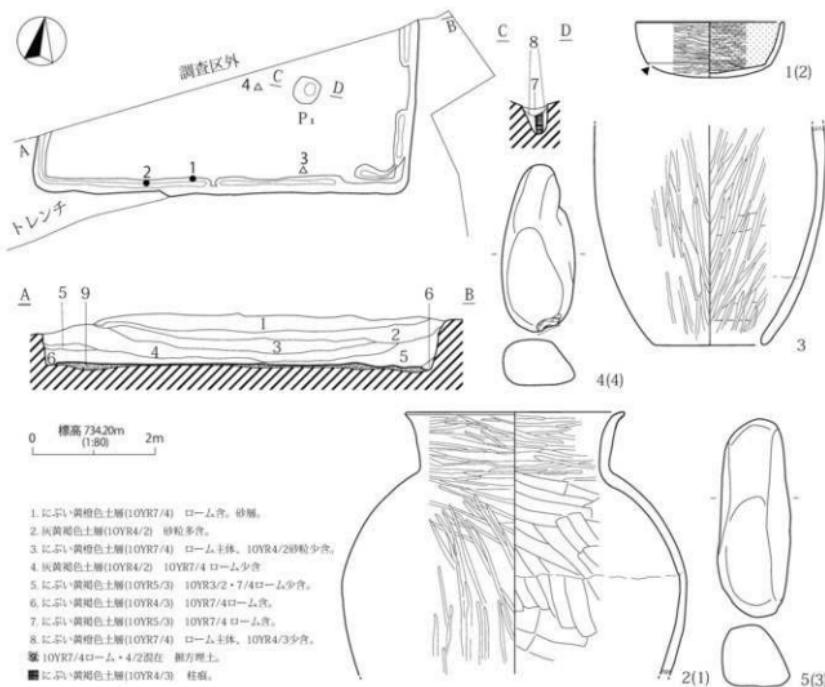
第9図 H 5号住居址(1)



第10図 H5号住居址(2)

が施される。他のものは体部と口縁部の境に稜を形成するもので、外面へラケズリ、内面へラミガキ調整を基本とする。黒色処理は3のみ施されている。高环は脚部裾部分のみの破片である。壺には小と大の法量が認められる。小型の6は鉢としたほうが良いのかもしれない。7は口縁部に最大径を有し、下地調整に刷毛状工具を使用している。大型の8は体部に最大径を有する。外面にはヘラケズリ後に、粗いヘラミガキを施している。内面は刷毛状工具によるナデ調整が施されている。壺は2点共に小型のもので外反する口縁部と、球形の体部を有する。内外面共にヘラミガキ調整が施されている。石器は扁平な川原石を利用した砥石(12)、同じく川原石を用いた編物石(13~17)、磨石(18)が認められる。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期6世紀末~7世紀初頭の所産と考えられる。



第11図 H 6号住居址

H 6号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法 星			成形・調整		備考	出土層位
			口径(楕)	底径(短)	高(厚)	(重量)	内面		
1	土師器	环	(12.2)	(10.2)	4.6	—	ヘラミガキ→黒色處理	ヘラミガキ	回転実測
2	土師器	壺	(18.0)	—	<21.5>	—	ヘラナデ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測
3	土師器	壺	—	(9.6)	<18.0>	—	ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	覆土
4	石器	編物石	13.5	6.0	4.1	373.32	端部に使用痕	—	完全実測
5	石器	編物石	16.2	6.0	5.0	682.20	—	—	完全実測

● H 6 号住居址（第 11 図）

か 17 グリットで検出された。北方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.75 m 以外の規模は不明である。調査範囲内では他遺構との重複関係は認められなかった。床面上で 1 基検出されたピットは主柱穴であり、φ 13cm の柱痕が確認された。カマドは調査範囲には存在しない。壁下には周溝が巡っている。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器と石器が出土している。土師器には壺（1）、壺（2）、甑（3）の器種が認められる。壺は外面へラミガキ調整後、内面に黒色処理が施されている。壺は大型のもので外反する口縁部と、球形の体部を有する。内面口縁部と外面にへラミガキ調整が、内面体部にはへラナデ調整がほどこされている。甑は大型で、底部が開口する形態で内外面共にヘラケズリ後にへラミガキ調整が施されている。石器は川原石を用いた編物石が 2 点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期 6 世紀末～7 世紀初頭の所産と考えられる。

● H 7 号住居址（第 12 図）

え 20 グリットで検出された。東方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.67 m 以外の規模は不明である。調査範囲内では他遺構との重複関係は認められなかった。西南隅から南壁下には周溝が巡らされている。また、主柱に向かい壁下から間仕切りと思われる溝のがびている。床面上で 2 基検出されたピットの内、南側の間仕切り溝に連結するピットは主柱穴であり、φ 22cm の柱痕が確認された。調査範囲内にはカマドは存在しなかった。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器と鉄器が出土している。土師器には鉢（1）、甕（2）、壺（3）の器種が認められる。鉢は外面がヘラケズリから粗いへラミガキ調整が、内面はへラミガキ調整後、黒色処理が施されている。甕は口縁部に最大径を有し、外面へラケズリ、内面へラナデ調整が施されている。壺は口縁部が広く、頸部であまりすぼまらない器形を呈する。内外面にへラミガキ調整が施されている。鉄器は刃部を欠損する刀子が 1 点出土した。

H 7 号住居址出土遺物観察表

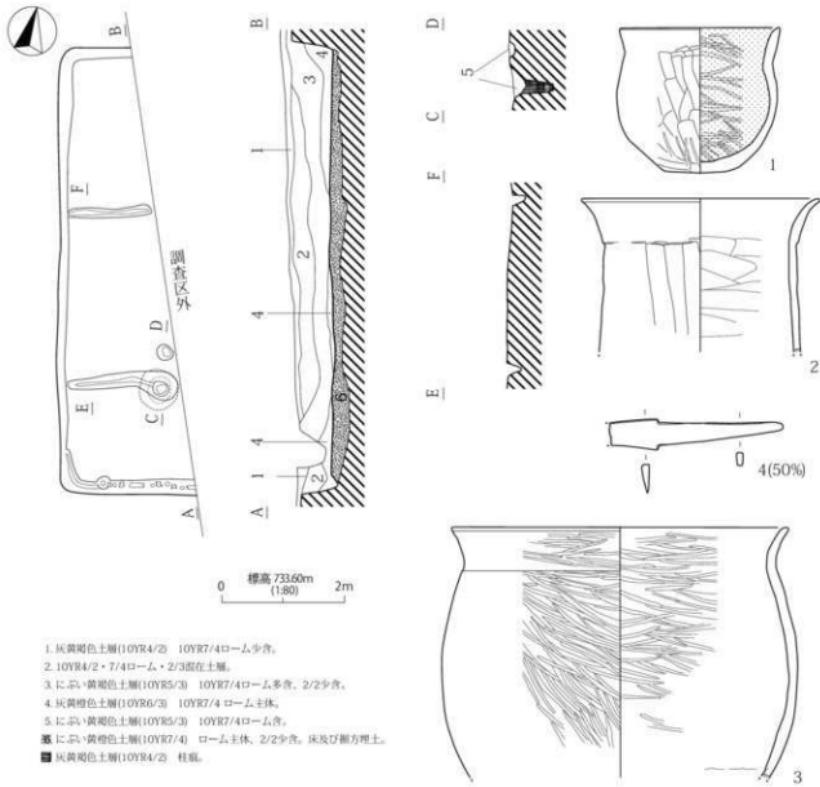
No.	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(幅)	底径(基)	高さ(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	土師器	鉢	13.2	5.9	11.9	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ→へラミガキ	完全実測	覆土
2	土師器	甕	(19.6)	—	<12.6>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	覆土
3	土師器	壺	(27.6)	—	<20.5>	—	へラミガキ	へラミガキ	回転実測	覆土
4	金属製品	刀子	<7.2>	1.3	<0.3>	<7.28>	刃部欠損		完全実測	覆土

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期 7 世紀第 1 四半期の所産と考えられる。

● H 8 号住居址（第 13 図）

う 24 グリットで検出された。F 3 号掘立柱建物址、P 345、P 474 に切られる。正方形の平面形態で、N = 38° - E に長軸方位をとる。長軸長 2.88 m、短軸長 2.73 m、壁残高 0.24 m、面積 8.60m² の規模を有する。北壁下を除き周溝が巡るが、南壁下は壁下ではなく内回りである。床面上、掘方から計 4 基のピットが検出されたが、主柱は判然としない。カマドは北壁中央部分に構築されており、石芯を粘土で被覆していたものと思われるが、石が抜かれ破壊されていた。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器、須恵器、鉄器が出土している。土師器は 2 点共に壺（1・2）であるロクロ成型で、内面はへラミガキ後黒色処理が施される。底部が残存する 1 は右回転の糸切痕が残されており、判読はできないが、体部には墨書が認められる。須恵器は甕（3）の体部片で外面に平行叩目、内面には当具痕が認められ



第12図 H7号住居址

る。鉄器は4が刀子、5は器種は不明である。4の刀子は茎部に木質が残存している。

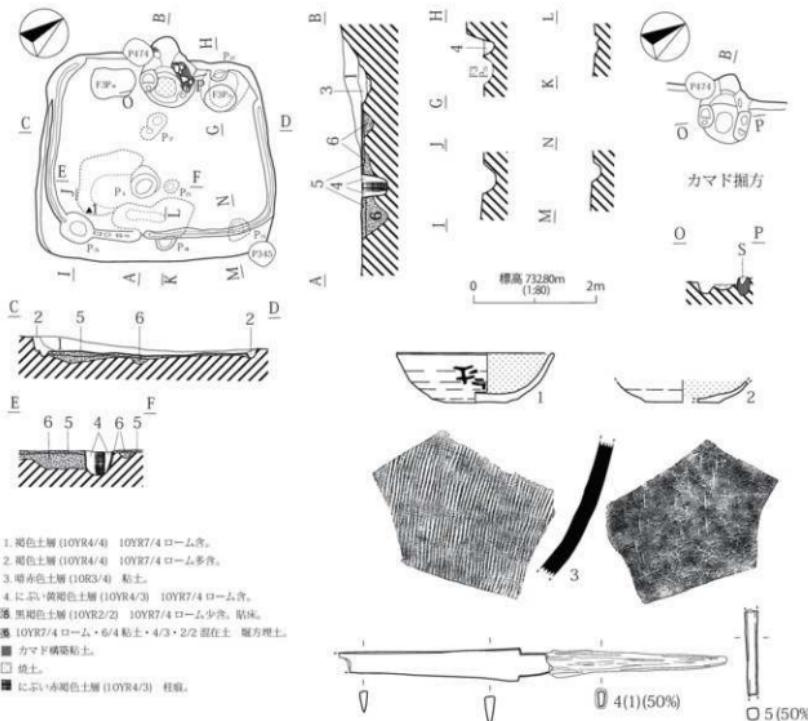
H8号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量	内面	外面		
1	土器器	壺	(13.0)	(5.0)	4.1	—	ヘラミガキ→黒色処理	右回転糸切・墨書き「?」	回転実測	I区
2	土器器	壺	—	(6.2)	<1.8>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転実測	カマド
3	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	平行司目	破片実測	I区
4	鉄器	刀子	<16.0>	1.3	<0.7>	<18.44>	刃部欠損、木質残る	—	破片実測	No1
5	鉄器	不明	<3.5>	<0.5>	<0.5>	<3.17>	両端欠損	—	破片実測	II区

以上の出土遺物の特徴から本址は平安時代10世紀前半の所産と考えられる。

●H9号住居址（第14・15図）

ひ28グリットで検出された。西方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高0.31m以外の



第13図 H8号住居址

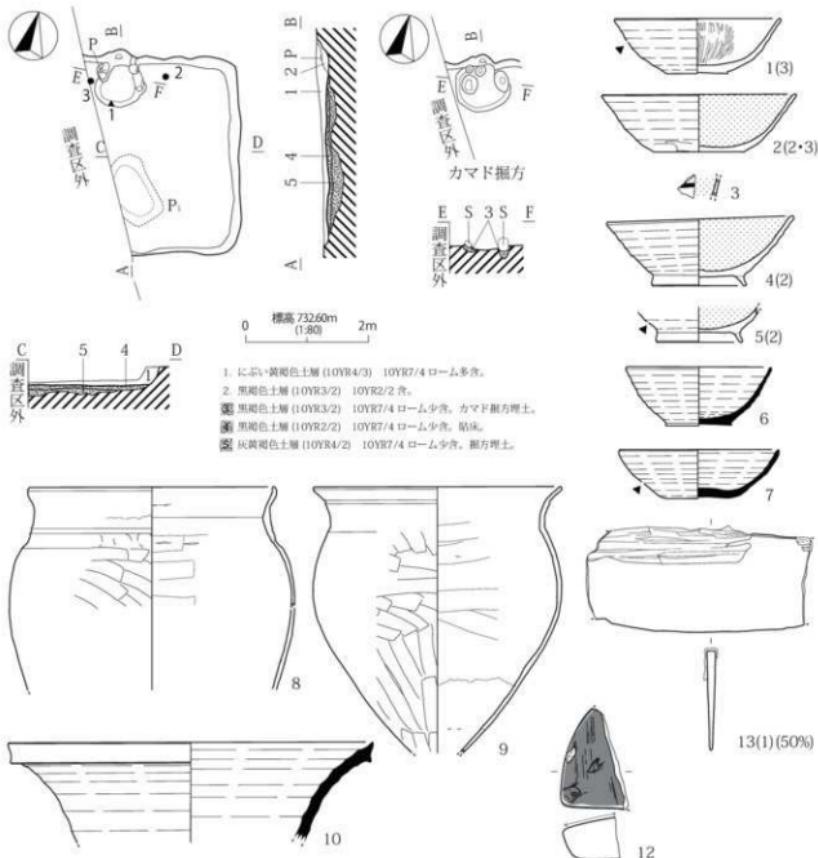
規模は不明である。P449を切っている。ピットは掘方から1基検出されているが性格は不明である。カマドには北壁の中央に構築されているが、破壊されていた。石芯を粘土で被覆していたものと思われる。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器、須恵器、石器、鉄器が出土している。土師器には環（1・2・3）、碗（4・5）、甕（8・9）の器種が認められる。环は内面ヘラミガキ後黒色処理を基本とし、底部は1が右回転糸切痕を残すに対し、2は底部周縁を含めた範囲にヘラケズリを加え糸切痕を消している。3は墨書きが認められるが、判読できない。碗も环同様に内面はヘラミガキ後黒色処理が施されている。ロクロからの切り離しは回転糸切で、その後高台を貼付している。甕は武藏甕で、外面ヘラケズリ、内面ナデ調整が施されている。口縁部は「コ」字である。須恵器には环（6・7）と甕（10・11）の器種が認められる。环は2点共に底部に回転糸切痕を残す。甕は10が広口甕の口縁部片、11は大型の甕の肩部分の破片である。10は内外面ロクロナデが、11は外面に平行叩目、内面には当具痕が認められる。石器は12の磨石が1点出土している。鉄器は背部分に木質が残る器種不明品が1点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は平安時代9世紀前半の所産と考えられる。

H 9号住居址出土遺物観察表

No.	器種	四形	法 口徑(長) 底径(短)	器高(厚)	(重量)	成形・調査		備考	出土層位
						内面	外面		
1	土師器	環	(13.7)	5.0	4.5	ヘラミガキ	右回転糸切	完全実測	No3・II区
2	土師器	環	(16.0)	(7.4)	4.7	ヘラミガキ→黒色処理	底部・周縁ヘラケズリ	回転実測	No2・No3・I区・N区・カマド
3	土師器	環	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	墨青??	破片実測	I区
4	土師器	碗	15.4	7.6	5.5	ヘラミガキ→黒色処理	右回転糸切付高台	完全実測	No2・カマド
5	土師器	碗	-	6.9	<2.9>	ヘラミガキ→黒色処理	回転糸切	完全実測	No3
6	須恵器	環	(12.0)	(5.4)	4.8	ロクロナデ	右回転糸切	回転実測	I区・カマド
7	須恵器	環	(13.2)	5.0	4.0	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	カマド
8	土師器	甕	(20.4)	-	<16.6>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	カマド
9	土師器	甕	(20.4)	-	<21.8>	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	カマド
10	須恵器	甕	(30.0)	-	<8.2>	ナデ	ナデ	回転実測	カマド
11	須恵器	甕	-	-	-	同心円文、具当痕	平行印凹・外面に自然輪付着	破片実測・拓本	IV区・カマド
12	石器	磨石	<8.3>	<5.6>	<3.8>	<210.6>	片側欠損・磨り面	完全実測	IV区
13	鉄器	不明	<9.2>	<4.4>	<0.6>	<48.68>	両端欠損か、木質残る	完全実測	No1



第 14 図 H 9号住居址 (1)

H 10 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(幅)	底径(縦)	器高(厚)	(重量)	内面	外面		
1	土師器	甕	11.4	7.0	13.2	—	ハケ目	ハケ目→ヘラケズリ	完全実測	カマド
2	土師器	甕	21.8	6.7	33.1	—	ハケ目	ハケ目→ヘラケズリ	完全実測	No1・II区・カマド
3	土師器	壺	—	—	—	—	ヘラナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	破片実測	覆土

● H 10 号住居址 (第 16 図)

と 26 グリットで検出された。H 11 号住居址を切る。南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.51 m 以外の規模は不明である。カマドは北壁中央に構築されていた。所謂「地山削出」の構造であるが、焚口部分の石は抜き取られていた。カマドを除く壁下には周溝が巡らされていた。床面及び掘方からもピットは検出されなかった。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器が 3 点出土している。器種的には甕 (1・2) と壺 (3) が認められる。1 は小型の甕で、内面ハケメ、外面ハケメ→ヘラケズリ調整が施される。2 は大型の甕で、調整は 1 と同様である。1 は体部に、2 は口縁部に最大径を有する。3 は壺の底部である。内面ヘラナデ、外面ヘラケズリ→ヘラミガキ調整が施される。外面に認められるヘラの痕跡が、文字等のような意図的なものなのか否かは判断できない。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期第 7 世紀第 I 四半期の所産と考えられる。

● H 11 号住居址 (第 17 図)

て 25 グリットで検出された。H 10 号住居址、P 473 号ピットに切られる。正方形の平面形態で、N - 14° - E に長軸方位をとる。長軸長 4.53 m、短軸長 4.49 m、壁残高 0.45 m、面積 22.25 m² の規模である。カマド部分と、北西隅以外の壁下には周溝が巡らされる。P1 から P4 の 4 基のピットが主柱穴と思われるが、柱痕は確認できなかった。南壁下中央の P10・11 の 2 基のピットは出入口に関連する施設と思われるが、北西隅の P13 ~ 15 の 3 基のピットで構成される部分も出入口の可能性が否定できない。カマドは所謂「地山削出」の構造であるが、石が全て抜き取られ破壊されていた。覆土は人為埋土ないし、人為的に攪拌された土の二次堆積土である。



H 9 号住居址 (2)

遺物は土師器、石器が出土した。土師器には壺（1～3）、甕（4）の器種が認められる。壺は全て内外面ヘラミガキ調整で、内面には黒色処理が施される。甕は口縁部に最大径を有するもので、内面口縁部にハケメ、体部にナデ、外側はヘラケズリご粗いヘラミガキ調整が施されている。石器（5～7）は川原石を用いた編物石が3点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期6世紀末～7世紀初頭の所産と考えられる。

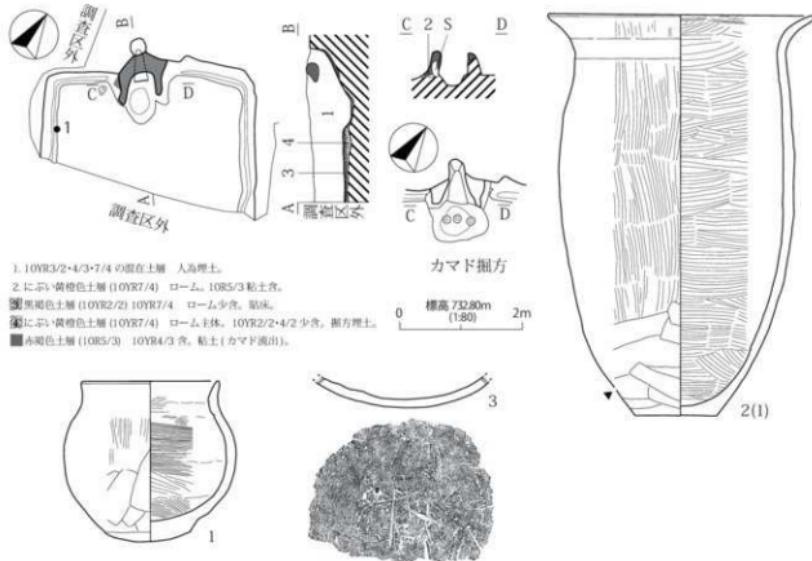
H 11号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法 量			成形・調整		備考	出土層位	
			口径(幅)	底深(短)	株高(厚)	(重量)	内 面	外 面		
1	土師器	壺	(10.9)	—	5.3	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	Ⅲ区・
2	土師器	壺	(15.4)	—	<3.9>	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	回転実測	Ⅲ区・P11
3	土師器	甕	(16.0) (10.0)	4.4	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	摩耗	回転実測	Ⅲ区・カマド・P5
4	土師器	甕	(20.2)	—	<21.6>	—	口縁ハケ目? 体部ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	No1・Ⅱ区
5	石器	編物石	11.7	5.0	3.7	291.19	—	—	完全実測	Ⅰ区
6	石器	編物石	11.7	6.0	4.0	420.04	端部の剥離は使用痕か	—	完全実測	Ⅰ区
7	石器	編物石	13.3	7.6	4.0	498.23	—	—	完全実測	Ⅰ区

● H 12号住居址（第18図）

つ21グリットで検出された。P267・268ピットに切られる。西および南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高0.58m以外の規模は不明である。カマド部分を除く壁下には周溝が巡らされている。P1は主柱穴であり、φ0.12mの柱痕が確認された。カマドは所謂「地山削出」の構造であるが、石が全て抜き取られ破壊されていた。覆土は人為埋土ないし、人為的に攪拌された土の二次堆積土である。

遺物は縄文土器、土師器、石器が出土した。縄文土器7は後期堀之内式の深鉢体部片である。8は後期の



第16図 H 10号住居址



第17図 H11号住居址

H 12号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法 番			成形・調整		備考	出土層位	
			口径(長)	底径(短)	底高(厚)	(重)	内面	外面		
1	土師器	环	(12.2)	(10.6)	<3.0	—	ヘラミガキ	口縁ヘラミガキ・底部ヘラケズリ	回転実測	I区・II区
2	土師器	环	(14.6)	(11.6)	<4.5	—	ナデ	底部ヘラケズリ	回転実測	カマド
3	土師器	环	(16.8)	(9.2)	<4.5	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	回転実測	ケン
4	土師器	高环	—	—	<9.8	—	环部ヘラミガキ・脚部ヘラナダヘラケズリ	ヘラケズリ	完全実測	No2
5	土師器	甕	20.2	7.6	36.4	—	ハケ目	ハケ目ヘラケズリ	完全実測	No1
6	土師器	甕	—	(9.4)	<3.6	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	I区
7	縄文土器	深盆	—	—	—	—	後期壺之内式	破片実測・拓本	II区	
8	縄文土器	土器片円盤	7.0	7.1	1.0	—	後期壺之内式	完全実測・拓本	I区	
9	石器	磨特石	11.2	6.0	3.3	279.64	縁辺に使用痕	完全実測	I区	
10	石器	磨特石	11.9	7.1	4.0	456.30	両側に抉り	完全実測	I区	
11	石器	磨石	7.0	6.8	2.5	150.28	表面に磨り面	完全実測	I区	

無文深鉢土器片を利用した土器片円盤である。土器片は環（1～3）、高環（4）、甕（5・6）の器種が認められる。環は1が内面ヘラミガキ、外面体部ヘラケズリ・口縁部ヘラミガキ、2は所謂「有段口縁環」で外面体部ヘラケズリ調整の他は内外面ナデ調整である。3は内面ヘラミガキ後黒色処理、外面体部ヘラケズリ・口縁部ヘラミガキ処理が施されている。高環は長脚で、環部に棱を有する。脚内を除く内外面にヘラミガキ調整が施される。脚内はナデ調整である。甕5は口縁部に最大径を有する。底部と体部の境に稜を形成する。内面ハケメ、外ハケメ→ヘラケズリ調整が施される。甕6は底部片であり、内面ナデ、外ハラケズリ調整が施される。石器は3点共に川原石を用いている。9・10が磨特石、11が磨石である。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期6世紀末～7世紀初頭の所産と考えられる。

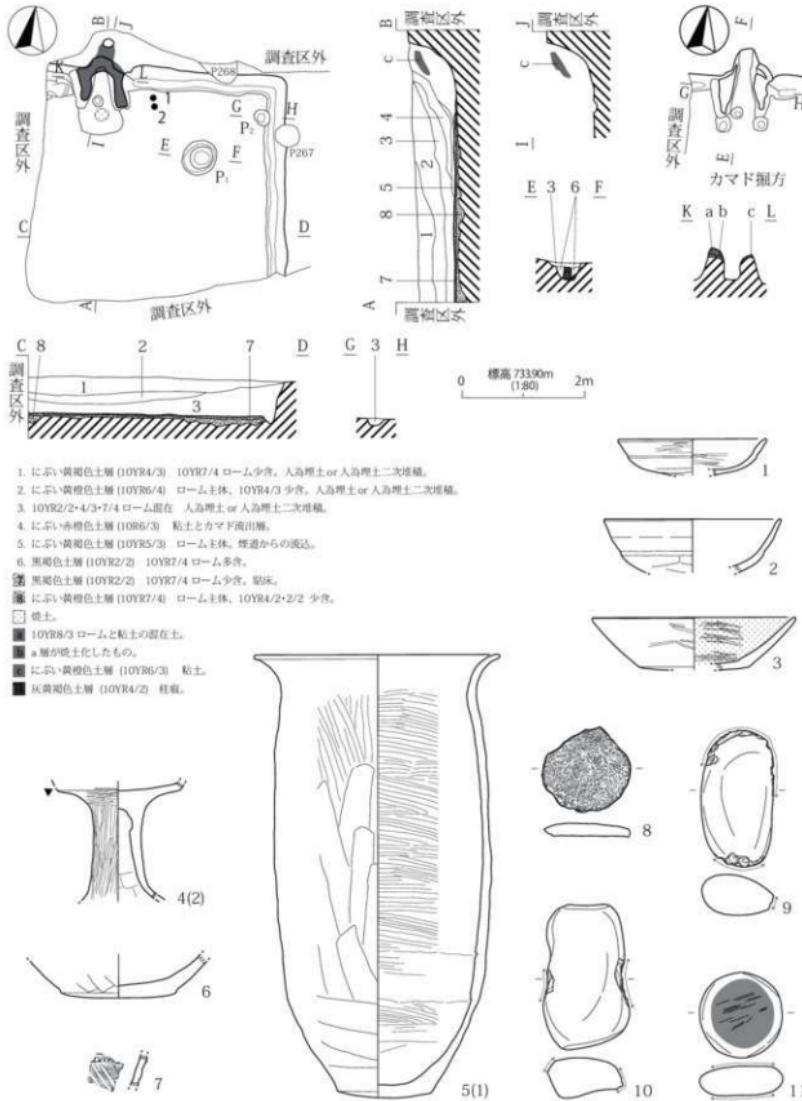
● H 13号住居址（第19図）

く22グリットで検出された。P167・185号ピットに切られる。正方形の平面形態で、N-40°-Wに長軸方位をとる。長軸長2.94m、短軸長2.73m、壁残高0.43m、面積8.95m²の規模である。カマドは東壁の東南隅よりの位置に構築される。石芯を粘土で被覆しているが、天井部分は現存しない。南西・南東隅と南壁部分を除き壁下には周溝が巡っている。カマド北脇の掘方から1基検出された他はピットは存在しない。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器と須恵器が出土した。土師器には環（1～9）、皿（10～12）、甕（14）の器種が認められる。環は底部に回転糸切痕を残す。回転方向は右である。ヘラミガキ→黒色処理のものと、黒色処理が施されないもの、ナデ調整だけのものが混在する。皿は付高台で、底部に回転糸切痕を残す。内面はヘラミガキ→黒

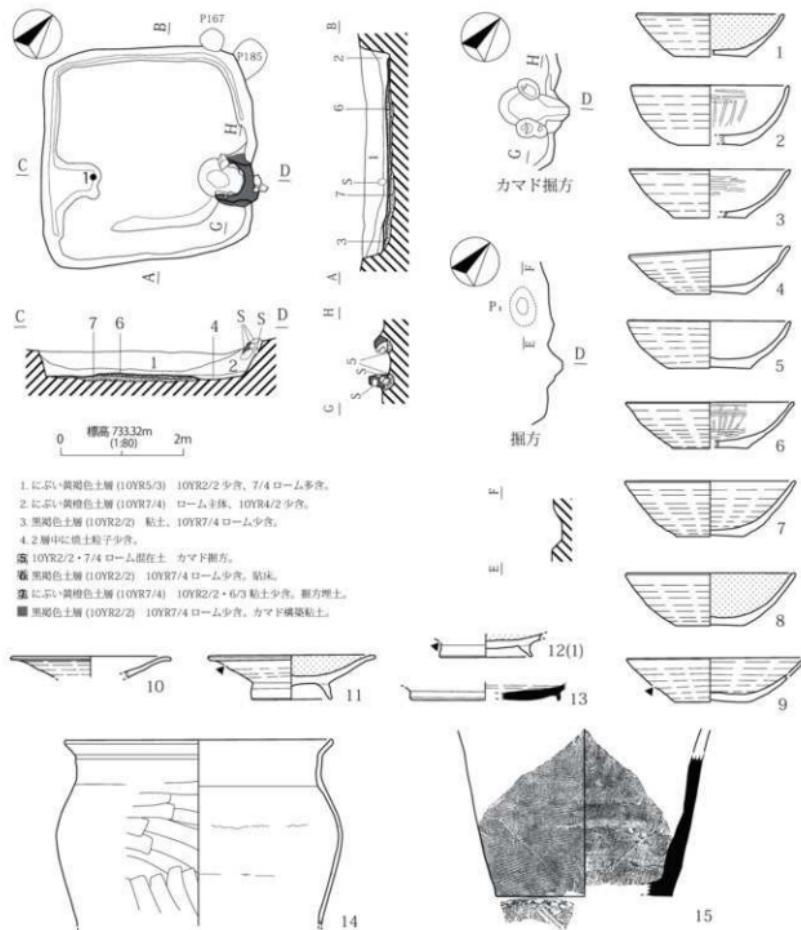
H 13号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法 番			成形・調整		備考	出土層位		
			口径(長)	底径(短)	底高(厚)	(重)	内面	外面			
1	土師器	环	(12.2)	(6.0)	3.5	—	ヘラミガキ→黒色処理	回転糸切	回転実測	カマド	
2	土師器	环	(13.0)	(5.2)	4.9	—	ヘラミガキ	ロクロナデ	回転実測	IV区	
3	土師器	环	(13.2)	(6.0)	4.0	—	ヘラミガキ	回転糸切	回転実測	IV区・カマド	
4	土師器	环	13.3	(5.7)	3.5	—	ナデ	右回転糸切	完全実測	Ⅲ区ホリ・廻し・Ⅳ区ホリ・カマド	
5	土師器	环	13.4	6.8	3.9	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	カマド	
6	土師器	环	(13.8)	(6.0)	3.8	—	ヘラミガキ	右回転糸切	回転実測	カマド	
7	土師器	环	(14.0)	(5.6)	4.5	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	I区	
8	土師器	环	(14.0)	(5.6)	4.3	—	ヘラミガキ→黒色処理	回転糸切	回転実測	カマド	
9	土師器	环	(14.7)	5.9	3.6	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	IV区・カマド	
10	土師器	皿	(13.2)	—	<1.8	—	ヘラミガキ	ロクロナデ	回転実測	カマド	
11	土師器	皿	(13.8)	6.4	3.6	—	ヘラミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全実測	カマド	
12	土師器	皿	—	—	7.4	<1.9	—	ヘラミガキ→黒色処理	右回転糸切→付高台	完全実測	No1
13	須恵器	有台环	—	—	(12.0)	<1.5	—	ロクロナデ	回転ヘラ切→付高台	回転実測	II区
14	土師器	甕	(22.0)	—	<15.2	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区・Ⅳ区・ケン	
15	須恵器	甕	—	(14.4)	<13.7	—	当貝痕	平行印目	回転実測・拓本	IV区・カマド	



第18図 H12号住居址

色処理のものと黒色処理が施されないものが混在する。表は「コ」字口縁の武藏表で、外面ヘラケズリ、内面ナデ調整が施される。須恵器は有台坏（13）、表（15）の器種が認められる。有台坏はロクロから回転ヘラ切で切り離され、高台が貼付されている。表は底部片で外面には平行叩目、内面には当具痕が認められる。以上の出土遺物の特徴から本址は平安時代9世紀前半の所産と考えられる。



第19図 H13号住居址

● H 14 号住居址（第 20 図）

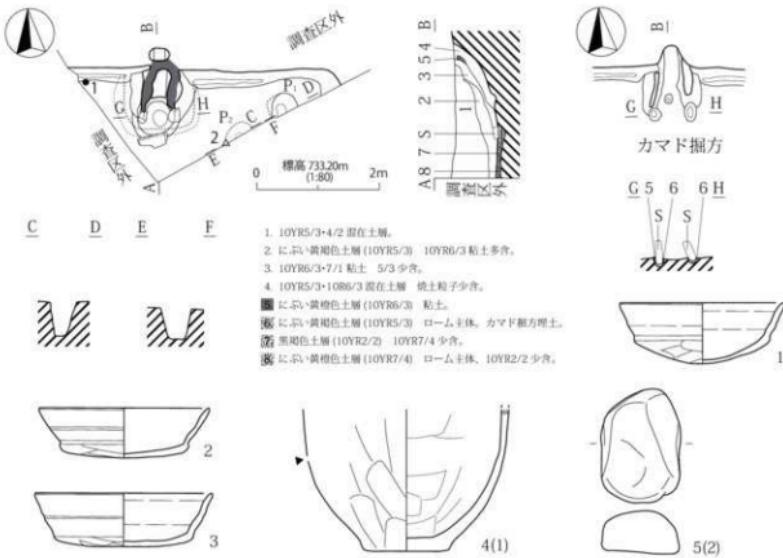
く 24 グリットで検出された。南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.66 m 以外の規模は不明である。カマドは北壁の中央部分に構築されており、所謂「地山削出」の構造であるが、天井部分は現存していないかった。東北隅、およびカマド部分を除く壁下には周溝が巡る。床面及び掘方から 2 基検出されたピットの性格は不明である。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器と石器が出土した。土師器には壺（1～3）と甕（4）の器種が認められる。壺は 3 点共に所謂「有段口縁壺」で外面体部にヘラケズリ調整を施すほかは、ナデ調整である。甕は底部付近の破片であり、内面ヘラナデ、外面にはヘラケズリ調整が施される。石器（5）は川原石を用いた編物石である。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期 6 世紀末～7 世紀初頭の所産と考えられる。

H 14 号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器基(厚)	内面	外 面		
1	土師器	壺	13.5	11.1	5.0	—	ナデ	底部ヘラケズリ	完全実測 I 区
2	土師器	壺	(14.0)	(10.6)	4.1	—	ナデ	底部ヘラケズリ	回転実測 II 区
3	土師器	壺	(14.6)	(13.0)	4.4	—	ナデ	底部ヘラケズリ	回転実測 II 区
4	土師器	甕	—	7.0	<11.7>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測 No1
5	石器	編物石	9.4	6.5	3.5	331.71			完全実測 No2



第 20 図 H 14 号住居址

● H 15 号住居址（第 21・22 図）

と 30 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。正方形の平面形態で、N - 20° - W に長

軸方位をとる。長軸長 4.29 m、短軸長 4.02 m、壁残高 0.67 m、面積 18.31m²の規模である。均等に配置される P1～P4 の 4 基のビットが主柱穴であり、掘方から検出された P7～P10 の 4 基は古い主柱穴である。本址は一度拡張し建て直されていることが判明した。柱痕は φ 0.26 m であった。カマドは北壁の中央に位置し、石芯を粘土で被覆して構築されていた。掛穴付近が崩壊している他は比較的良好な残存状況であった。カマドと南西隅を除く壁下には周溝が巡らされていた。南壁下中央に構築される P6 は出入口施設と考えられる。覆土は人為埋土ないしは人為的な攪拌を受けた土の堆積である。

遺物は土師器、石器、鉄器が出土している。土師器には环（1・2）、高环（3）、甕（4～6）の器種が認められる。环は 2 点共に半球状の形態で 1 は外面底部にヘラケズリ調整が施されるほかはナデ調整、2 は内面はヘラミガキ後黒色処理が施されている。高环は脚部は内外面ヘラケズリ、环部内面はヘラミガキ後黒色処理が施されている。甕 5・6 は武藏化粧の傾向が看取される。4 は口縁部に最大径を有する從前からの甕である。3 点共に外面ヘラケズリ、内面ナデ調整が施される。石器（7～11）は川原石を用いた編物石が 5 点出土している。鉄器（12）は短頭鍬の鏃身部が 1 点出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代終末から奈良時代第 1 四半期の所産と考えられる。

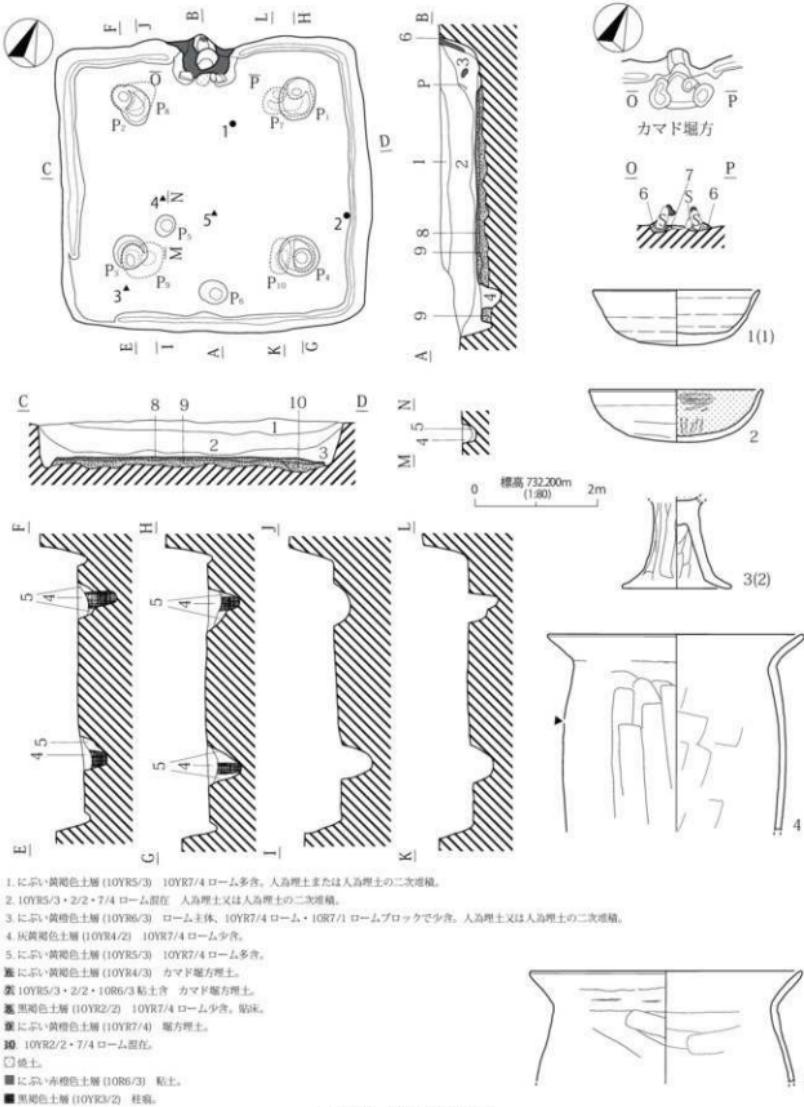
H 15 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法 量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(高)	底径(短)	器高(厚)	(重量)		
1	土師器	环	13.7	6.2	4.6	—	ロクロナデ	側輪ヘラケズリ 完全実測 No1
2	土師器	环	14.3	13.6	4.3	—	ヘラミガキ→黒色処理	底部ヘラケズリ 完全実測 IV 区・カマド
3	土師器	高环	—	—	9.0	<7.5>	ヘラミガキ→黒色処理・脚部ヘラケズリ	完全実測 No2
4	土師器	甕	21.1	—	<16.1>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ 完全実測 カマド
5	土師器	甕	(22.4)	—	<9.0>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ 回転実測 カマド・ケン
6	土師器	甕	<22.8>	—	<22.5>	—	ヘラナデ	ヘラケズリ 完全実測 IJK・IV 区・カマド
7	石器	編物石	<5.1>	<6.4>	<2.5>	<113.74>	下部欠損、右側は抉りか	完全実測 IV 区
8	石器	編物石	11.1	6.3	3.8	287.90	両側に抉り	完全実測 No5
9	石器	編物石	11.8	5.7	3.8	275.41		完全実測 IV 区
10	石器	編物石	12.0	8.5	4.5	433.26	両側に抉り	完全実測 No4
11	石器	編物石	13.2	5.0	2.8	237.01	片側に使用痕	完全実測 No5
12	鉄器	短頭鍬	<4.8>	<2.5>	<0.3>	<5.53>	鍔部身部 3ヶ所、茎部欠損	完全実測 No3

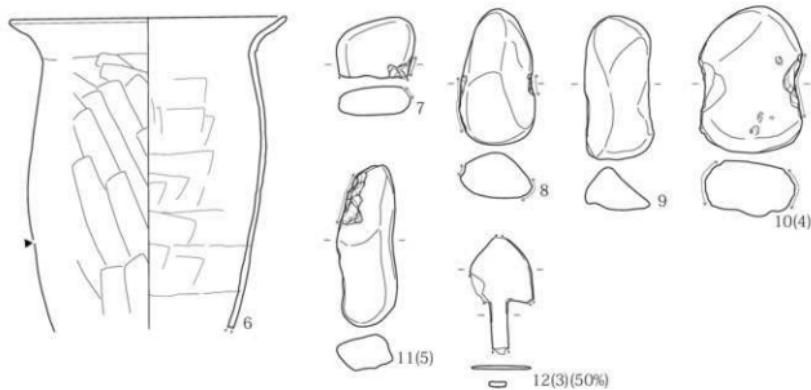
● H 16 号住居址（第 23・24 図）

せ 20 グリッドで検出された大型の住居址である。西方に調査区外にのびるため全容は不明である。D15 号土坑に切られている。壁残高 0.72 m 以外の規模は不明である。北壁中央と思われる部分に旧カマドの痕跡が残されている。新カマドは東壁中央部分に存在する。石芯を粘土で被覆して構築されているが、焚口、天井部分は破壊により残存していなかった。P4・P6・P9 の 3 基のビットは主柱穴であり、φ 0.12 m の柱痕が確認出来た。東カマド部分を除く壁下には周溝が巡らされている。掘方の調査から、本址は拡張され建て替えられていることが判明した。覆土は人為的な攪拌土の堆積土層であった。

遺物は縄文土器、土師器、石器が出土している。縄文土器（20～27）は全て破片であり、混入遺物である。21 と 23 が中期後半のほかは前期の土器である。器種は全て深鉢である。土師器は环（1～8）、高环（9～11）、甕（12～16）、壺（17）、鉢（18・19）の器種が認められる。环は外面底部ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヘラミガキ→黒色処理が基本であるが、1・6 は黒色処理が施されない。また、4 は所謂「有段口縁环」である。高环は 9・10 が环部、11 が脚部である。环部は内外面ヘラミガキ調整後、内面には黒色処理が施されている。脚は長脚で外面ヘラミガキ、内面ナデ調整が施されている。甕は小型の 12 と他の大型のものが存在する。12・15 が体部に最大径を有する他は口縁部に最大径を有する。調整は 14・15 がハケメのほかは外面ヘラケズリ、内面ナデ調整である。壺は外反する口縁部と球形の体部を有するもので、外面及び内面口縁部はヘラミガキ、口縁部以外の内面はナデ調整が施される。鉢 18 は口縁部が大きく聞く、内外面



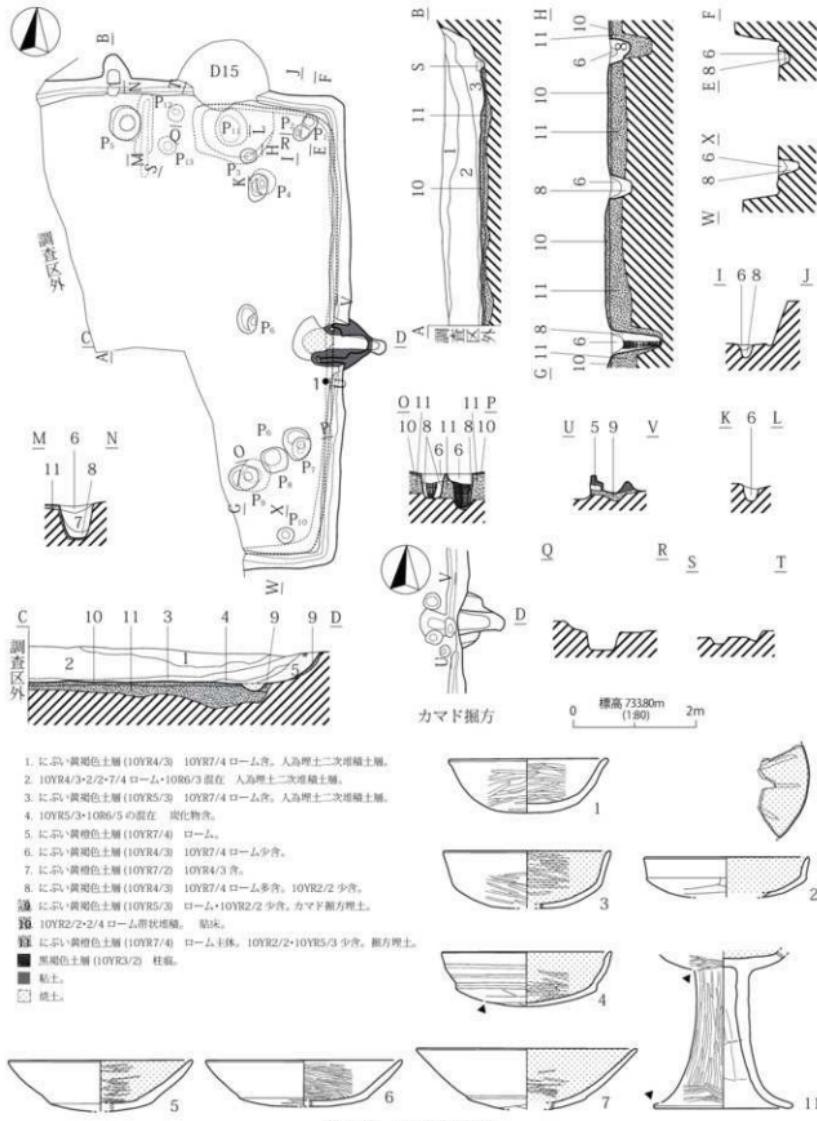
第21図 H15号住居址(1)



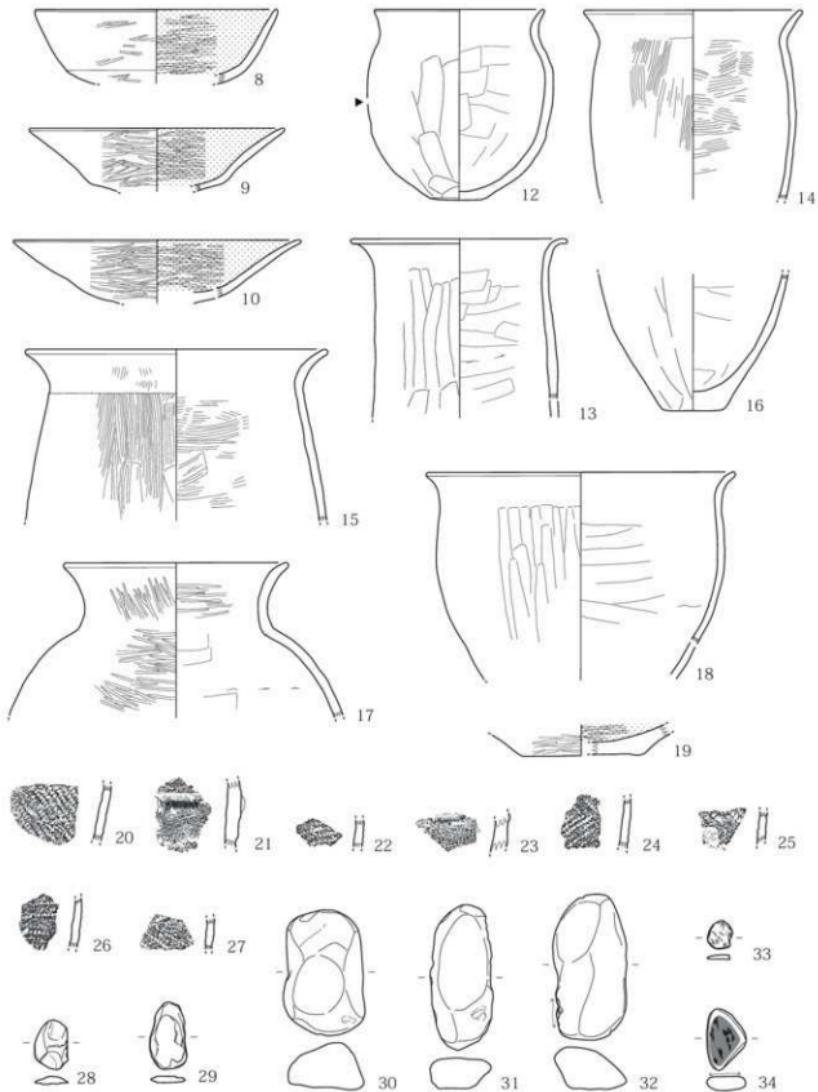
第22図 H15 住居址(2)

H16号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法 量			成形・調整		備考	出土層位	
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)(重量)	内面	外面			
1	土師器	环	13.2	—	4.5	ヘルミガキ	ヘルミガキ	完全実測	IV区	
2	土師器	环	(13.6)	(13.2)	3.3	—	底面→黒色処理	底面ヘルケズリ	回転実測	IV区
3	土師器	环	(13.8)	—	4.7	ヘルミガキ→黒色処理	ヘルミガキ	回転実測	I区・IV区	
4	土師器	环	14.0	11.6	4.5	ヘルミガキ→黒色処理	底部ヘルケズリ	完全実測	IV区・カマド	
5	土師器	环	(15.2)	(8.2)	(4.2)	ヘルミガキ→黒色処理	ナデ	回転実測	P5	
6	土師器	环	(16.2)	(10.6)	(3.8)	ヘルミガキ	底面ヘルケズリ→ヘルミガキ	回転実測	覆土	
7	土師器	环	(18.2)	(9.8)	<5.0	ヘルミガキ→黒色処理	底部ヘルケズリ	回転実測	I区・II区・III区ホリ	
8	土師器	环	(20.0)	(14.8)	<6.1	ヘルミガキ→黒色処理	ヘルケズリ	回転実測	I区	
9	土師器	高环	(21.0)	(10.8)	<5.2	ヘルミガキ→黒色処理	ヘルミガキ	回転実測	No.1・カマド・P10	
10	土師器	高环	23.6	—	<5.2	ヘルミガキ→黒色処理	ヘルミガキ	完全実測	IV区	
11	土師器	高环	—	(11.4)	<13.9	ヘルミガキ→黒色処理・脚部ヘルナデ	ヘルミガキ	完全実測	I区	
12	土師器	甕	14	4.5	15.6	ヘルナデ	ヘルケズリ	完全実測	I区・II区・III区・カマド・P7	
13	土師器	甕	17.8	—	<14.7	ヘルナデ	ヘルケズリ	完全実測	No.1・IV区	
14	土師器	甕	(18.0)	—	<15.5	ハケ目	ハケ目	回転実測	I区・IV区	
15	土師器	甕	(24.8)	—	<14.1	ハケ目	ハケ目	回転実測	IV区・カマド	
16	土師器	甕	—	(5.2)	<11.2	ヘルナデ	ヘルケズリ	回転実測	I区	
17	土師器	甕	(18.4)	—	<12.7	ヘルナデ→ヘルミガキ	ヘルミガキ	回転実測	IV区	
18	土師器	鉢	(25.4)	—	<16.9	ヘルナデ	ヘルナデ	回転実測	IV区	
19	土師器	鉢	—	9.8	<2.5	ヘルミガキ→黒色処理	ヘルミガキ	回転実測	II区	
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	前期	縫合実測・拓本	I区		
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	中期後半	縫合実測・拓本	I区		
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	前期	縫合実測・拓本	ホリ		
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	中期後半	縫合実測・拓本	II区		
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	前期	縫合実測・拓本	ホリ		
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	前期	縫合実測・拓本	ホリ		
26	縄文土器	深鉢	—	—	—	前期	縫合実測・拓本	IV区		
27	縄文土器	深鉢	—	—	—	前期	縫合実測・拓本	IV区		
28	石器	原材	4.1	2.7	0.7	7.31	—	完全実測	I区	
29	石器	原材	5.5	3.0	0.7	13.15	—	完全実測	ホリ方	
30	石器	編物石	10.3	6.7	3.8	363.16	—	完全実測	P7	
31	石器	編物石	11.9	5.2	3.3	240.03	—	完全実測	P7	
32	石器	編物石	12.0	6.1	3.4	309.2	片側に使用痕	完全実測	P7	
33	石器	磨石	2.3	2.1	0.4	330	全体に磨り	完全実測	IV区	
34	石器	磨石	5.1	3.2	1.3	29.11	正面に磨り面	完全実測	IV区	



第23図 H16号住居址(1)



第24図 H16号住居址(2)

共にナデ調整である。19は底部片であり、全容は不明であるが内面にはヘラミガキ後、黒色処理が施されている。外面はヘラミガキ調整である。石器（30～34）は川原石や河床礫を用いた編物石・磨石である。28・29は石器という呼称は不適切であるが、石製品模造品の加工前の原石である。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期6世紀末～7世紀初頭の所産と考えられる。

●H 17号住居址（第25図）

そ34グリットで検出された。D16号土坑を切る。南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。規模も壁残高0.33m以外の規模は不明である。床面、掘方を合わせ12基検出されたピットの内、P1・P2の2基は主柱穴の可能性が高い。カマドは北壁の中央部分に石芯を粘土で被覆して構築されていたようであるが、破壊されていた。覆土は自然堆積である。

遺物は土師器と須恵器が出土している。土師器には壺（1・2）、碗（3・4）、甕（5～10・12）鉢（11）の器種が認められる。壺は底部に右回転の糸切痕を残し、内面はヘラミガキ調整後、黒色処理が施されている。碗も壺同様の成形・調整であるが、高台が貼付けられている。甕は5・10・12がロクロ甕、他は武藏甕である。武藏甕の口縁部形態は「コ」字である。鉢は底部片である。外面ヘラケズリ、内面はヘラミガキ調整後、黒色処理が施されている。須恵器は壺の肩部片が1点出土している。所謂「凸帯文壺四耳壺」である。

以上の出土遺物の特徴から本址は平安時代9世紀前半の所産と考えられる。

H17号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法 量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(径) 底径(短)	器高(厚) (重締)	重量	内 面	外 面		
1	土師器	壺	(15.5)	5.9	4.6	—	ヘラミガキ→黒色処理 右回転糸切	完全実測	No4
2	土師器	壺	(16.0)	6.8	4.4	—	ヘラミガキ→黒色処理 右回転糸切	完全実測	No1
3	土師器	碗	(15.2)	8.0	5.3	—	ヘラミガキ→黒色処理 回転糸切→付高台	完全実測	No2
4	土師器	碗	(18.3)	8.4	6.2	—	ヘラミガキ→黒色処理 回転糸切→付高台	完全実測	No3・II区
5	土師器	甕	(20.0)	—	<7.6	—	ロクロナデ・ハケ目	ロクロナデ	回転実測 I区
6	土師器	甕	(20.2)	—	<4.8	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測 II区
7	土師器	甕	(20.6)	—	<6.1	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測 II区
8	土師器	甕	(21.0)	—	<10.7	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測 II区
9	土師器	甕	(22.0)	—	<7.6	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測 II区
10	土師器	甕	—	(2.4)	<3.2	—	ハケ目	ヘラケズリ	回転実測 II区
11	土師器	鉢	—	3.6	<1.1	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	完全実測 II区
12	土師器	甕	—	(6.0)	<2.5	—	ロクロナデ	ヘラケズリ	回転実測 II区
13	須恵器	壺	—	—	—	—	ロクロナデ	凸帯貼付・ロクロナデ	破片実測・拓本 P3

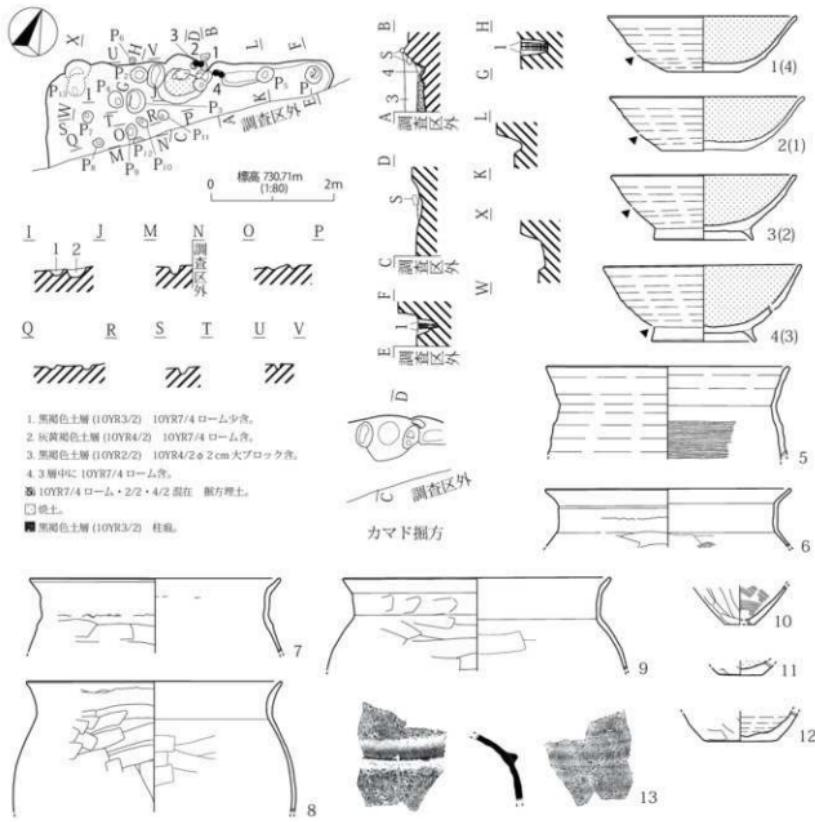
H18号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法 量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(径) 底径(短)	器高(厚) (重締)	重量	内 面	外 面		
1	土師器	ミニチュア上器	7.5	5.9	3.4	—	ナデ	ナデ	完全実測 N o1
2	土師器	甕	14.1	5.1	10.9	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測 N o4・III区
3	土師器	甕	16.7	—	<20.6	—	ヘラナデ	ヘラミガキ	完全実測 N o2・I区
4	土師器	甕	(21.0)	—	<14.9	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測 I区・II区・IV区
5	土師器	甕	—	6.1	<17.3	—	ナデ	ヘラミガキ	完全実測 N o3
6	繩文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	破片実測・拓本 III区

●H 18号住居址（第26図）

け14グリットで検出された。P73号ピットを切る。正方形の平面形態で、N-72°-Eに長軸方位をとる。長軸1.20m、短軸1.94m、壁残高0.31m、面積4.70m²の小型の住居址である。カマドは北壁の東北隅により石芯を粘土で被覆して構築されるが、破壊されていた。カマド部分から北東隅を除く壁下には周溝が巡らされる。掘方か1基検出された以外にピットは存在しない。覆土は自然堆積である。

遺物は繩文土器と土師器が出土している。繩文土器は深鉢の体部片であり、中期後半のものと思われる。土師器には手捏土器（1）、甕（2～4）、壺（5）の器種が認められる。手捏土器は壺型で、内外面にナデ



第25図 H17号居住址

調整が施される。甕は小型の2、中型の3、大型の4の法量が認められる。小型2が口縁部に最大径を有する他は、体部に最大径を有する。調整は2・4が外面ヘラケズリ、3が粗いヘラミガキで、内面は3点共にナデ調整が施される。壺は底部片である。内面ナデ調整、外面ヘラミガキ調整が施される。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期6世紀末～7世紀初頭の所産と考えられる。

第2節 土坑

● D1号土坑（第27図）

ヘ23グリットで検出された。西方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高0.38m以外の

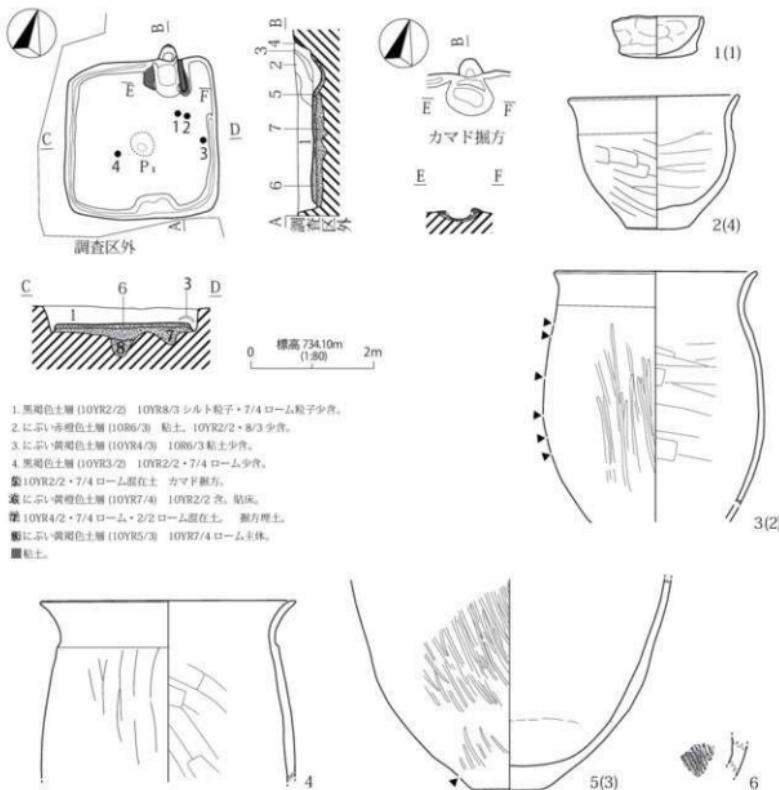
規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

●D 2号土坑（第 27 図）

に 21 グリットで検出された。南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.74 m 以外の規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

●D 3号土坑（第 27 図）

ね 20 グリットで検出された。北方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.49 m 以外の規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。



第 26 図 H18 号住居址

● D 4 号土坑（第 27 図）

計 17 グリットで検出された。南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.62 m 以外の規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

● D 5 号土坑（第 27 図）

計 3 グリットで検出された。北方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.66 m 以外の規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。本址は粘土採掘坑である。

● D 6 号土坑（第 27 図）

計 5 グリットで検出された。楕円形の平面形態で、N - 21° - E に長軸方位をとる。長軸長 1.42 m、短軸長 1.21 m、壁残高 0.88 m、面積 0.22 m² の規模である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

● D 7 号土坑（第 28 図）

計 6 グリットで検出された。東・西両方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.39 m 以外の規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。本址は粘土採掘坑である。

● D 8 号土坑（第 27 図）

計 12 グリットで検出された。M1 号溝址、田切谷に切られるため全容は不明である。壁残高 0.21 m 以外の規模は不明である。出土遺物は川原石を用いた編み物石が 1 点出土している。時期は不明であるが、M1 よりは古い時期の所産である。本址は粘土採掘坑の可能性が高い。

● D 9 号土坑（第 28 図）

計 20 グリットで検出された。円形の平面形態で、N - 65° - E に長軸方位をとる。長軸長 1.33 m、短軸長 1.20 m、壁残高 0.48 m、面積 0.18 m² の規模である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

● D 10 号土坑（第 28 図）

計 21 グリットで検出された。楕円形の平面形態で、N - 68° - E に長軸方位をとる。長軸長 2.83 m、短軸長 1.77 m、壁残高 0.40 m、面積 3.27 m² の規模である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

● D 11 号土坑（第 29 図）

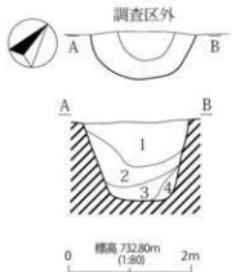
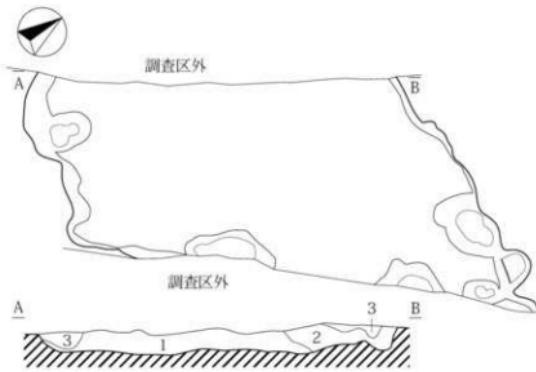
計 25 グリットで検出された。楕円形の平面形態で、N - 27° - W に長軸方位をとる。長軸長（2.78 m）、短軸長（2.17 m）、壁残高（1.69 m）の規模である。出土遺物は土師器の壺、土製紡錘車が出土している。時期は古墳時代後期で、所謂「水室」や「靡芥処理土坑」とされる土坑である。

● D 12 号土坑（第 28 図）

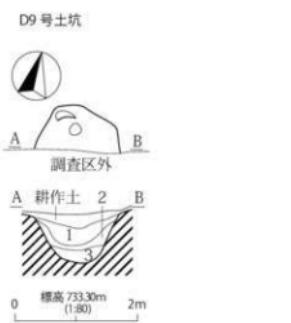
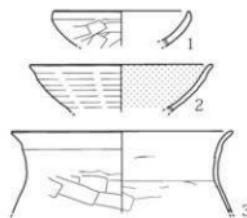
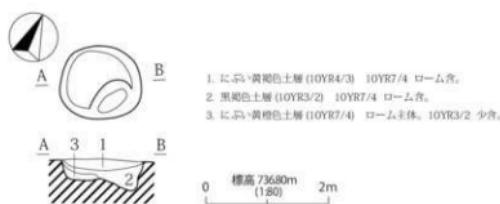
計 26 グリットで検出された。北方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 1.28 m 以外の規模は不明である。遺物は土師器壺 2 点と甕 1 点が出土している。壺 2、甕 3 の特徴から平安時代の所産と



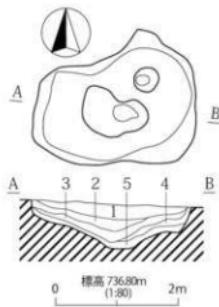
第 27 図 土抗(1)



1. 黑褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4 ローム少含。
2. 淡黄褐色土層 (10YR8/2) 10YR7/4 ローム少含。
3. 黑褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/3 ローム少含。
4. 淡黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4 ローム主体。



1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4 ローム極少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4 含。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR4/3 含。

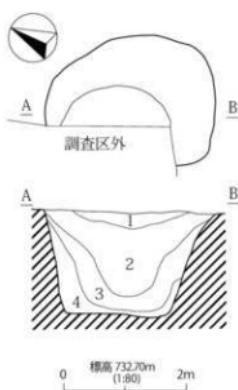


1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4 ローム多含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3)。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR4/3 少含。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR3/2・10YR7/4 ローム少含。
5. にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR4/3 少含。

D13号土坑

第28図 土坑(2)

D10号土坑



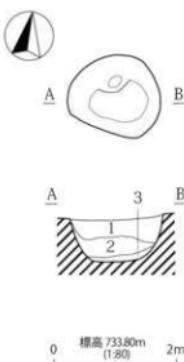
1. にふい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム、10YR4/2 含。人為埋土。
2. にふい黄褐色土層 (10YR7/3) ローム主体、10YR4/2・3/2・7/4 ローム多含。人為埋土。
3. 黑褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/3 ローム含。人為埋土。
4. にふい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4 ローム多含。

D11号土抗



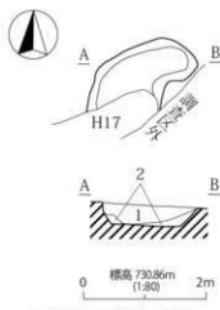
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4 ローム少含。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4 ローム多含。
3. 10YR2/2・7/4 ローム混在。
4. にふい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム二次堆積、10YR2/2 ローム少含。

D14号土抗



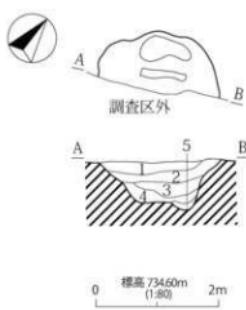
1. 10YR3/2・4/3・7/4 ローム混在。
2. にふい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR4/2 少含。
3. 10YR2/2 (10YR7/1) ローム、10YR7/4 ローム・4/4 少含。

D15号土抗



1. 黑褐色土層 (10YR2/2) シルト質
2. 黑褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4 ローム少含。

D16号土抗



1. にふい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4 ローム少含。
2. にふい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR5/3 少含。
3. 黑褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4 ローム少含。
4. にふい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR3/2 少含。
5. にふい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4 ローム少含。

D17号土抗

第29図 土抗(3)

考えられる。D11 同様に、所謂「水室」や「廻芥処理土坑」とされる土坑である。

● D 13 号土坑（第 28 図）

ち 24 グリットで検出された。南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.77 m 以外の規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

● D 14 号土坑（第 29 図）

さ 31 グリットで検出された。P447 号ピットを切る。楕円形の平面形態で、N-43°-E に長軸方位をとる。長軸長 1.89 m、短軸長 (1.13 m)、壁残高 0.38 m、面積 (0.66m²) の規模である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

● D 15 号土坑（第 29 図）

せ 20 グリットで検出された。H16 号住居址を切る。楕円形の平面形態で、N-73°-E に長軸方位をとる。長軸長 1.53 m、短軸長 1.32 m、壁残高 0.66 m、面積 0.58m² の規模である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

● D 16 号土坑（第 29 図）

そ 33 グリットで検出された。H17 号住居址に切られる。南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.34 m 以外の規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期は H17 よりも古い時期の所産である。性格は不明である。

● D 17 号土坑（第 29 図）

す 15 グリットで検出された。H 2 号住居址を切る。南方向に調査区外にのびるため全容は不明である。壁残高 0.74 m 以外の規模は不明である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

土坑出土遺物観察表

No.	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量	内面	外面		
1	石器	鰐歯石	11.3	6.8	3.9	239.47	両面抉り、両端使用痕?		完全実測	D8 No.1
1	土師器	甕	(18.2)	-	<5.7>	-	ハケ目→ヘラミガキ・沈籠?		回転実測	D11 E
2	土製品	筋縫車	7.3	5.4	2.6	137.18		ヘラナデ・孔径 1.2	完全実測	D11 E
1	土師器	环	(11.2)	-	<2.9>	-	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	D12 S
2	土師器	环	(15.0)	-	<3.9>	-	黒色処理	ロクロナデ	回転実測	D12 S
3	土師器	环	(18.0)	-	<6.7>	-	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	D12 S

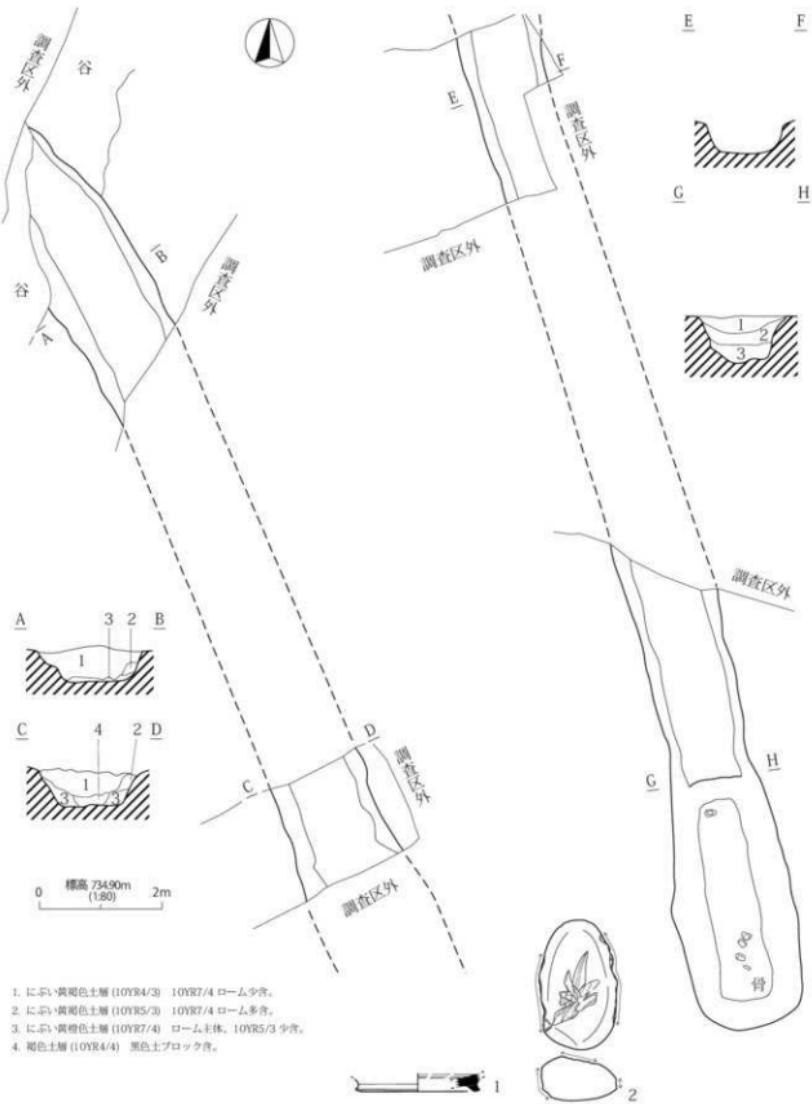
M 1 号溝址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法 量				成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量	内面	外面		
1	須恵器	有台环	-	(10.0)	<1.5>	-	ロクロナデ	付高台	回転実測	S
2	石器	戴石	1.06	6.5	3.6	285.78	両側辺に敲打痕、正面条痕		完全実測	N

第 3 節 溝址

● M 1 号溝址（第 30 図）

け 22 ～ 12 グリットにかけて検出された。け 22 グリットに端部があり、もう一端は田切谷に接続し消滅している。断面形状は逆梯形であり、人工の溝である。性格は不明であるが、須恵器有台環や川原石を用いた敲石、獸骨などが出土しており、平安時代以降の年代が推測される。



第30図 M1号溝址

第4節 挖立柱建物址

● F 1号掘立柱建物址（第31図）

き19グリットで検出された。P464を切る。西方向に調査区外にのびるため全容は不明である。調査範囲では2間×2間の長方形の側柱形態である。N-87°-Wに長軸方位をとり、桁行長(3.59m)、梁間長2.79m、面積(10.02m²)の規模である。桁行柱間寸法1.76～1.83m、梁間柱間寸法1.34～1.43mで柱痕φ0.17mであった。個々のピットは平面が円ないし楕円形、断面は鍋ないし逆梯形である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

● F 2号掘立柱建物址（第31図）

は28グリットで検出された。H9号住居址に切られ、西方向に調査区外にのびるため全容は不明である。調査範囲ではN-35°-Wに長軸方位をとり、桁行長3.59mの規模の側柱形態である。桁行柱間寸法1.10～1.28m、梁間柱間寸法1.29m、柱痕φ0.24mであった。個々のピットは平面が円ないし楕円形、断面は鍋ないし逆梯形である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

● F 3号掘立柱建物址（第31図）

う23グリットで検出された。H8号住居址を切る。2間×1間の長方形の側柱形態である。N-57°-Eに長軸方位をとり、桁行長3.3m、梁間長2.57m、面積7.21m²の規模である。桁行柱間寸法1.25～1.91m、梁間柱間寸法2.17～2.65m、柱痕φ0.18mであった。個々のピットは平面が円ないし楕円形、断面は逆梯形である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

● F 4号掘立柱建物址（第31図）

つ30グリットで検出された。北・西方向に調査区外にのびるため全容は不明である。桁行柱間寸法1.10～1.17m、梁間柱間寸法0.92m、柱痕φ0.17mの規模であった。個々のピットは平面が円ないし楕円形、断面は逆梯形である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

● F 5号掘立柱建物址（第32図）

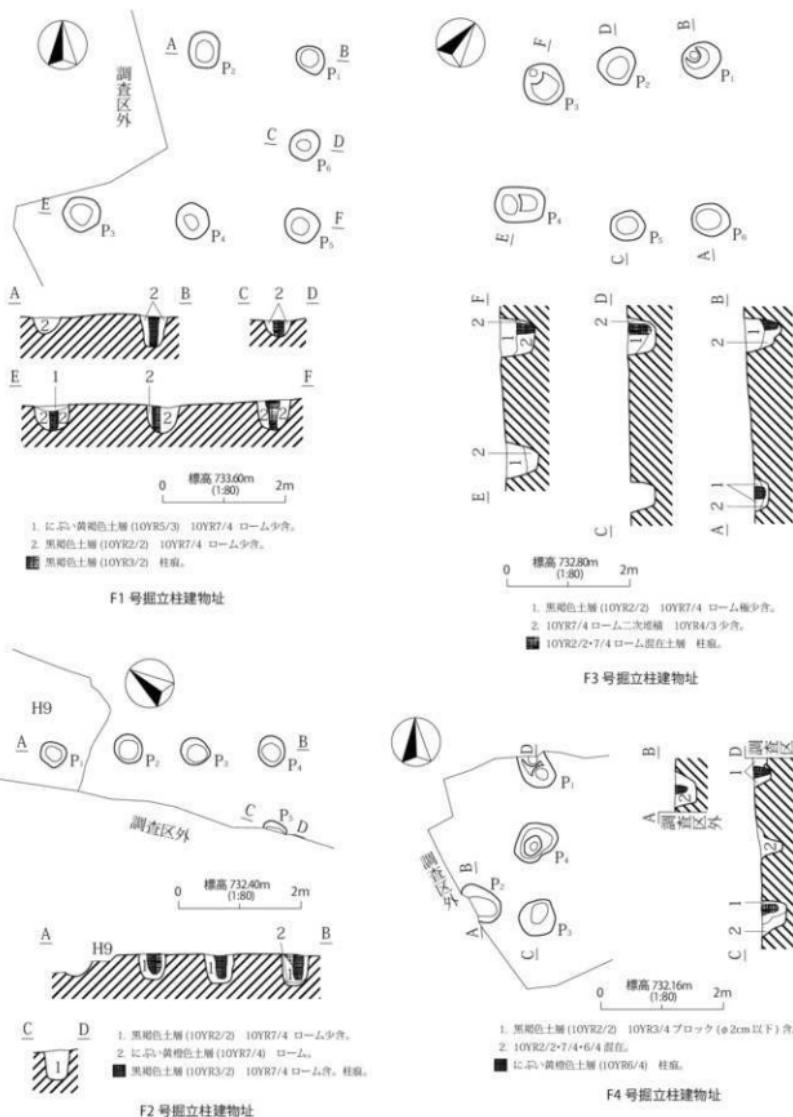
え9グリットで検出された。東方向に調査区外にのびるため全容は不明である。桁行柱間寸法1.98m、梁間柱間寸法1.85mの規模であった。個々のピットは平面が円形、断面は逆梯形である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

● F 6号掘立柱建物址（第32図）

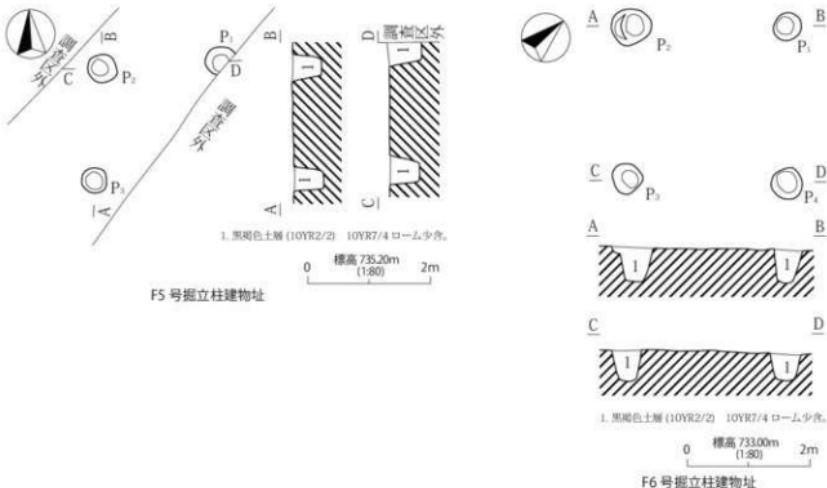
え23グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。1間×1間の正方形の形態である。N-48°-Wに長軸方位をとり、桁行長2.58m、梁間長2.55m、面積6.35m²の規模である。桁行柱間寸法2.55～2.85m、梁間柱間寸法2.49～2.85mであった。個々のピットは平面が円ないし楕円形、断面は逆梯形である。出土遺物は皆無であり、時期は不明である。

ピット出土遺物観察表

No.	器種	器形	法 量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(高)	底径(短)	器高(厚)(重量)	内面	外面		
1	石器	台石	<12.5>	<6.2>	<9.1>	949.46	右側～下側欠損、正面に使用痕	完全実測	P170 覆土
1	上飾器	环	(16.0)	—	<3.4>	—	ヘラミガキ→黒色處理 ヘラケズリ	部分実測	P320 覆土
1	上飾器	环	—	(6.0)	<1.6>	—	ヘラミガキ 回転系切・底部外周ヘラケズリ	部分実測	P449 覆土
2	須恵器	甕	—	—	—	—	ナデ 平行押き目・沈線	破片実測・拓本	P449 覆土



第31図 F1～F4号掘立柱建物址



第32図 F5・F6号掘立柱建物址

第5節 ピット

● P 1 ~ 468号ピット (第33 ~ 50図)

調査区全域からまんべんなく検出された。多くは柱状のものを立てるため掘削されたものと思われる。遺物を出土したものはP170・320・449の3基のみである。詳細は表を参照されたい。

第6節 遺構外出土遺物 (第51図)

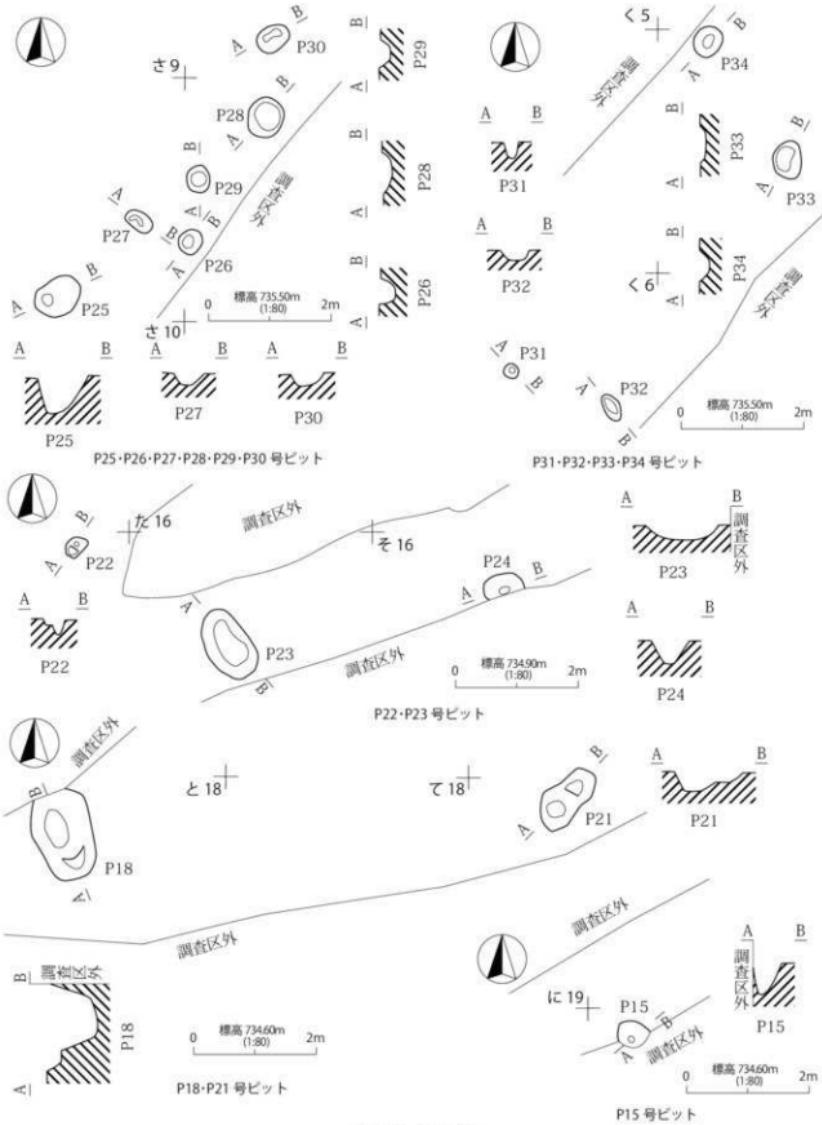
● 底部に右回転糸切痕を残す土師器坏と「コ」字口縁の武藏甕が各々1点出土した。



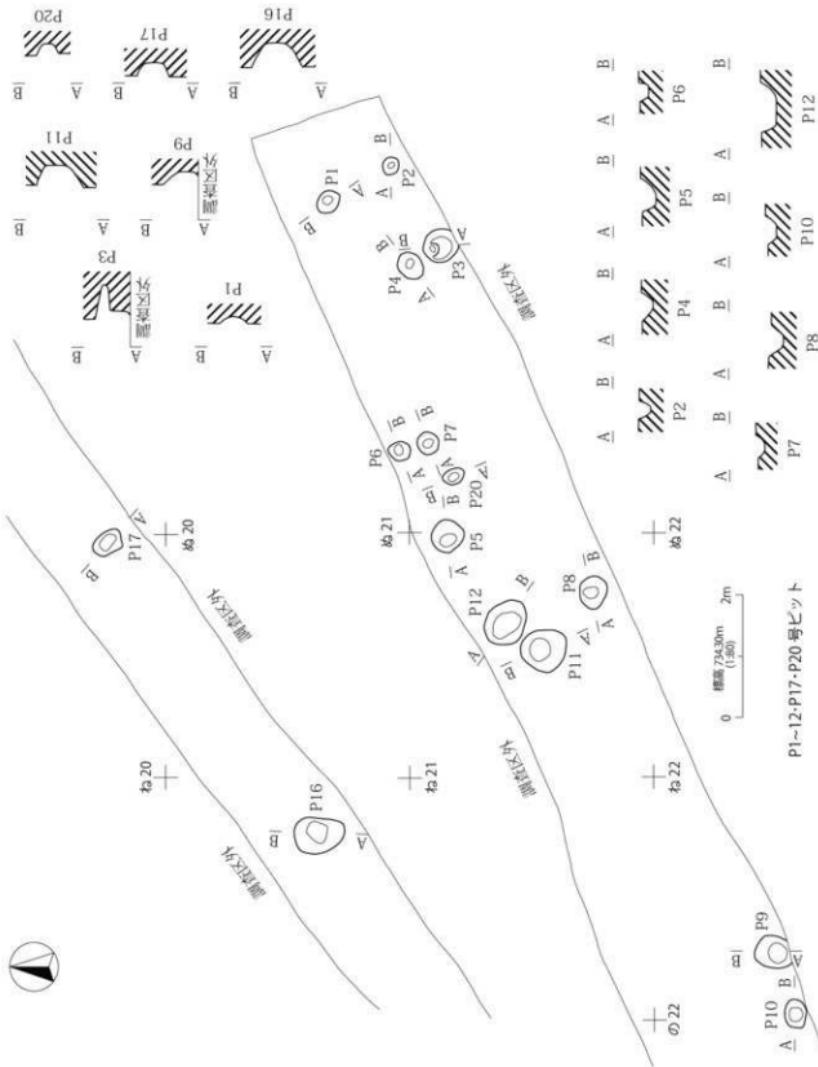
第51図 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物観察表

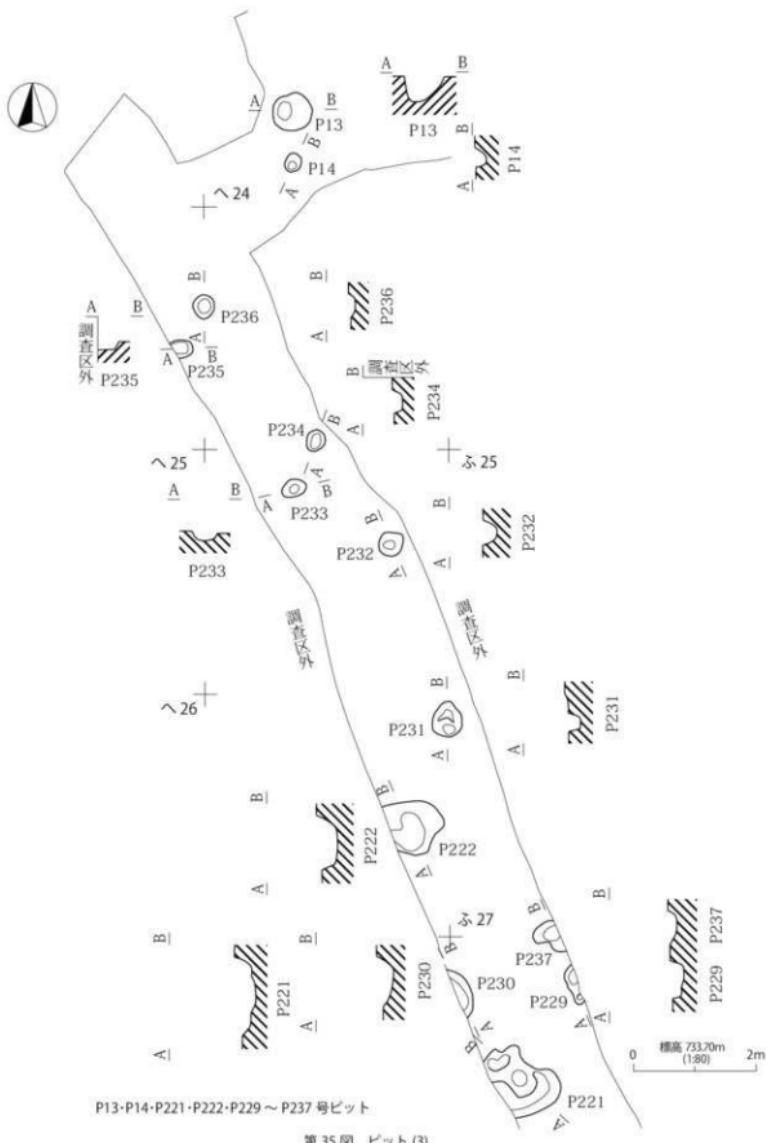
No	器種	器形	法 量			成形・調整		備考	出土層位	
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	(重量)	内面	外面		
1	土師器	环	—	—	6.4 <3.2>	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	Z
2	土師器	甕	(14.0)	—	<4.8>	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Z

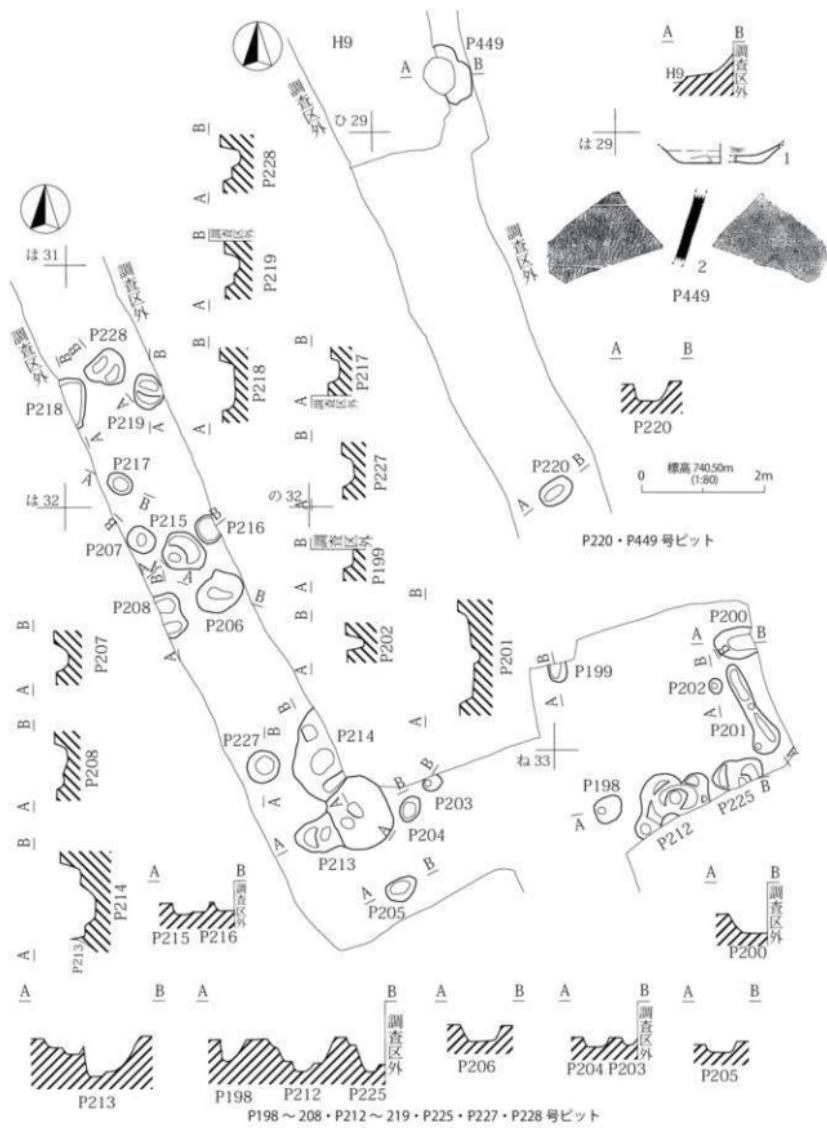


第33図 ビット(1)

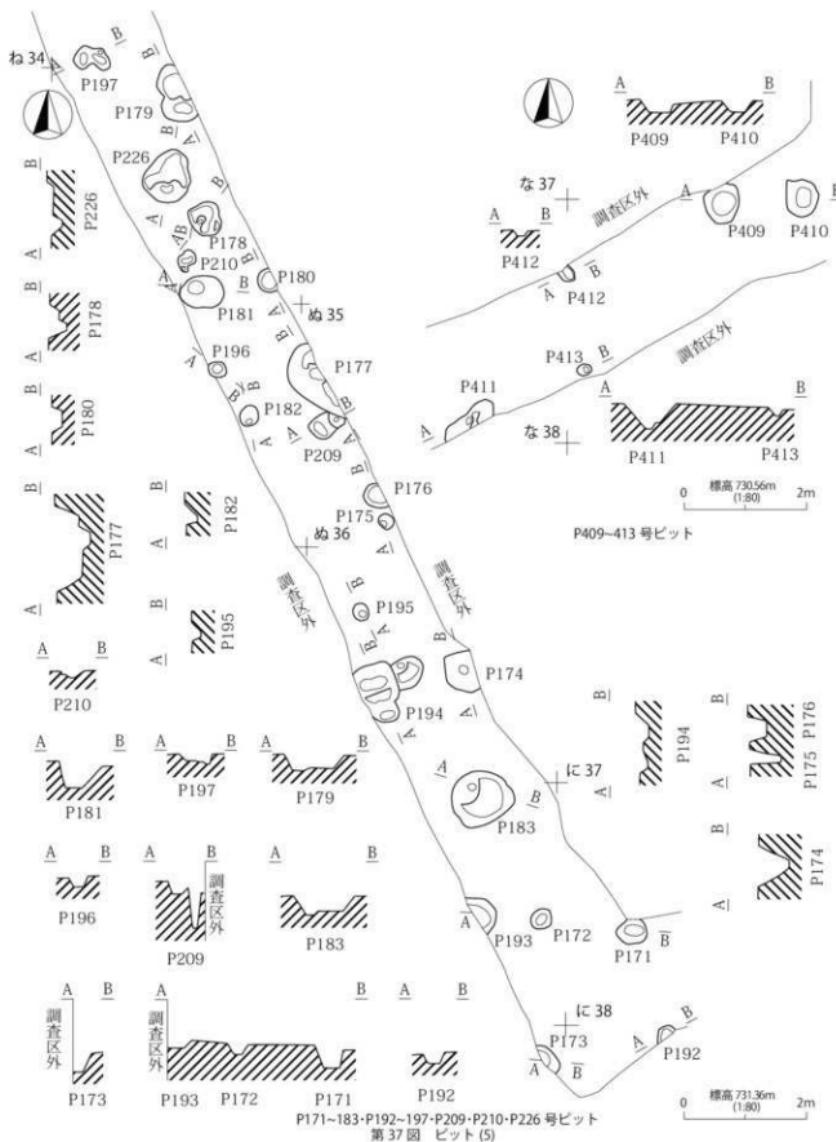


第34図 ビット(2)

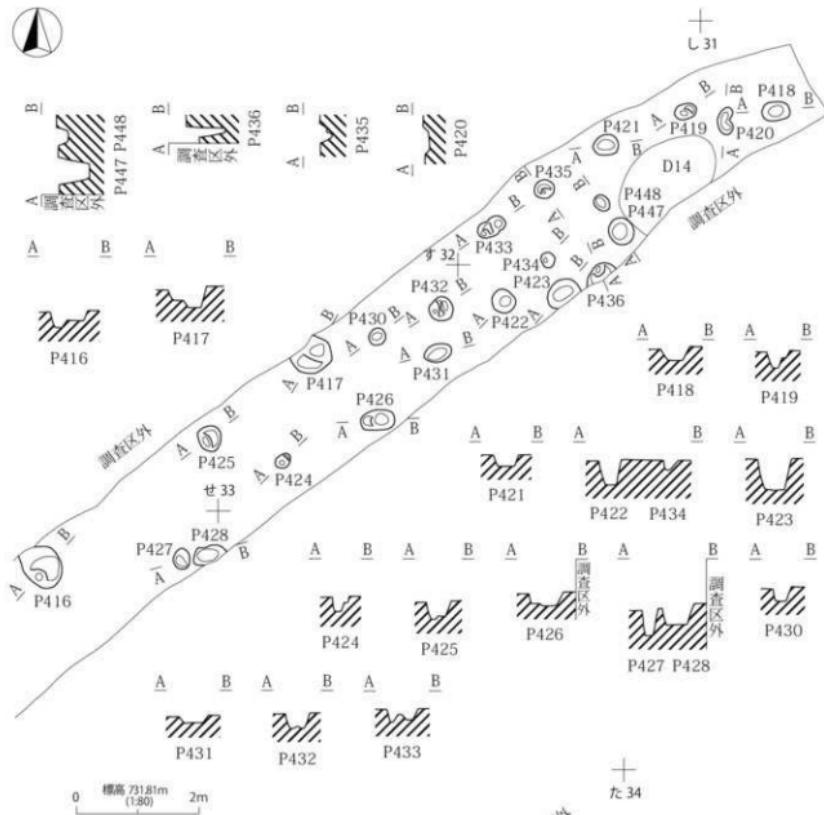




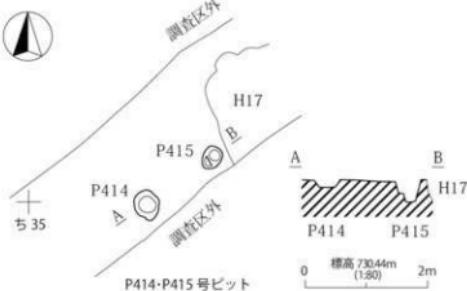
第36図 ピット(4)



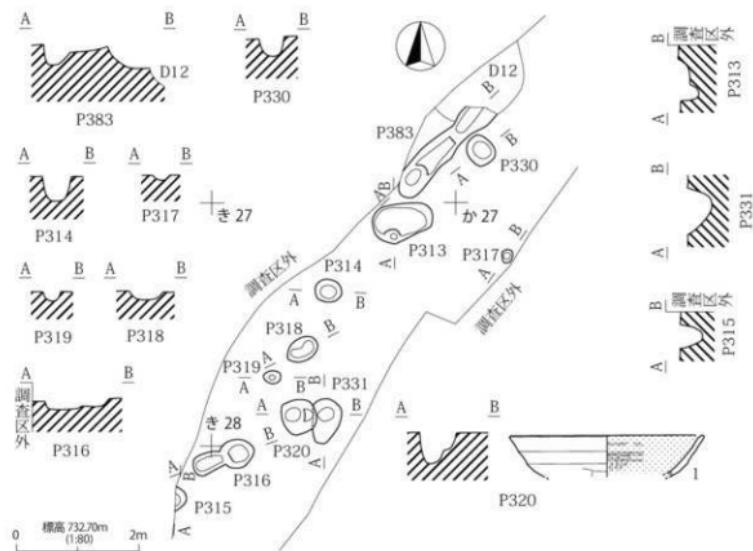
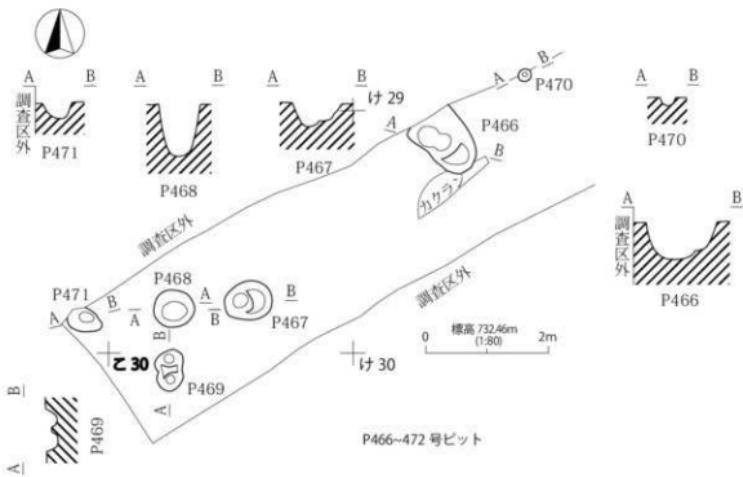
第37図 ピット(5)



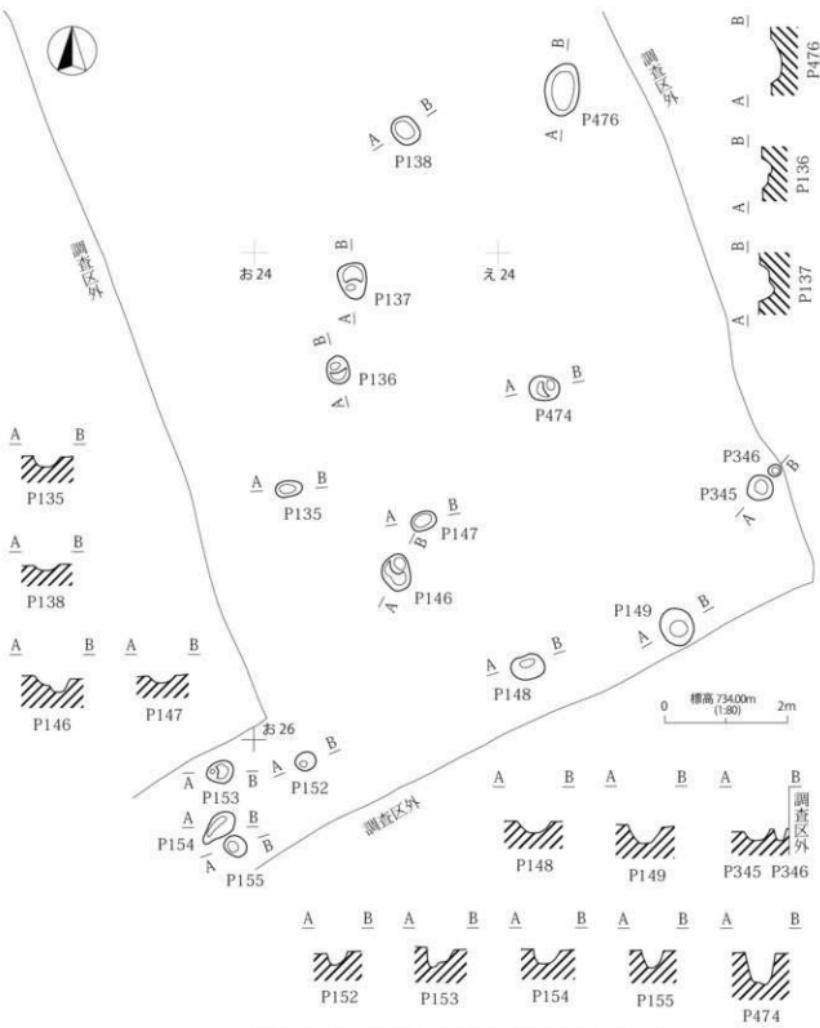
P416~428・P430~436・P447・P448号ビット



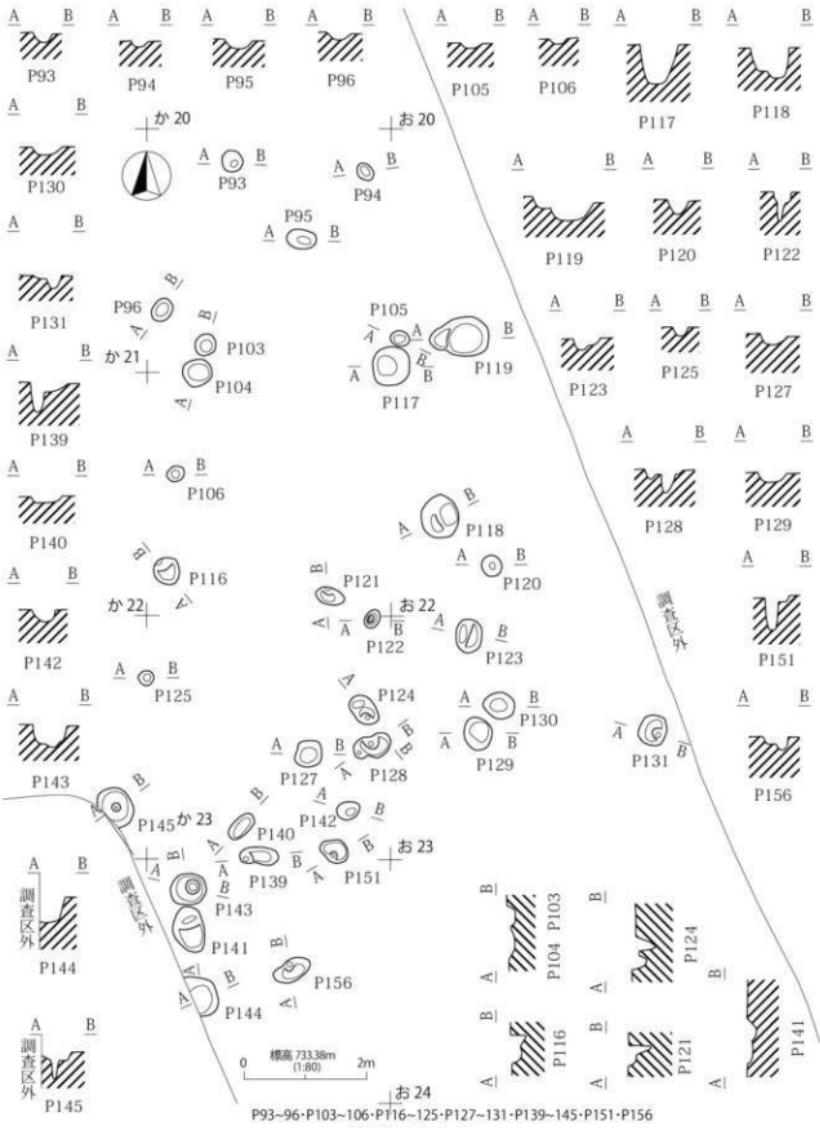
第38図 ピット(6)



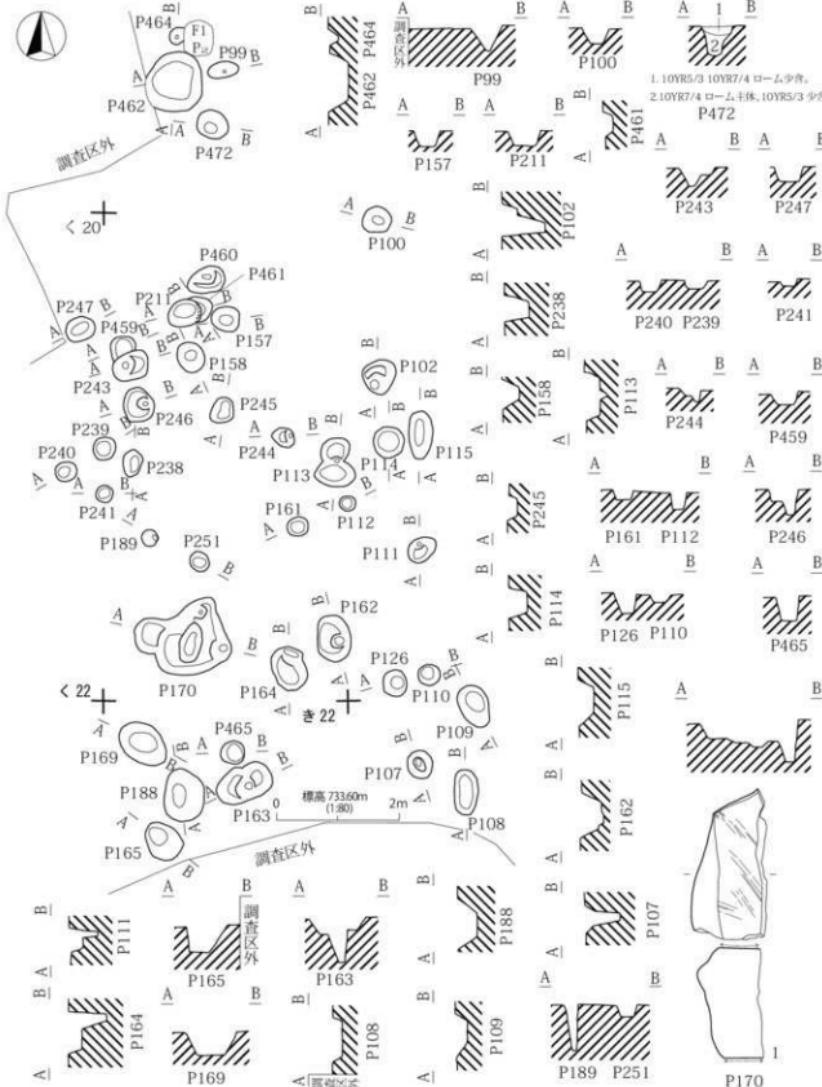
P313~320・P330・P331・P383号ビット
第39図 ビット(7)



第40図 ピット(8)

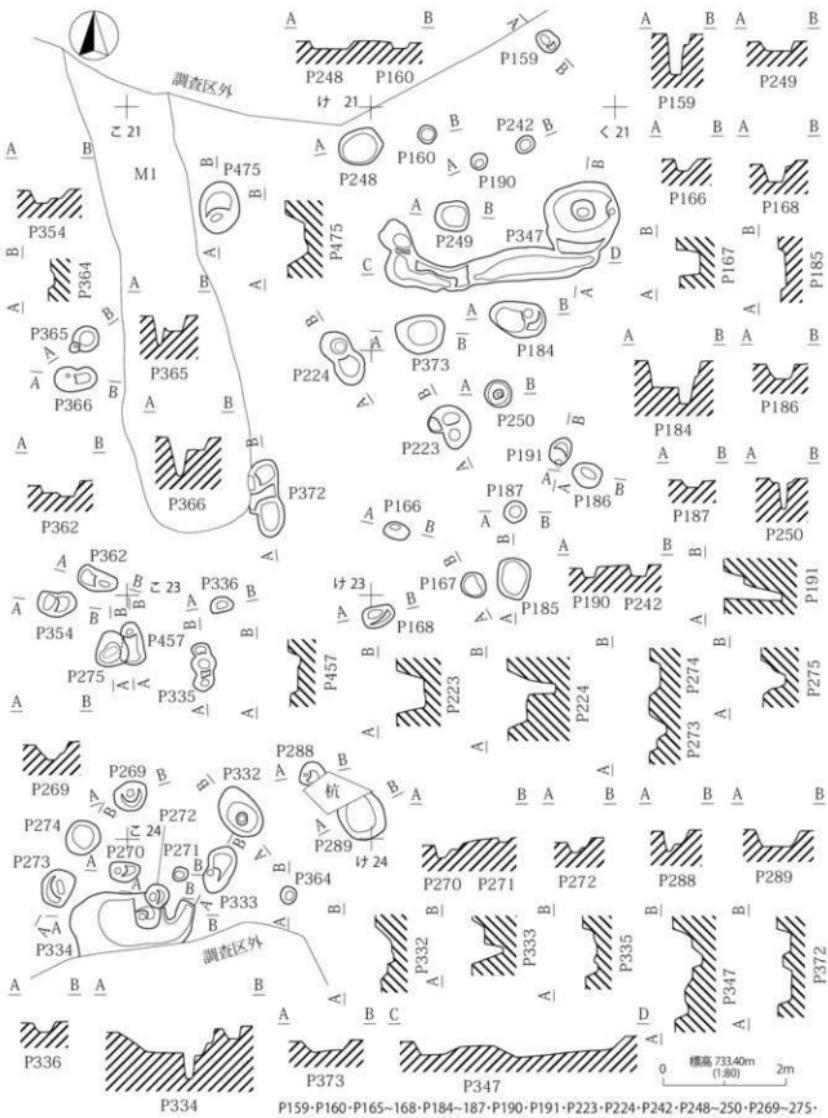


第41図 ピット(9)

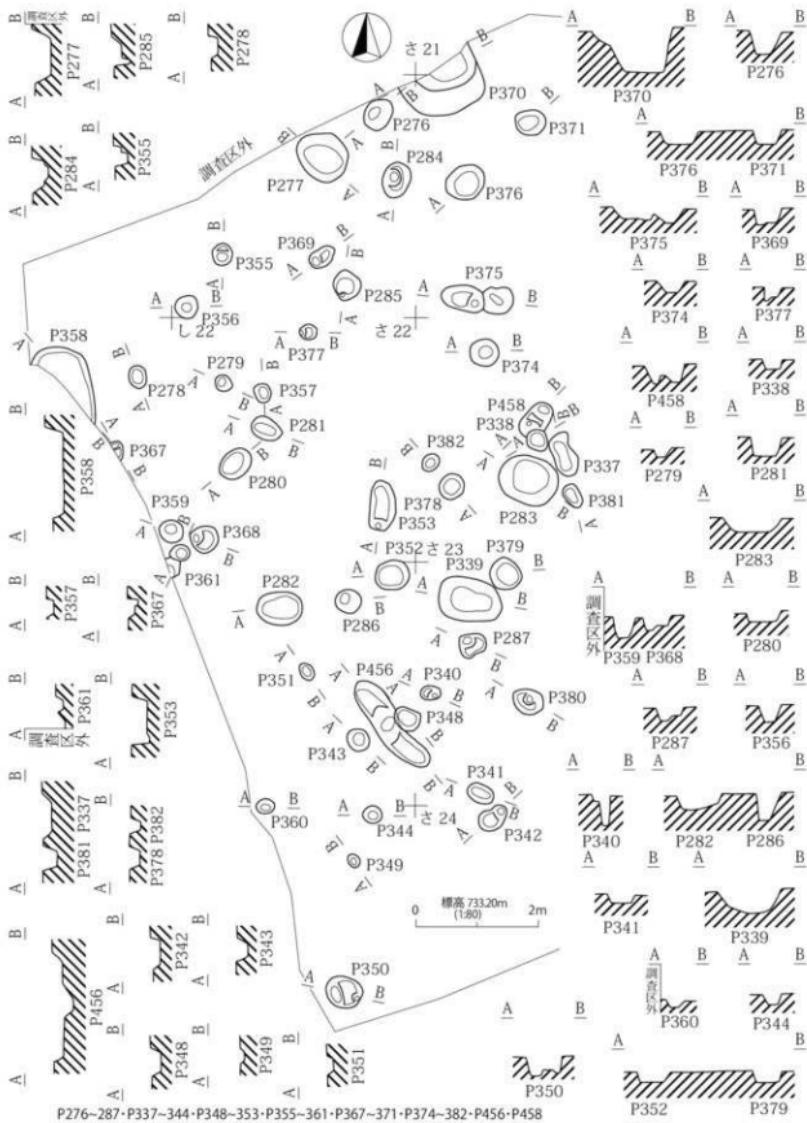


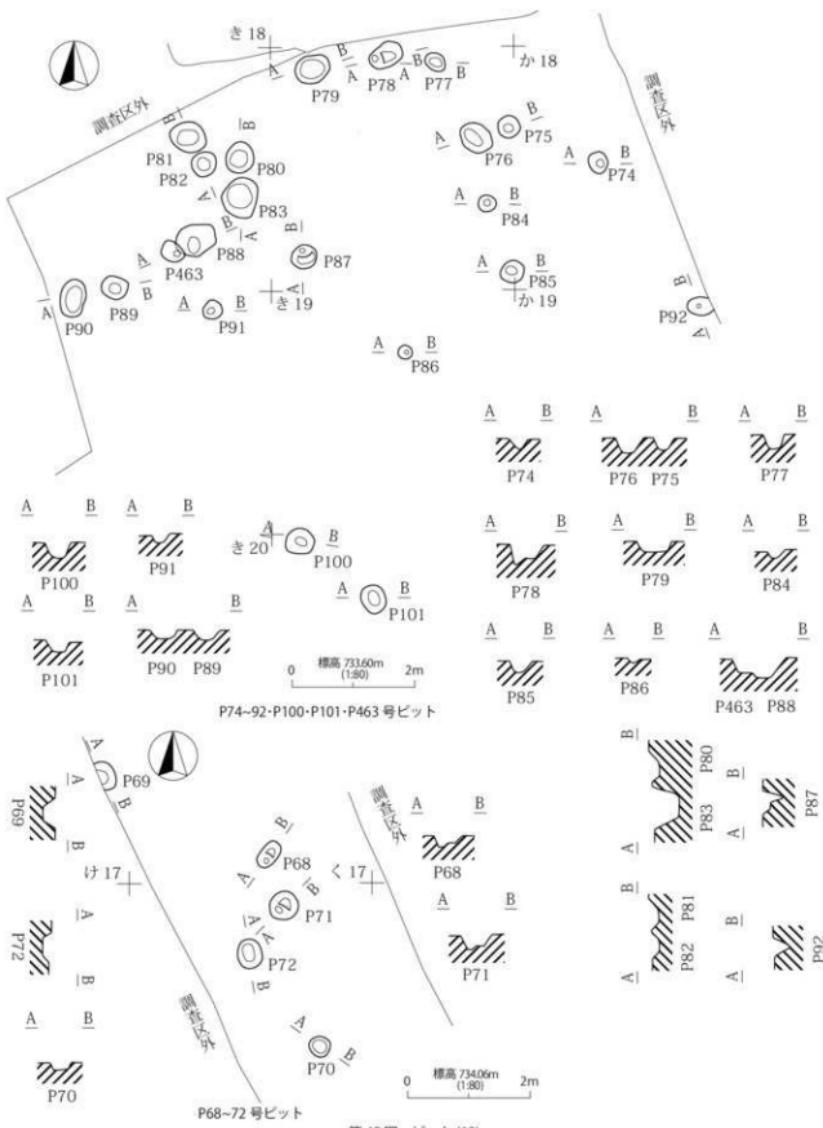
P99-100-102-107~115-126-157-158-161~165-169-170-188-211-238-241-243~247-251-459~462-464-465-472 号ビット

第42図 ビット(10)

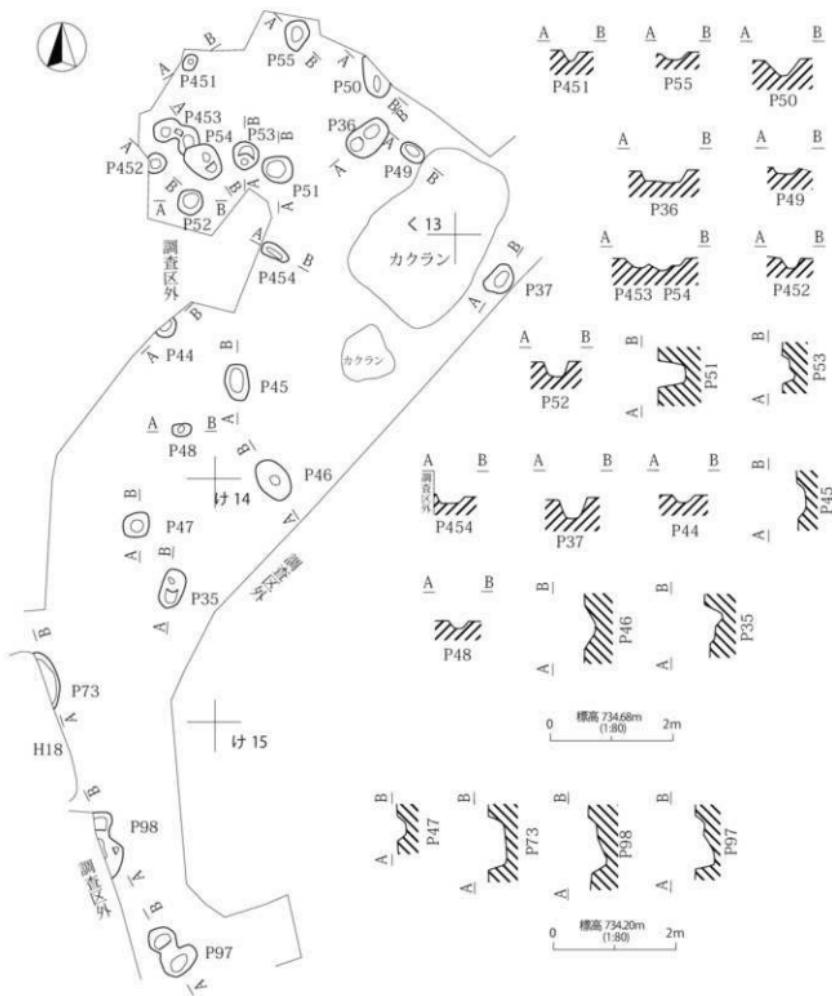


第43図 ピット(11)



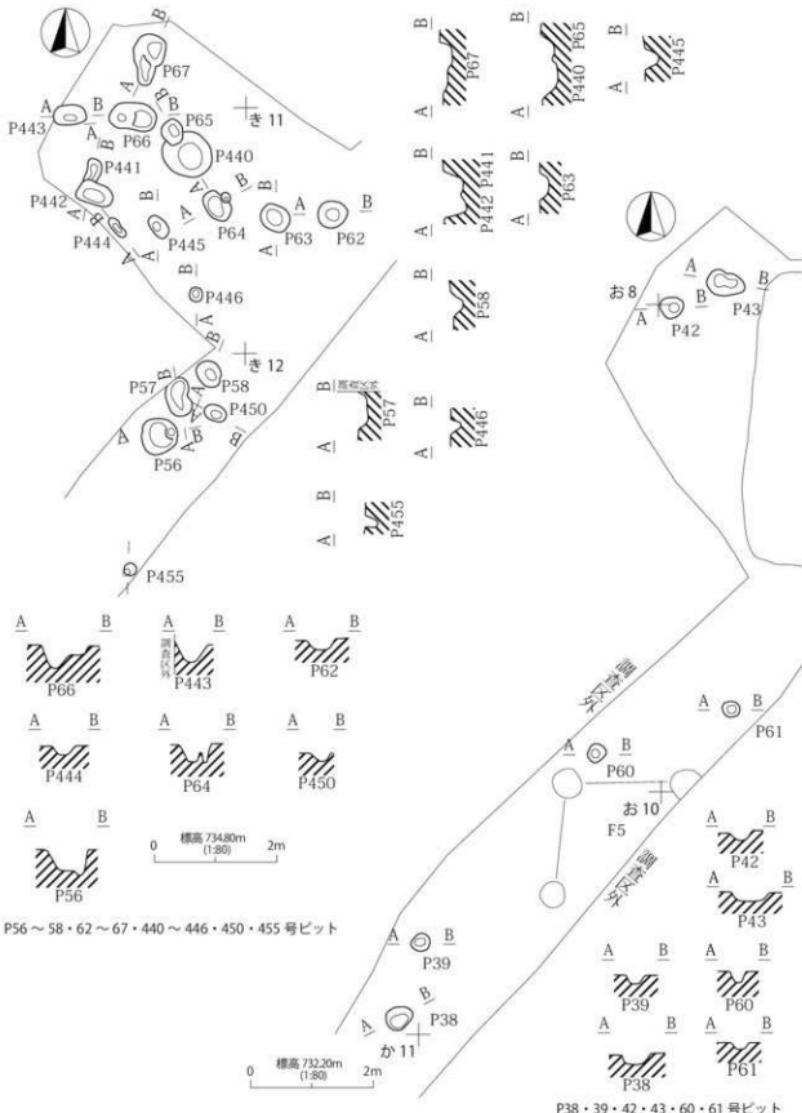


第45図 ピット(13)

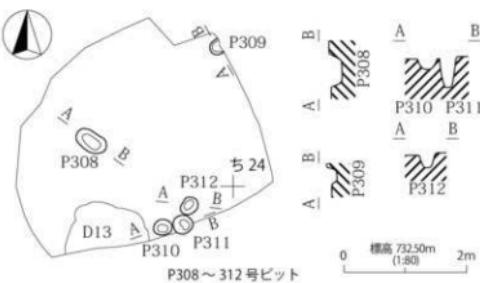
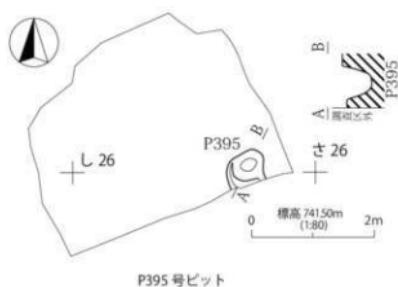
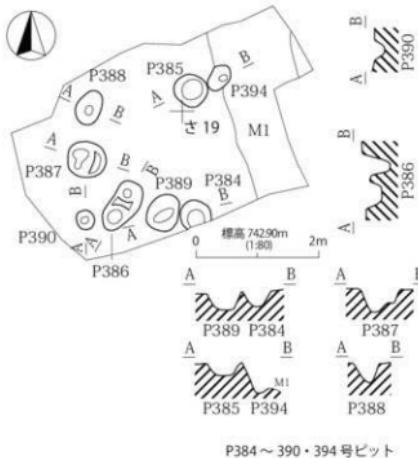
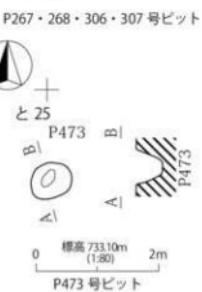
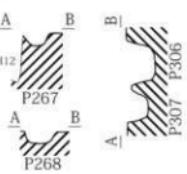
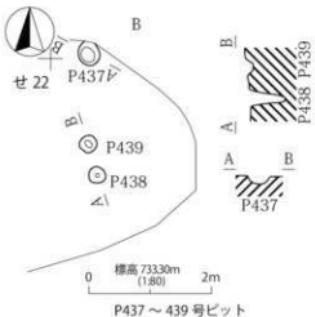


P35~37・P44~55・P73・P97・P98・P451~454 号ピット

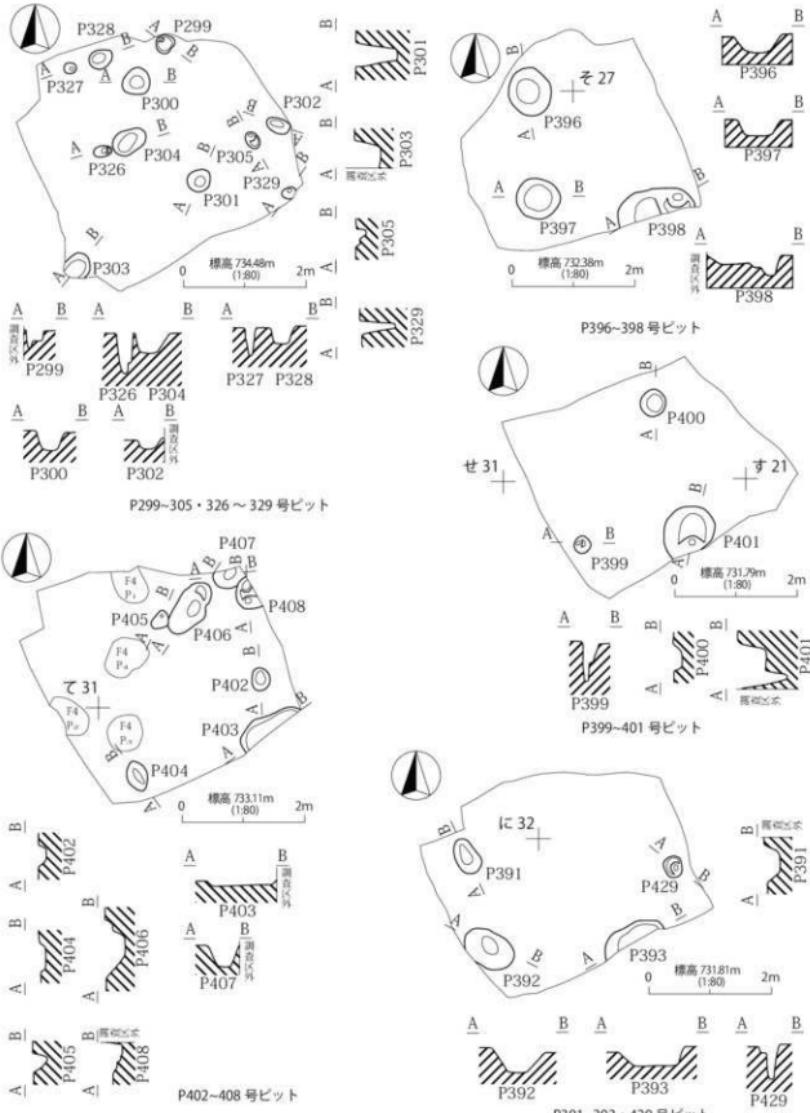
第46図 ピット (14)



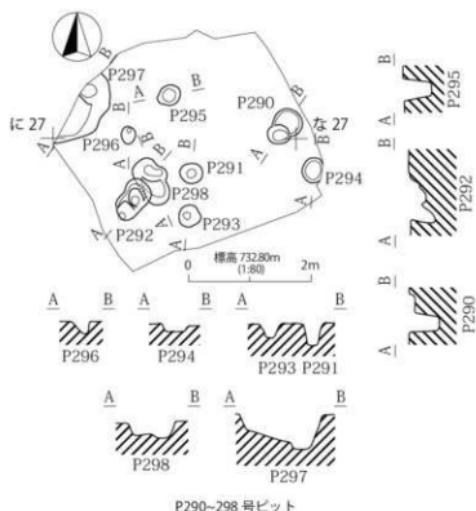
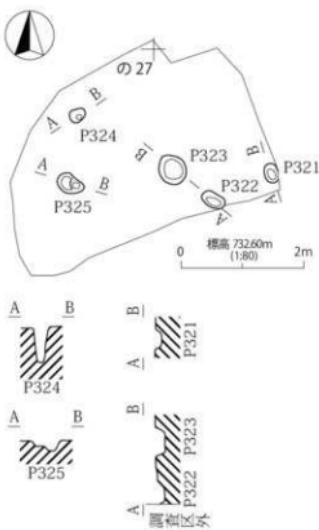
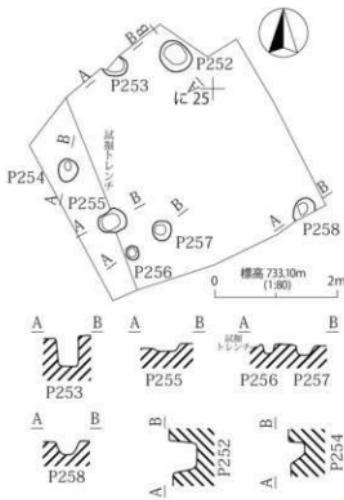
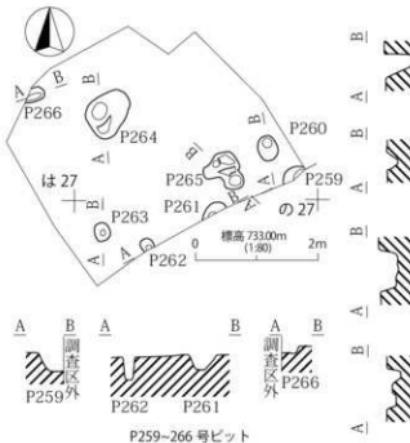
第47図 ピット(15)



第48図 ビット(16)



第49図 ピット(17)



第50図 ビット(18)

ピット計測表(1)

遺構名	平面形態	長軸長	短軸長	深	重複関係	備考	検出位置
P1	楕円形	0.42	0.34	0.11	—	I0YR4/6 ローム粒子多含。	な 20
P2	円形	0.30	0.28	0.20	—	I0YR4/6 ローム粒子多含。	な 20
P3	(円形)	(0.55)	0.54	0.57	調査区外にのびる。	I0YR4/6 ローム粒子多含。	な 21
P4	楕円形	0.50	0.40	0.19	—	I0YR4/6 ローム粒子多含。	な 20
P5	円形	0.55	0.53	0.25	—	I0YR4/6 ローム粒子多含。	に 21
P6	円形	0.34	0.31	0.16	—	I0YR4/6 ローム粒子多含。	に 20
P7	円形	0.37	0.36	0.14	—	I0YR4/6 ローム粒子多含。	に 21
P8	楕円形	0.53	0.44	0.23	—	I0YR4/6 ローム粒子多含。	ぬ 21
P9	楕円形	(0.65)	0.53	0.23	調査区外にのびる。	I0YR4/6 ローム粒子多含。	ね 22
P10	楕円形	0.47	0.35	0.18	—	I0YR4/6 ローム粒子多含。	ね 22
P11	円形	0.74	0.69	0.35	—	I0YR4/6 ローム粒子多含。	ぬ 21
P12	楕円形	0.80	0.66	0.28	—	I0YR2/2。	ぬ 21
P13	円形	0.64	0.61	0.42	—	I0YR2/2。	ふ 23
P14	楕円形	0.32	0.26	0.19	—	I0YR4/6 ローム粒子多含。	ふ 23
P15	—	—	—	0.51	調査区外にのびる。	I0YR2/2。	な 19
P16	楕円形	0.83	0.58	0.42	—	I0YR2/2。	ぬ 20
P17	楕円形	0.52	0.37	0.23	—	I0YR2/2。	ぬ 19
P18	楕円形	(1.50)	0.99	0.82	調査区外にのびる。	I0YR2/2。	と 18
P20	楕円形	0.37	0.25	0.20	—	I0YR2/2。	に 21
P21	楕円形	1.14	0.53	0.32	—	I0YR4/6。	つ 18
P22	楕円形	0.36	0.27	0.24	—	I0YR4/6。	た 16
P23	楕円形	1.21	0.71	0.24	—	I0YR2/2。	そ 16
P24	—	—	—	0.39	調査区外にのびる。	I0YR2/2。	せ 16
P25	楕円形	0.80	0.59	0.63	—	I0YR4/6 ローム含。	さ 9
P26	楕円形	0.42	0.36	0.27	—	I0YR4/6 ローム含。	さ 9
P27	楕円形	0.46	0.29	0.20	—	I0YR4/6 ローム含。	さ 9
P28	楕円形	0.66	0.58	0.17	—	I0YR4/6 ローム含。	こ 9
P29	楕円形	0.45	0.39	0.18	—	I0YR4/6 ローム含。	こ 9
P30	楕円形	0.54	0.40	0.20	—	I0YR3/2 ローム含。	こ 8
P31	円形	0.25	0.25	0.27	—	I0YR5/2 ローム含。	く 6
P32	楕円形	0.47	0.27	0.16	—	I0YR2/2。	く 6
P33	楕円形	0.59	0.49	0.10	—	I0YR2/2 ローム含。	き 5
P34	楕円形	0.51	0.43	0.17	—	I0YR2/2。	き 4
P35	楕円形	0.64	0.38	0.21	—	I0YR2/2 7/4 ローム少含。	け 14
P36	楕円形	0.74	0.46	0.18	—	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	く 12
P37	楕円形	0.54	0.38	0.37	—	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	き 13
P38	楕円形	0.46	0.38	0.17	—	I0YR5/3 7/4 ローム含。	か 10
P39	円形	0.29	0.28	0.19	—	I0YR5/3 7/4 ローム含。	お 10
P42	楕円形	0.40	0.32	0.14	—	I0YR4/3 7/4 ローム少含。	え 7
P43	楕円形	0.62	0.34	0.16	—	I0YR4/3 7/4 ローム少含。	え 7
P44	—	—	—	0.12	調査区外にのびる。	I0YR2/2 7/4 ローム少含。	け 13
P45	楕円形	0.58	0.38	0.16	—	I0YR2/2 7/4 ローム少含。	く 13
P46	楕円形	0.70	0.40	0.22	—	I0YR2/2 7/4 ローム少含。	く 13
P47	楕円形	0.48	0.40	0.16	—	I0YR2/2 7/4 ローム少含。	け 14
P48	楕円形	0.32	0.20	0.13	—	I0YR2/2 7/4 ローム少含。	け 13
P49	楕円形	0.40	0.26	0.11	—	I0YR2/2 7/4 ローム少含。	く 12
P50	楕円形	(0.74)	(0.32)	0.29	調査区外にのびる。	I0YR2/2 7/4 ローム少含。	く 12
P51	楕円形	0.52	0.44	0.45	—	I0YR6/4 (ローム2次堆積)、柱痕(I0YR3/2)φ 16cm	く 12
P52	円形	0.42	0.40	0.29	—	I0YR6/4 (ローム2次堆積)。	け 12
P53	円形	0.46	0.42	0.20	—	I0YR2/2 7/4 ローム少含。	く 12
P54	楕円形	0.66	0.46	0.23	P453を切る。	I0YR2/2 7/4 ローム少含。	く 12
P55	楕円形	0.50	0.40	0.18	—	I0YR5/3 7/4 ローム少含。	く 12
P56	円形	0.58	0.56	0.43	—	I0YR2/2 7/4 ローム少含。	き 12
P57	楕円形	(0.62)	0.36	0.22	調査区外にのびる。	I0YR2/2 7/4 ローム少含。	き 12
P58	楕円形	0.44	0.38	0.19	—	I0YR2/2 7/4 ローム少含。	き 12
P60	楕円形	0.30	0.22	0.18	—	I0YR5/3 7/4 ローム少含。	お 9
P61	楕円形	0.29	0.26	0.12	—	I0YR5/3 7/4 ローム少含。	え 9
P62	円形	0.46	0.42	0.18	—	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	か 11
P63	楕円形	0.50	0.42	0.15	—	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	か 11
P64	不整形	0.52	0.48	0.29	—	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	き 11
P65	円形	0.40	0.36	0.19	P440を切る。	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	き 11
P66	楕円形	0.80	0.44	0.41	—	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	き 10
P67	楕円形	0.80	0.44	0.41	—	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	き 10
P68	楕円形	0.47	0.28	0.18	—	I0YR4/2 7/4 ローム少含。	く 16
P69	—	—	—	0.19	調査区外にのびる。	I0YR2/2 7/4 ローム少含。	け 16
P70	円形	0.34	0.34	0.12	—	I0YR4/2 7/4 ローム少含。	く 17

ピット計測表(2)

君機名	平面形態	長軸長	短軸長	深	重複関係	備考	接出位置
P71	円形	0.50	0.46	0.25	-	10YR4/2 7/4 ローム少含。	く 17
P72	楕円形	0.48	0.40	0.16	-	10YR4/2 7/4 ローム少含。	く 17
P73	-	-	0.31	H18に切られる	-	10YR2/2 7/4 ローム少含。	け 14
P74	楕円形	0.36	0.32	0.18	-	10YR5/3 7/4 ローム少含。	お 18
P75	円形	0.36	0.36	0.20	-	10YR5/3 7/4 ローム多含。	お 18
P76	楕円形	0.58	0.44	0.24	-	10YR5/3 7/4 ローム多含。	か 18
P77	楕円形	0.36	0.28	0.24	-	10YR5/3 7/4 ローム多含。	か 18
P78	楕円形	0.60	0.40	0.36	-	10YR5/3 7/4 ローム多含。	か 18
P79	楕円形	0.60	0.46	0.18	-	10YR5/3 7/4 ローム多含。	か 18
P80	楕円形	0.52	0.44	0.16	-	10YR5/3 7/4 ローム多含、4/2 少含。	き 18
P81	楕円形	0.60	0.52	0.16	-	10YR5/3 7/4 ローム多含、4/2 少含。	き 18
P82	円形	0.42	0.40	0.14	-	10YR5/3 7/4 ローム多含、4/2 少含。	き 18
P83	楕円形	0.64	0.58	0.48	-	10YR5/3 7/4 ローム多含。	き 18
P84	円形	0.32	0.38	0.16	-	10YR4/3 ローム多含。	か 18
P85	円形	0.40	0.36	0.20	-	10YR4/3 ローム多含。	お 18
P86	円形	0.24	0.24	0.08	-	10YR6/6 黒色土ブロック多含。	か 19
P87	円形	0.42	0.40	0.32	-	10YR3/3.	か 18
P88	楕円形	0.58	0.50	0.40	P463を切る。	10YR3/3.	き 18
P89	楕円形	0.42	0.36	0.16	-	10YR3/3.	き 18
P90	楕円形	0.64	0.38	0.14	-	10YR3/3.	き 18
P91	円形	0.33	0.32	0.18	-	10YR4/3.	き 19
P92	楕円形	(0.44)	0.30	0.26	調査区外にのびる。	10YR4/3 ロームブロック・粗石多含。	お 18
P93	円形	0.38	0.34	0.16	-	10YR4/3.	お 20
P94	楕円形	0.32	0.25	0.12	-	10YR4/3.	お 20
P95	楕円形	0.48	0.32	0.16	-	10YR4/3.	お 20
P96	楕円形	0.44	0.32	0.12	-	10YR4/3.	お 20
P97	不整形	0.82	0.30	0.58	-	10YR2/2 7/4 ローム少含。	け 15
P98	-	-	-	0.33 調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	け 15	
P99	楕円形	0.51	0.27	0.41	-	10YR4/3. 2/2-7/4 ローム含。	き 19
P100	楕円形	0.45	0.40	0.25	-	10YR4/3. 2/2-7/4 ローム含。	か 20
P101	楕円形	0.48	0.40	0.20	-	10YR4/3. 2/2-7/4 ローム含。	か 20
P102	楕円形	0.58	0.52	0.71	-	10YR4/3. 2/2-7/4 ローム含。	か 20
P103	楕円形	0.36	0.32	0.14	-	10YR4/3. 2/2-7/4 ローム含。	お 20
P104	円形	0.48	0.46	0.10	-	10YR4/3. 2/2-7/4 ローム含。	お 20
P105	楕円形	0.32	0.24	0.08	-	10YR4/3. 2/2-7/4 ローム含。	え 20
P106	楕円形	0.30	0.26	0.12	-	10YR4/3. 2/2-7/4 ローム含。	お 20
P107	円形	0.45	0.42	0.57	-	10YR4/3. 2/2-7/4 ローム含。	か 22
P108	楕円形	0.75	0.39	0.15	-	10YR4/3. 2/2-7/4 ローム含。	か 22
P109	楕円形	0.73	0.48	0.30	-	10YR4/3. 2/2-7/4 ローム含。	か 22
P110	円形	0.36	0.35	0.13	-	10YR4/3. 7/4 ローム含。	か 21
P111	楕円形	0.49	0.37	0.47	-	10YR4/3. 7/4 ローム含。	か 21
P112	円形	0.26	0.24	0.28	-	10YR4/3. 7/4 ローム含。	か 21
P113	楕円形	0.80	0.67	0.27	-	10YR4/3. 7/4 ローム含。	か 21
P114	円形	0.51	0.49	0.30	-	10YR4/3. 7/4 ローム含。	か 20
P115	楕円形	0.76	0.40	0.27	-	10YR4/3. 7/4 ローム含。	か 20
P116	円形	0.48	0.44	0.24	-	10YR4/3. 7/4 ローム含。	お 21
P117	円形	0.70	0.64	0.64	-	10YR2/2 7/4 ローム少含。	え 20
P118	円形	0.68	0.64	0.62	-	10YR2/2 7/4 ローム少含。	え 21
P119	楕円形	1.00	0.64	0.34	H7を切る。	10YR4/2 2/2-7/4 ローム少含。	え 20
P120	楕円形	0.38	0.32	0.27	-	10YR4/2 7/4 ローム少含。	え 21
P121	楕円形	0.48	0.26	0.36	-	10YR4/2 7/4 ローム少含。	お 21
P122	楕円形	0.32	0.24	0.48	-	10YR4/3 7/4 ローム少含。	お 21
P123	楕円形	0.56	0.44	0.18	-	10YR4/3 7/4 ローム少含。	え 22
P124	楕円形	0.60	0.32	0.36	-	10YR4/3 7/4 ローム少含。	お 22
P125	円形	0.24	0.24	0.16	-	10YR4/3 7/4 ローム少含。	お 22
P126	円形	0.43	0.39	0.35	-	10YR4/3 7/4 ローム少含。	か 21
P127	円形	0.48	0.46	0.20	-	10YR4/3 7/4 ローム少含。	お 22
P128	楕円形	0.64	0.40	0.32	-	10YR4/3 7/4 ローム少含。	お 22
P129	楕円形	0.56	0.48	0.16	-	10YR2/2 7/4 ローム少含。	え 22
P130	楕円形	0.52	0.44	0.14	-	10YR2/2 7/4 ローム少含。	え 22
P131	楕円形	0.52	0.44	0.24	-	10YR2/2 7/4 ローム少含。	う 22
P135	楕円形	0.44	0.24	0.18	-	10YR4/3 7/4 ローム少含。	え 24
P136	楕円形	0.46	0.36	0.17	-	10YR4/3 7/4 ローム含。	え 24
P137	楕円形	0.60	0.44	0.24	-	10YR4/3 7/4 ローム含。	え 24
P138	楕円形	0.48	0.40	0.10	-	10YR4/3 7/4 ローム含。	え 23
P139	楕円形	0.64	0.32	0.48	-	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 22
P140	楕円形	0.52	0.28	0.14	-	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 22

ピット計測表(3)

構造名	平面形態	長軸長	短軸長	深	重複関係	備考	検出位置
P141	楕円形	0.76	0.52	0.16	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 23
P142	楕円形	0.38	0.30	0.20	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 22
P143	楕円形	0.60	0.50	0.36	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 23
P144	—	—	—	0.44	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 23
P145	楕円形	0.68	(0.48)	0.48	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	か 22
P146	楕円形	0.56	0.44	0.24	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	え 25
P147	楕円形	0.40	0.28	0.16	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	え 25
P148	楕円形	0.56	0.40	0.20	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	う 25
P149	楕円形	0.62	0.52	0.32	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	う 25
P151	楕円形	0.48	0.40	0.52	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 22
P152	楕円形	0.32	0.28	0.22	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	え 26
P153	楕円形	0.44	0.36	0.34	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 26
P154	楕円形	0.68	0.35	0.24	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 26
P155	楕円形	0.38	0.32	0.32	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 26
P156	楕円形	0.64	0.36	0.28	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	お 23
P157	楕円形	0.46	0.40	0.28	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	え 20
P158	楕円形	0.50	0.43	0.28	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	え 20
P159	楕円形	0.39	0.30	0.68	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 20
P160	円形	0.30	0.29	0.11	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 21
P161	円形	0.32	0.30	0.16	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 21
P162	楕円形	0.77	0.55	0.36	—	10YR5/3 7/4 ローム多含。	き 21
P163	楕円形	0.84	0.58	0.74	—	10YR5/3 7/4 ローム多含。	き 22
P164	楕円形	0.72	0.54	0.63	—	10YR4/2 7/4 ローム含。	き 21
P165	楕円形	0.67	0.58	0.50	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	き 22
P166	楕円形	0.41	0.28	0.20	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	く 22
P167	円形	0.42	0.41	0.39	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	く 22
P168	楕円形	0.53	0.38	0.35	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	く 23
P169	楕円形	0.88	0.62	0.41	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	き 22
P170	不整形	1.62	1.32	0.78	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	き 21
P171	楕円形	0.51	(0.40)	0.37	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	な 37
P172	円形	0.36	0.34	0.20	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	に 37
P173	—	—	—	0.32	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	に 38
P174	—	—	—	0.51	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	な 38
P175	楕円形	0.28	0.25	0.51	—	10YR3/2 7/4 ローム多含。	な 38
P176	—	—	—	0.29	調査区外にのびる。	10YR4/2 7/4 ローム少含。	な 38
P177	—	—	—	0.60	調査区外にのびる。P209を切る。	10YR4/3 7/4 ローム少含。	に 35
P178	楕円形	0.55	0.46	0.36	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	ぬ 34
P179	楕円形	1.00	(0.51)	0.27	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	ぬ 34
P180	—	—	—	0.17	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ぬ 34
P181	楕円形	0.72	0.52	0.40	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ぬ 34
P182	楕円形	0.35	0.30	0.20	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ぬ 35
P183	楕円形	1.03	0.92	0.31	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	に 36
P184	楕円形	0.94	0.60	0.72	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 21
P185	楕円形	0.67	0.57	0.15	—	10YR4/2 7/4 ローム少含。	く 22
P186	楕円形	0.48	0.41	0.24	—	10YR5/3 7/4 ローム含。	く 22
P187	円形	0.36	0.36	0.12	—	10YR5/3 7/4 ローム含。	く 22
P188	楕円形	0.86	0.66	0.33	—	10YR5/3 7/4 ローム含。	き 22
P189	円形	0.27	0.26	0.75	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	き 21
P190	円形	0.27	0.26	0.17	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	く 21
P191	楕円形	0.44	0.34	0.95	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	く 22
P192	—	—	—	0.21	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	な 38
P193	—	—	—	0.10	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム少含。	に 37
P194	不整形	(1.08)	1.00	0.33	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	な 38
P195	楕円形	0.29	0.25	0.15	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	に 36
P196	楕円形	0.32	0.27	0.17	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	ぬ 35
P197	不整形	0.59	0.28	0.17	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	ぬ 33
P198	楕円形	0.52	0.40	0.36	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	ぬ 33
P199	—	—	—	0.16	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	ぬ 32
P200	—	—	—	0.31	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	ぬ 32
P201	楕円形	1.56	0.20	0.36	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ぬ 32
P202	楕円形	0.28	0.20	0.28	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	ぬ 32
P203	楕円形	0.32	(0.24)	0.13	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	ね 33
P204	楕円形	0.48	0.32	0.16	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	ね 33
P205	楕円形	0.54	0.36	0.20	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	ね 33
P206	楕円形	0.80	0.60	0.29	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	の 32
P207	楕円形	0.45	0.40	0.24	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	の 32
P208	楕円形	0.76	—	0.28	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	の 32

ピット計測表(4)

君機名	平底形態	長軸長	短軸長	深	重複関係	備考	検出位置
P209	楕円形	(0.54)	0.37	0.76	P177に切られる	10YR2/2 7/4 ローム含。	に 35
P210	不整形	0.35	0.29	0.11	—	10YR2/2 7/4 ローム各。	ぬ 34
P211	楕円形	0.55	0.43	0.24	P461を切る。	10YR4/3 7/4 ローム少含。	き 20
P212	不整形	—	—	0.54	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム 4/3 少含。	ぬ 33
P213	不整形	1.62	1.08	0.64	調査区外にのびる。P214を切る。	10YR2/2 7/4 ローム 4/3 少含。	ぬ 33
P214	楕円形	(1.32)	(0.80)	0.60	P213・調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム 4/3 少含。	の 32
P215	楕円形	0.76	0.64	0.20	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	の 32
P216	楕円形	0.48	(0.32)	0.12	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	の 32
P217	楕円形	0.46	0.32	0.16	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	の 31
P218	—	—	—	0.24	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	の 31
P219	楕円形	0.58	(0.48)	0.28	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム少含。	の 31
P220	楕円形	0.57	0.38	0.33	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	は 30
P221	楕円形	1.33	(0.68)	0.35	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ひ 27
P222	—	—	—	0.34	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ふ 26
P223	不整形	0.76	0.62	0.50	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	く 22
P224	楕円形	0.98	0.48	0.78	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	け 22
P225	楕円形	0.42	(0.26)	0.58	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ぬ 33
P226	楕円形	0.88	0.60	0.25	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ぬ 34
P227	円形	0.54	0.53	0.28	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	の 33
P228	楕円形	0.68	0.56	0.38	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	の 31
P229	—	—	—	0.22	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ひ 27
P230	—	—	—	0.28	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ひ 27
P231	楕円形	0.58	0.49	0.19	—	10YR4/3 2/2/7/4 ローム少含。	ひ 26
P232	円形	0.45	0.41	0.23	—	10YR4/3 2/2/7/4 ローム少含。	ふ 25
P233	楕円形	0.42	0.28	0.14	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ふ 25
P234	楕円形	0.36	0.30	0.16	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ふ 24
P235	楕円形	(0.35)	0.29	0.13	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	へ 24
P236	楕円形	0.40	0.35	0.11	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	ふ 24
P237	—	—	—	0.18	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム少含。	ひ 26
P238	楕円形	0.44	0.33	0.40	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 21
P239	円形	0.38	0.36	0.15	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 20
P240	楕円形	0.36	0.31	0.18	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 21
P241	円形	0.28	0.28	0.12	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 21
P242	楕円形	0.32	0.28	0.19	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 21
P243	楕円形	0.62	0.46	0.33	P459を切る。	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 20
P244	楕円形	0.38	0.30	0.23	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 20
P245	楕円形	0.43	0.37	0.16	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 20
P246	楕円形	0.56	0.51	0.42	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 20
P247	楕円形	0.49	0.39	0.25	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 20
P248	楕円形	0.73	0.58	0.13	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 21
P249	楕円形	0.57	0.46	0.16	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 21
P250	円形	0.43	0.43	0.51	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 22
P251	楕円形	0.34	0.30	0.19	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	き 21
P252	楕円形	0.55	0.47	0.47	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	に 24
P253	—	—	—	0.50	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	に 24
P254	楕円形	0.38	0.31	0.25	Tレンジに切られる。	10YR2/2 7/4 ローム含。	に 25
P255	楕円形	0.46	0.32	0.13	Tレンジに切られる。	10YR4/3 7/4 ローム含。	に 25
P256	楕円形	0.24	0.20	0.15	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	に 25
P257	円形	0.32	0.39	0.17	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	に 25
P258	楕円形	0.38	(0.28)	0.22	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム含。	な 25
P259	—	—	—	0.30	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム含。	の 26
P260	楕円形	0.40	0.32	0.46	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	の 26
P261	—	—	—	0.25	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム含。	の 27
P262	—	—	—	0.38	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム含。	の 27
P263	楕円形	0.30	0.25	0.19	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	の 27
P264	楕円形	0.84	0.64	0.31	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	の 26
P265	不整形	0.66	0.58	0.24	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	の 26
P266	楕円形	(0.28)	0.22	0.15	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム含。	は 26
P267	円形	0.44	0.40	0.22	H12を切る。	10YR4/3 7/4 ローム少含。	つ 21
P268	—	—	—	0.19	H12を切る。	10YR7/7 ローム主体、4/3・2/2 少含。	つ 21
P269	楕円形	0.58	0.49	0.30	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	け 23
P270	楕円形	0.50	0.32	0.18	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	け 24
P271	円形	0.24	0.24	0.07	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	け 24
P272	円形	0.40	0.37	0.22	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	け 24
P273	楕円形	0.62	0.52	0.28	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	こ 24
P274	円形	0.59	0.55	0.17	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	こ 23
P275	円形	0.57	0.52	0.41	P457を切る。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 23

ピット計測表(5)

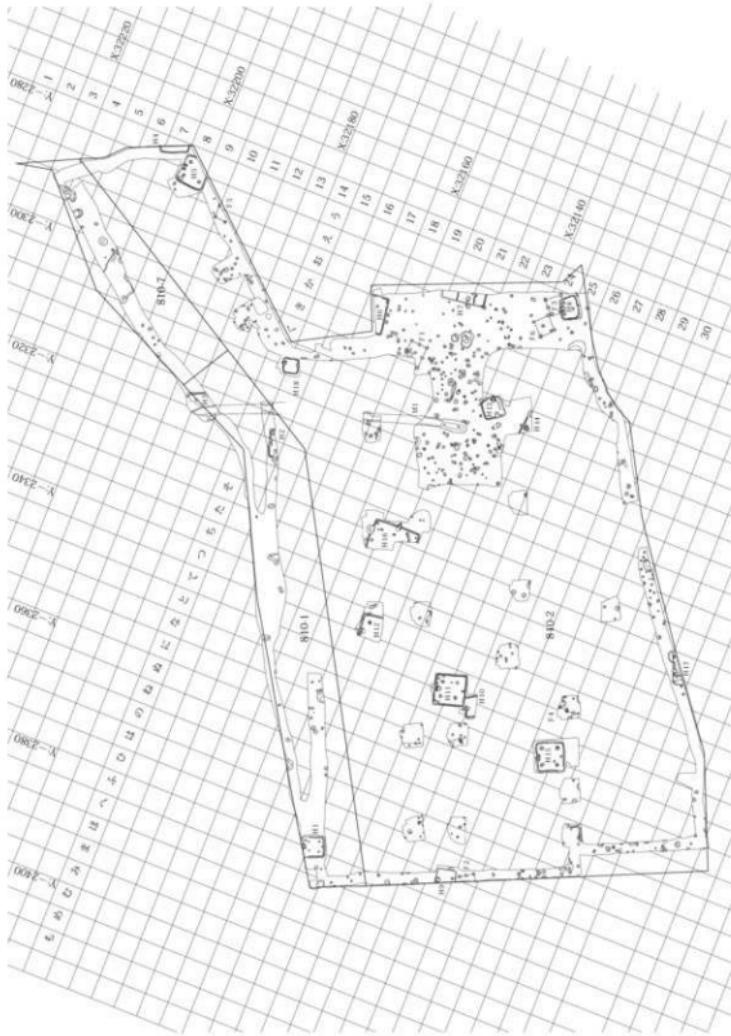
測定名	平面形態	長軸長	短軸長	深	重複関係	備考	検出周
P276	楕円形	0.56	0.42	0.41	—	I0YR3/2 7/4 ローム含。	さ 21
P277	楕円形	0.88	0.76	0.33	—	I0YR3/2 7/4 ローム含。	さ 21
P278	楕円形	0.37	0.29	0.16	—	I0YR3/2 7/4 ローム含。	じ 22
P279	楕円形	0.30	0.25	0.15	—	I0YR3/2 7/4 ローム含。	さ 22
P280	楕円形	0.58	0.42	0.12	—	I0YR3/2 7/4 ローム含。	さ 22
P281	楕円形	0.51	0.36	0.33	—	I0YR3/2 7/4 ローム含。	さ 22
P282	楕円形	0.74	0.54	0.26	—	I0YR3/2 7/4 ローム含。	さ 23
P283	楕円形	0.99	0.77	0.24	—	I0YR3/2 7/4 ローム含。	じ 22
P284	楕円形	0.59	0.45	0.27	—	I0YR3/2 7/4 ローム含。	さ 21
P285	円形	0.50	0.46	0.30	—	I0YR3/2 7/4 ローム含。	さ 21
P286	円形	0.42	0.40	0.46	—	I0YR3/2 7/4 ローム含。	さ 23
P287	楕円形	0.45	0.34	0.24	—	I0YR3/2 7/4 ローム含。	じ 23
P288 (P26)	円形	0.43	(0.32)	0.35	調査区外にのびる。	I0YR3/2 7/4 ローム含。	け 23
P289	楕円形	—	0.74	0.28	調査区外にのびる。	I0YR4/3 7/4 ローム含。	く 23
P290	楕円形	0.65	0.48	0.52	—	I0YR4/3 7/4 ローム・3/2 含。	じ 26
P291	楕円形	0.38	0.32	0.37	—	I0YR4/3 7/4 ローム・3/2 含。	な 27
P292	楕円形	0.68	0.44	0.41	P298 を切る。	I0YR4/3 7/4 ローム・3/2 含。	な 27
P293	円形	0.36	0.35	0.23	—	I0YR5/2 7/4 ローム含。	な 27
P294	楕円形	0.42	(0.32)	0.12	調査区外にのびる。	I0YR5/2 7/4 ローム含。	じ 27
P295	楕円形	0.38	0.33	0.20	—	I0YR5/2 7/4 ローム含。	な 26
P296	楕円形	0.28	0.23	0.20	—	I0YR5/2 7/4 ローム含。	な 26
P297	—	—	—	0.58	調査区外にのびる。	I0YR5/2 4/3・7/4 ローム多含。	な 26
P298	楕円形	0.79	0.52	0.27	P292 に切られる。	I0YR5/2 4/3・7/4 ローム多含。	な 27
P299	楕円形	0.34	0.27	0.29	—	I0YR5/3 7/4 ローム含。	5 27
P300	円形	0.44	0.43	0.33	—	I0YR5/3 7/4 ローム含。	5 27
P301	円形	0.38	0.37	0.69	—	I0YR4/3 7/4 ローム含。	5 27
P302	楕円形	0.40	0.24	0.17	—	I0YR4/3 7/4 ローム含。	5 27
P303	—	—	—	0.41	調査区外にのびる。	I0YR4/3 7/4 ローム含。	つ 28
P304	楕円形	0.58	0.39	0.34	—	I0YR4/2 7/4 ローム含。	5 27
P305	楕円形	0.29	0.20	0.18	—	I0YR4/2 7/4 ローム含。	5 27
P306	楕円形	0.78	0.60	0.45	—	I0YR3/2 4/3・7/4 ローム多含。	5 21
P307	楕円形	0.56	0.44	0.34	—	I0YR3/2 4/3・7/4 ローム多含。	5 21
P308	楕円形	0.54	0.32	0.22	—	I0YR4/3 7/4 ローム多含。	5 23
P309	—	—	—	0.17	調査区外にのびる。	I0YR4/3 7/4 ローム多含。	5 23
P310	楕円形	0.30	0.26	0.18	—	I0YR4/3 7/4 ローム多含。	5 24
P311	円形	0.32	0.30	0.49	—	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	5 24
P312	楕円形	0.30	0.24	0.22	—	I0YR4/2 7/4 ローム多含。	5 24
P313	楕円形	1.00	0.60	0.31	—	I0YR4/2 7/4 ローム多含。	か 27
P314	円形	0.44	0.40	0.41	—	I0YR5/3 7/4 ローム多含。	か 27
P315	—	—	—	0.40	調査区外にのびる。	I0YR5/3 7/4 ローム多含。	さ 28
P316	楕円形	1.04	0.36	0.14	—	I0YR5/3 7/4 ローム多含。	か 27
P317	楕円形	0.24	0.16	0.90	—	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	お 27
P318	楕円形	0.56	0.32	0.16	—	I0YR5/3 7/4 ローム少含。	か 27
P319	楕円形	0.28	0.22	0.18	—	I0YR5/3 7/4 ローム少含。	か 27
P320	円形	0.60	0.58	0.52	P331 を切る。	I0YR5/3 7/4 ローム少含。	か 27
P321	楕円形	0.32	(0.20)	0.12	調査区外にのびる。	I0YR4/3 7/4 ローム少含。	ね 28
P322	楕円形	(0.40)	0.22	0.13	調査区外にのびる。	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	ね 28
P323	楕円形	0.50	0.43	0.13	—	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	ね 28
P324	楕円形	0.28	0.21	0.60	—	I0YR4/3 7/4 ローム少含。	の 28
P325	楕円形	0.46	0.30	0.16	—	I0YR4/3 7/4 ローム少含。	の 28
P326	楕円形	0.28	0.18	0.67	—	I0YR6/4 7/4 ローム含。	5 27
P327	円形	0.20	0.18	0.49	—	I0YR6/4 7/4 ローム含。	つ 27
P328	楕円形	0.40	0.32	0.30	—	I0YR4/3 7/4 ローム含。	5 27
P329	楕円形	0.24	(0.20)	0.59	調査区外にのびる。	I0YR6/4 7/4 ローム含。	5 27
P330	楕円形	0.50	0.40	0.32	—	I0YR5/3 7/4 ローム含。	お 26
P331	楕円形	0.76	0.48	0.42	P320 に切られる。	I0YR4/3 7/4 ローム含。	か 27
P332	楕円形	0.88	0.60	0.32	—	I0YR4/3 2/2・7/4 ローム少含。	け 23
P333	楕円形	0.83	0.48	0.53	—	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	け 24
P334	楕円形	2.00	—	0.81	P272 に切られる。	I0YR5/3 7/4 ローム少含。	け 24
P335	楕円形	0.80	0.41	0.25	—	I0YR4/3 7/4 ローム少含。	け 23
P336	楕円形	0.37	0.25	0.17	—	I0YR4/3 7/4 ローム少含。	け 23
P337	楕円形	0.70	0.38	0.17	—	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 22
P338	円形	0.36	0.35	0.17	P458 を切る。	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 22
P339	楕円形	1.06	0.70	0.42	—	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 23
P340	楕円形	0.32	0.24	0.51	—	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 23
P341	楕円形	0.44	0.29	0.14	—	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 23
P342	楕円形	0.52	0.38	0.16	—	I0YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 24

ピット計測表(6)

基準名	平面形態	長軸長	短軸長	深	重複関係	備考	検出位置
P343	円形	0.39	0.35	0.19	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	さ 23
P344	楕円形	0.31	0.28	0.18	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	さ 24
P345	円形	0.44	0.40	0.20	H8 を切る。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	い 24
P346	円形	0.20	0.18	0.20	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	い 24
P347	不整形	3.54	1.47	0.51	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	く 21
P348	楕円形	0.46	0.35	0.17	P456 を切る。	10YR6/4 7/4 ローム少含。	こ 23
P349	楕円形	0.23	0.18	0.08	—	10YR4/3 7/4 ローム多含。	さ 24
P350	楕円形	0.62	0.51	0.33	—	10YR3/3 7/4 ローム多含。	さ 24
P351	楕円形	0.30	0.22	0.12	—	10YR3/2 7/4 ローム多含。	さ 23
P352	楕円形	0.57	0.47	0.16	—	10YR3/2 7/4 ローム多含。	さ 23
P353	楕円形	0.81	0.43	0.30	—	10YR3/2 7/4 ローム多含。	さ 22
P354	楕円形	0.64	0.40	0.22	—	10YR4/3 7/4 ローム多含。	こ 23
P355	楕円形	0.38	0.32	0.24	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	さ 21
P356	円形	0.38	0.36	0.29	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	さ 21
P357	楕円形	0.32	0.28	0.13	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	さ 22
P358	—	—	—	0.30	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	し 22
P359	円形	0.40	0.36	0.14	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	さ 22
P360	楕円形	0.30	0.24	0.13	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	さ 23
P361	楕円形	(0.42)	0.20	0.15	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	さ 22
P362	楕円形	0.65	0.36	0.25	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 22
P364	楕円形	0.30	0.26	0.10	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	け 24
P365	楕円形	0.54	0.41	0.48	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 21
P366	楕円形	0.70	0.42	0.65	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 22
P367	—	—	—	0.18	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	し 22
P368	円形	0.46	0.46	0.23	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	さ 22
P369	楕円形	0.46	0.30	0.28	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	さ 21
P370	—	—	—	0.75	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム多含。	こ 20
P371	楕円形	0.50	0.43	0.23	—	10YR4/3 7/4 ローム少含。	こ 21
P372	楕円形	1.26	—	0.27	M1 に切られる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	け 22
P373	楕円形	0.80	0.63	0.20	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	く 21
P374	円形	0.47	0.43	0.19	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 22
P375	楕円形	1.18	0.44	0.27	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 21
P376	楕円形	0.65	0.57	0.21	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 21
P377	楕円形	0.29	0.26	0.23	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	さ 22
P378	円形	0.42	0.39	0.19	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 22
P379	円形	0.52	0.48	0.22	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 23
P380	楕円形	0.54	0.42	0.23	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 23
P381	楕円形	0.42	0.26	0.23	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 22
P382	楕円形	0.31	0.24	0.17	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	こ 22
P383	楕円形	(2.00)	(0.40)	0.41	D12 に切られる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	お 26
P384	—	—	—	0.28	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム含。	こ 19
P385	円形	0.53	0.52	0.22	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	こ 19
P386	楕円形	0.88	0.44	0.46	—	10YR4/2 7/4 ローム含。	さ 19
P387	円形	0.63	0.58	0.40	—	10YR4/2 7/4 ローム含。	さ 19
P388	楕円形	0.58	0.42	0.33	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	さ 18
P389	楕円形	0.60	0.50	0.32	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	さ 19
P390	円形	0.30	0.28	0.25	—	10YR2/2 7/4 ローム含。	さ 19
P391	楕円形	0.61	0.38	0.26	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	に 32
P392	楕円形	0.86	0.47	0.40	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム含。	に 32
P393	—	—	—	0.32	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム含。	な 32
P394	楕円形	0.56	0.30	0.52	M1 に切られる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	こ 18
P395	—	—	—	0.57	調査区外にのびる。	10YR5/3 7/4 ローム多含。	さ 25
P396	楕円形	0.80	0.70	0.30	—	10YR6/3 7/4 ローム少含。	そ 26
P397	楕円形	0.72	0.66	0.26	—	10YR6/3 7/4 ローム少含。	そ 27
P398	—	—	—	0.38	調査区外にのびる。	10YR6/3 7/4 ローム少含。	せ 27
P399	円形	0.27	0.27	0.66	—	10YR6/2 2/2 ローム少含。	す 31
P400	円形	0.44	0.42	0.14	—	10YR6/3 2/2 ローム少含。	す 30
P401	(楕円形)	(0.88)	0.76	0.80	調査区外にのびる。	10YR6/3 2/2-7/4 ローム含。	す 31
P402	楕円形	0.36	0.30	0.13	—	10YR4/3 7/4 ローム多含。	つ 30
P403	—	—	—	0.11	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム多含。	つ 31
P404	楕円形	0.52	0.34	0.11	—	10YR4/3 7/4 ローム多含。	つ 31
P405	楕円形	0.32	0.24	0.14	—	10YR4/3 7/4 ローム多含。	つ 30
P406	楕円形	0.97	0.50	0.33	—	10YR4/3 7/4 ローム多含。	つ 30
P407	—	—	—	0.34	P408 を切る。	10YR6/3 7/4 ローム含。	つ 30
P408	—	—	—	0.25	P407 に切られる。	10YR6/3 7/4 ローム含。	つ 30
P409	楕円形	(0.69)	0.58	0.20	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	と 36
P410	楕円形	0.60	0.53	0.20	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	と 36

ピット計測表(7)

測定名	平面形態	長軸長	短軸長	深	重複関係	備考	移出位置
P411	—	—	—	0.41	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	な 37
P412	—	—	—	0.09	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	と 37
P413	楕円形	0.24	0.20	0.16	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	と 37
P414	楕円形	0.50	0.43	0.13	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	た 34
P415	楕円形	0.41	0.38	0.34	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	た 34
P416	楕円形	0.78	0.60	0.30	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	せ 33
P417	楕円形	0.69	0.44	0.34	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	す 32
P418	楕円形	0.46	0.30	0.23	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	さ 31
P419	楕円形	0.36	0.25	0.30	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	し 31
P420	楕円形	0.44	0.20	0.11	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	さ 31
P421	楕円形	0.42	0.33	0.20	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	し 31
P422	円形	0.40	0.38	0.41	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	し 32
P423	楕円形	0.56	(0.36)	0.51	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	し 32
P424	楕円形	0.28	0.22	0.25	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	す 32
P425	円形	0.42	0.38	0.30	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	せ 32
P426	楕円形	0.55	0.34	0.22	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	す 32
P427	楕円形	0.37	0.26	0.44	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	せ 33
P428	楕円形	0.57	(0.28)	0.34	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	す 33
P429	楕円形	0.37	0.38	0.55	—	10YR4/3 7/4 ローム多含。	な 32
P430	円形	0.28	0.28	0.23	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	す 32
P431	楕円形	0.48	0.30	0.12	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	す 32
P432	円形	0.40	0.40	0.25	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	す 32
P433	楕円形	0.49	0.28	0.22	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	し 31
P434	楕円形	0.28	0.22	0.15	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	し 31
P435	円形	0.34	0.32	0.21	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	し 31
P436	—	—	—	0.63	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	し 32
P437	楕円形	0.42	(0.32)	0.15	調査区外にのびる。	10YR4/3 7/4 ローム含。	す 21
P438	円形	0.28	0.28	0.59	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	す 22
P439	楕円形	0.30	0.26	0.13	—	10YR4/3 7/4 ローム含。	す 22
P440	楕円形	(0.80)	0.70	0.23	P65 に切られる	10YR3/2 7/4 ローム含。	き 11
P441	楕円形	0.40	0.18	0.26	P442 に切られる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 11
P442	楕円形	0.60	0.34	0.32	P441 を切る。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 11
P443	楕円形	0.50	0.32	0.32	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 11
P444	楕円形	0.34	0.12	0.16	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 11
P445	楕円形	0.40	0.25	0.22	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 11
P446	楕円形	0.24	0.20	0.16	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 11
P447	円形	0.44	0.42	0.51	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	し 31
P448	楕円形	0.30	0.24	0.19	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	し 31
P449	—	—	—	0.33	H9 に切られる。	10YR3/2 7/4 ローム含。	は 28
P450	楕円形	0.40	0.24	0.18	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	き 12
P451	楕円形	0.30	0.20	0.12	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	け 12
P452	楕円形	(0.36)	0.30	0.19	調査区外にのびる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	け 12
P453	不整形	(0.76)	0.22	0.17	P54 に切られる。	10YR3/2 7/4 ローム少含。	け 12
P454	楕円形	0.50	0.20	0.16	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	く 13
P455	円形	0.20	0.20	0.18	—	10YR3/2 7/4 ローム少含。	—
P456	楕円形	1.78	0.47	0.31	P348 に切られる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 23
P457	楕円形	0.70	(0.34)	0.20	P275 に切れる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	け 23
P458	楕円形	0.66	0.41	0.32	P338 に切れる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	こ 22
P459	—	—	—	0.23	P243 に切れる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 20
P460	楕円形	0.64	0.43	—	—	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 20
P461	—	—	—	0.16	P211 に切れる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 20
P462	円形	0.97	0.97	0.32	調査区外にのびる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 19
P463	楕円形	0.40	0.32	0.22	P88 に切られる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 18
P464	楕円形	0.32	0.24	0.16	F1P2 に切られる。	10YR2/2 7/4 ローム少含。	き 19
P465	円形	0.40	0.38	0.42	—	10YR3/2 7/4 ローム含。	き 22
P466	楕円形	(1.08)	0.76	0.64	カクランに切られる。	10YR4/2 7/4 ローム多含。	く 29
P467	楕円形	0.80	0.64	0.42	—	10YR4/2 7/4 ローム多含。	け 29
P468	円形	0.64	0.62	0.88	—	10YR4/2 7/4 ローム多含。	け 29
P469	楕円形	0.72	0.38	0.18	—	10YR4/2 7/4 ローム多含。	け 30
P470	楕円形	0.24	0.28	0.16	調査区外にのびる。	10YR4/2 7/4 ローム多含。	く 28
P471	楕円形	(0.60)	0.42	0.28	調査区外にのびる。	10YR4/2 7/4 ローム多含。	こ 29
P472	楕円形	0.52	0.45	0.50	—	セクション囲有。	き 19
P473	楕円形	0.68	0.60	0.44	H11 を切る。	10YR4/3 2/2・10R7/1 黏土少含。	て 25
P474	楕円形	0.52	0.40	0.54	H8 を切る。	1-10YR4/4 6/4 黏土少含。柱底 10YR2/2	う 24
P475	楕円形	0.86	0.65	0.37	—	—	け 21
P476	楕円形	0.88	0.56	0.16	—	—	う 23





H 1号住居址 完掘



H 1号住居址 掘方



H 1号住居址 遺物出土状況



H 2号住居址 完掘



H 2号住居址 カマド



H 2号住居址 掘方



H 3号住居址 完掘



H 3号住居址 挖方



H 5号住居址 完掘



H 5号住居址 カマド



H 4号住居址 完掘



H 6号住居址 完掘



H 7号住居址 完掘



H 8号住居址 完掘



H 9号住居址 完掘



H 9号住居址 カマド



H 10号住居址 完掘



H 10号住居址 掘方



H 10号住居址 カマド



H 11号住居址 完掘



H 11号住居址 カマド



H 12号住居址 完掘



H 12号住居址 掘方



H 13号住居址 完掘



H 13号住居址 カマド



H 13号住居址 カマド芯材



H 14号住居址 完掘



H 14号住居址 挖方



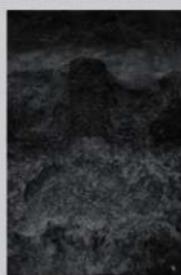
H 15号住居址 完掘



H 15号住居址 挖方



H 15号住居址 カマド



H 15号住居址 カマド掘方



H 16号住居址 完掘



H 16号住居址 カマド



H 16号住居址 掘方



H 16号住居址 旧カマド



H 17号住居址 完掘



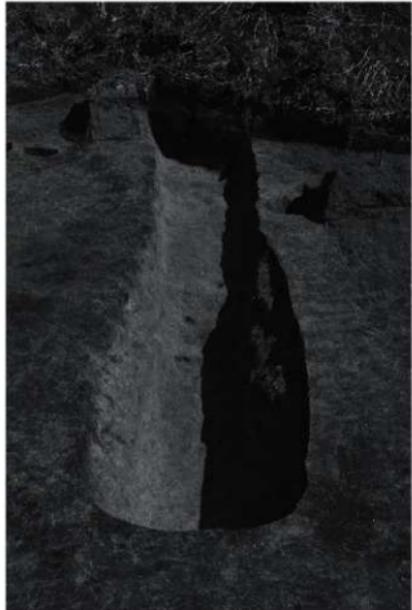
H 18号住居址 完掘



M 1号溝址 土層



H 18号住居址 カマド



M 1 号溝址 南端部



M 1 号溝址 中間部



D 7 号土坑



D 5 号土坑



D 6 号土坑



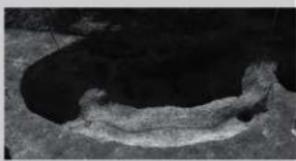
D 8 号土坑



D 9 号土坑



D 10 号土坑



D 14 号土坑



D 11号土坑



D 12号土坑



D 15号土坑



D 13号土坑周边



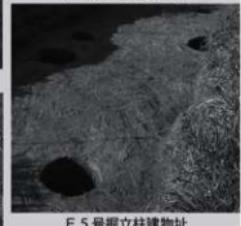
F 1号掘立柱建物址



F 3号掘立柱建物址



F 4号掘立柱建物址



F 5号掘立柱建物址



F 2号掘立柱建物址



道路予定部分全景



H 1 号住居址出土遺物 (1)



H 1号住居址出土遗物(2)



H 2号住居址出土遗物



2



4



5



H 3号住居址出土遗物(1)



10



11



13



4



5



7

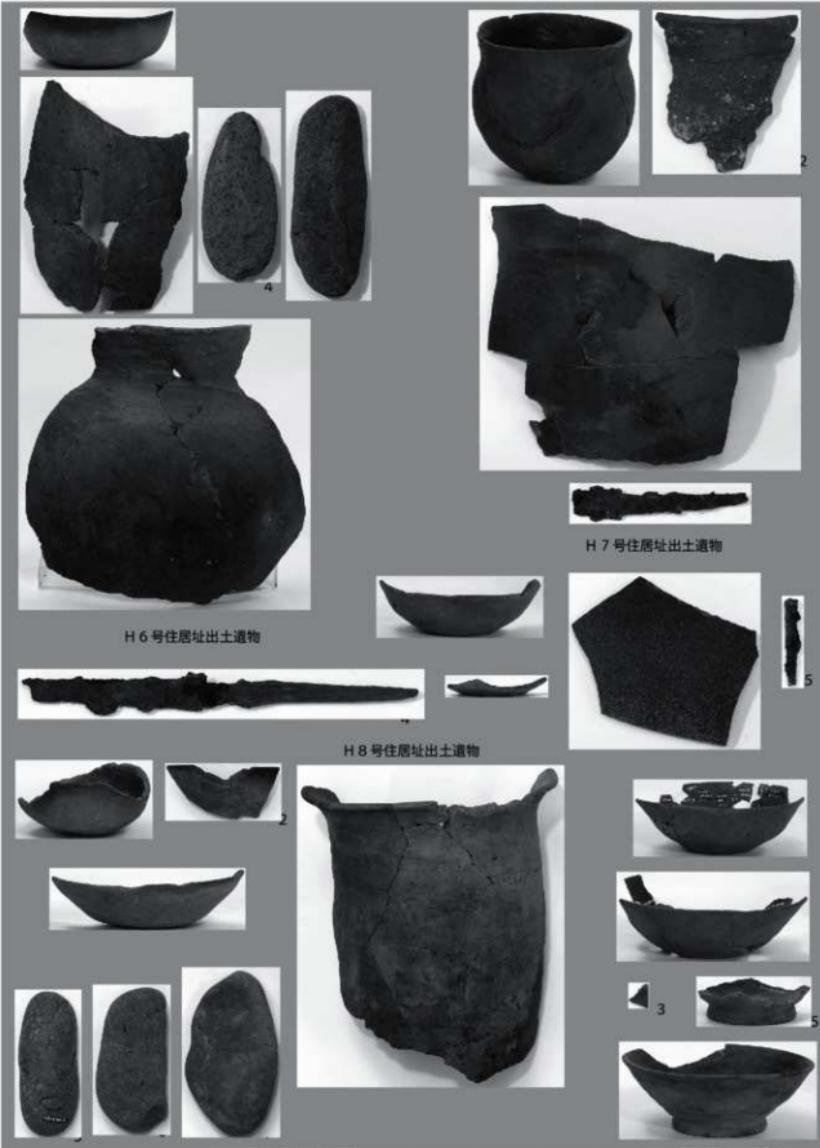
H 4 号住居址出土遺物

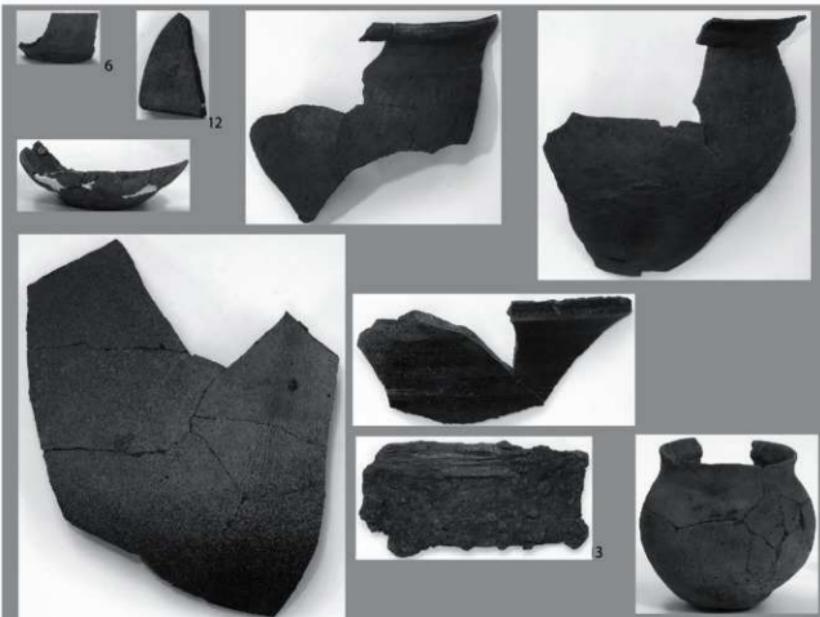


16



H 5 号住居址出土遺物





H 9号住居址出土遗物 (2)



H 12号住居址出土遗物

H 10号住居址出土遗物



H 13号住居址出土遗物



H 14号住居址出土遗物



H 15号住居址出土遗物



H 16号住居址出土遗物



H 17号住居址出土遗物



H 18号住居址出土遺物

M 1号溝出土遺物



土坑出土遺物



遺構外出土遺物

P170

ピット出土遺物

報 告 書 抄 錄

ふりがな	しもしばみやいせきろく
書名	下芝宮遺跡VI
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書 第245集
編集者名	小林眞寿
編集機関	佐久市教育委員会
発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	20170331
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀 5953
ふりがな	しもしばみやいせきろく
遺跡名	下芝宮遺跡VI
ふりがな	ながのけんさくしながとろしもししばみやななひゅくはちじゅういちのごほか
遺跡所在地	長野県佐久市長土呂下芝宮781-5他
遺跡番号	8
北緯	36.17.24.0381
東経	138.28.26.8505
調査期間	20160301 - 20161220
調査原因	集合住宅建設
調査面積	1,906m ²
種別	集落遺跡
主な時代	古墳～平安時代
遺跡概要	遺構—竪穴住居址18（古墳～平安）、掘立柱建物址4（古墳～平安）、土坑16（古墳～平安）、溝1（不明）、ピット471（古墳～平安・不明） 遺物—土師器（古墳時代後期～平安）、須恵器（平安）、繩文土器（前～後期）、石器・石製品、鉄器
特記事項	古墳後期、平安時代の集落址

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第245集

芝宮遺跡群 下芝宮遺跡VI

平成29(2017)年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

社会教育部 文化振興課文化財事務所

〒385-0006 長野県佐久市志賀 5953

Tel. 0267-68-7321

印 刷 所
